

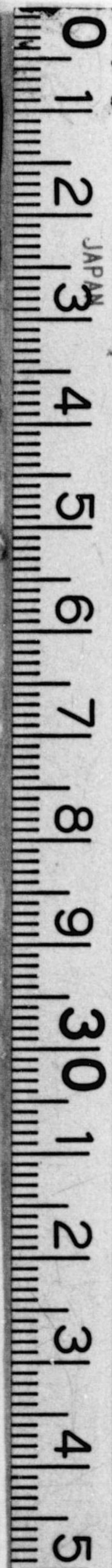
a392-6



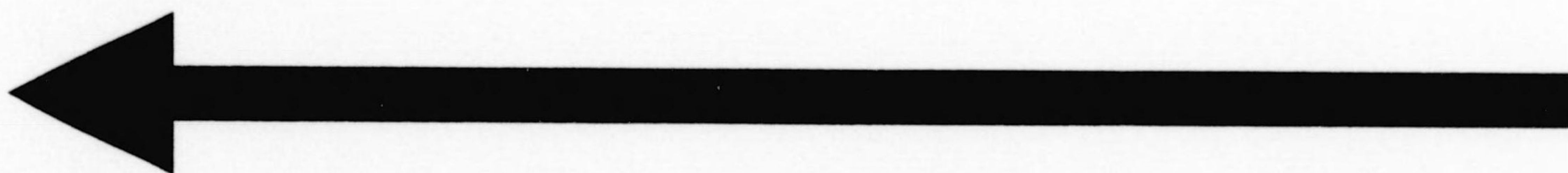
\*00015461 \*

392

2  
6



始



斗 7E-87

偕行社藏版

魯土戰記

全

明治廿三年一月

陸軍工兵大尉落谷豐三郎  
陸軍步兵大尉深谷又三郎

編纂

2392  
6



15461

千八百七十七年 魯土戰史筆記第一回 明治二十年十二月十六日

魯土戰爭ノ原因及ヒ成立ヲ精密ニ述ント欲セハ一朝一夕ニ於テ能クスヘキニ非ラス

實ニ二百年以前ヨリ兩國間ニ於テ戰爭ノ間斷ナク殊ニ終リノ七十年間ニハ三回ノ戰爭アリ毎戰數年ヲ費セリ而シテ其原因トスル所ノ者ハ常ニ異ナルヲナク只魯國ハ土耳其人ヲ歐洲ヨリ驅逐セントスルニ他ナラス

兩國戰爭原因ノ概略ヲ述フルカ爲メニハ先ツ歐羅巴歴史ノ大略ヨリ述ヘサル可ラス

羅馬起ルニ方テヤ先ツ地中海沿岸諸國ヲ略ス其版圖ハ遂ニ亞弗利加北部埃及、亞細亞ノ西部及ヒ歐羅巴全部ニ亘レリ而シテ羅馬ノ故國ハ伊太利ナリ

羅馬己ニ絶大ノ版圖ヲ有ス故ニ之ヲ經理スル固ヨリ困難ナリ此ヲ以テ耶蘇紀元後四百年ニ至テ遂ニ國ヲ二部ニ分テリ即チ西半部ヲ羅馬帝國東半部ヲ希臘

帝國トナス

羅馬ノ二分セシハ又タ宗教ニ原因セリ即チ東部ニハ希臘教行ハレ西部ニハ羅馬教行ハル

當時獨乙人ハ獨乙ノミニ居住セスシテ羅馬國內ニモ散在セリ故ニ遂ニ羅馬舊國ヲ畧シテ其西部ニ一國ヲ建ツルニ至レリ

是ト同シク「スラーブ」人ハ希臘ノ北部即チ「セルビ」及ヒ「ブルガリー」ニ來リ住ス

魯士亞「セルビ」及ヒ「ブルガリー」ハ宗教上ノ同黨派ナリ

此「スラーブ」人ノ侵入ニモ關ハラズ希臘ハ今ヲ去ル四百年前迄尚ホ能ク其帝

國ヲ保チシト雖モ土耳其人漸次歐州ニ侵入シ且ツ歐羅巴及ヒ亞細亞ノ兩方ヨリ希臘ヲ攻撃セシヲ以テ其都府「コンスタンチノツプル」ハ土耳其人ニ略取セラレタリ是レヨリ「コンスタンチノツプル」ハ「土耳其ノ首府トナレリ

Constantinople

土耳其人ノ歐州ニ侵入スルヤ初メ亞弗利加ノ北緣ヲ悉ク征服シ又小亞細亞ヲ

占領シ猶ホ希臘半島ヨリ獨乙ニ向フ之ニ抗戰センカ爲メ奧地利ハ「ホンヅリ

」ト連盟シテ奧地利帝國ヲ建ツ

又土耳其人ハ「スラーブ」人ノ住スル南部ノ地即チ「ボスニ」「セルビ」及ヒ「ビ

ルガリー」ヲ征服シ其他今日ノ王國「ルーマニ」ヲモ從へ猶ホ魯士亞ニ侵入シ

テ黑海沿岸ノ地方ヲ略取セリ

此時ニ當リ魯士亞人ハ韃靼人ノ侵略ヲ受ケ遂ニ之ヲ貢セサル可ヲサルニ至レリ

然レモ獨乙人ハ大戰ノ後土耳其人ヲ漸次ニ擊退シ魯士亞人モ亦漸次韃靼人ノ羈束ヲ脱シテ獨立スルヲ得タリ

魯士亞ノ獨立スルヲ得ルヤ更ニ土耳其國ニ對シ「スラーブ」種族ヲ獨立セシメ且ツ土耳其人ヲ歐羅巴ヨリ驅逐シ猶ホ亞細亞ニ於テモ其背後ヲ包圍シテ土耳

古人ヲ厭縮セントセリ

魯士亞人常ニ思ラク「ボスニ」「セルビ」及ヒ「ビュルガリー」ハ同宗教ヲ奉スル  
ナリテ之ヲ合併スルハ正理ニ戻ルヲナシト  
*Bosnie* *Serbie* *Bulgarie*

實ニ魯士亞ハ此目的ヲ貫カンテ欲シテ連綿絶ユル期ナシ故ニ歐羅巴諸國ニ  
シテ若シ之ヲ黙視セハ魯國ハ能ク其愆ヲ逞フセシナラン

然レモ魯國ハ己ニ強大ノ版圖ヲ有ス若シ土耳其ヲ覆滅セハ歐羅巴ニ非常ノ不  
平均ヲ生スヘシ是ヲ以テ歐洲諸國ハ常ニ之ヲ妨ケンテ計レリ而ノ土耳其人  
ノ多ク援助ヲ得シモノハ英國トス

魯國ノ志望ハ己ニ前述スル如シ之カ爲メ「スラーブ」人ノ住スル地方ニ煽動者  
ヲ送り反亂ヲ勸誘セシム是レ此地方ニ於テ反亂ヲ起セハ土耳其人ハ之ヲ處ス  
ルニ慣習ノ慘忍ヲ以テスヘシ即チ魯國ハ之ヲ口實トシテ戰端ヲ開カントスル  
モノナリ

又魯國ハ土帝ノ下ニアル「スラーブ」人ヲ保護センコトヲ揚言セリ

土帝ハ此他國ノ關涉ヲ嫌厭ス此ニ於テカ戰爭起ル

哥利米戰ハ千八百五十四年ヨリ五十五年ニ至リシモノニシテ最後ヨリ第二ノ  
戰爭ナリ

魯國ハ軍隊ヲ土國ノ北部ニ進入セシム

英佛伊三國ハ魯國ノ處置不正ナルヲ以テ同盟シテ土帝ヲ援ク

土軍ハ魯軍ヲ退ク又英佛兩軍ハ哥利米ニ上陸シテ「セバストポール」ヲ攻圍ス  
*Sebastopol*

魯軍戰敗レ遂ニ千八百五十六年平和ノ盟ヲ爲ス

其條約概テ左ノ如シ

魯國ト土國ノ中間ニアル國ヲ獨立ト見做ス即チ「ルーマニ」「セルビ」是レ  
ナリ  
*Roumanie* *Serbie*

又魯國ノ艦隊黑海ニ入ルヲ禁止ス

此條約ニ於テ魯國ハ多少其志望ヲ遂ケタルモノ、如シト雖モ「ルーマニア」<sup>Roumanie</sup>、「セルビ」<sup>Serbie</sup>ハ唯表面ノミ獨立ニシテ隱然土耳其政府ノ關涉ヲ受クルモノナリ又「ブルガリア」<sup>Bulgarie</sup>及ヒ「ボスニア」<sup>Bosnie</sup>ハ眞實ノ土領トス此ニ於テカ魯國ノ慾望尚ホ未タ止マス常ニ戰端ヲ開クノ期ヲ待ツ久シ

哥利米戰ノ勝利ハ土國ニアリト雖モ實ハ英佛ノ力多キニ居ル然ルニ此平和ノ後十四年ニシテ普佛ノ大戰アリ而シテ佛國全ク敗ス

魯國ハ佛國ノ敗スルヲ聞クヤ直ニ條約ヲ破リ黑海ニ艦隊ヲ浮ヘ又舊來ノ義務ヲ履行セスト明言セリ

是レヨリ先キ英佛同盟軍ノ爲メ魯國艦隊ハ壊滅セラレ黑海内魯艦一隻ヲ見スト云フ

此時ニ當リ佛國ハ此條約ヲ履行セシムルノ力ナク英國モ亦獨立シテ之ヲ責ルヲ欲セス是ヲ以テ魯國ハ其意ヲ恣ニスルヲ得タリ

千八百七十五年ニ於テ「ボスニア」<sup>Bosnie</sup>ノ「ヘルゼゴビヌ」<sup>Herzegovine</sup>地方ニ於テ反亂アリ續テ「ブルガリア」<sup>Bulgarie</sup>モ又土帝ニ反ス是レ蓋シ魯國ノ煽動ニ因ル

土帝ハ慣習ノ慘酷ヲ以テ「ブルガリア」<sup>Bulgarie</sup>ヲ鎮壓セリ

次ニ「ボスニア」<sup>Bosnie</sup>ノ「ヘルゼゴビヌ」<sup>Herzegovine</sup>ヲ鎮定セントセシモ山國ニシテ交通不便且ツ「モンテネグロ」<sup>Montenegro</sup>モ亦興テ亂ヲ援クルニ至リ之ヲ制服スルヲ愈々困難トナレリ

勢ヒ此ノ如キヲ以テ他ノ小國ニモ反動ヲ生シ即チ「セルビ」<sup>Serbie</sup>ハ全ク獨立シテ「モンテネグロ」<sup>Montenegro</sup>ト共ニ土帝ニ抵抗セリ

然レモ土帝ハ其后「ボスニア」<sup>Bosnie</sup>ヲ制服スルヲ得シヲ以テ直チニ「セルビ」<sup>Serbie</sup>ヲ撃テ之ヲ破ル此ニ於テ「セルビ」<sup>Serbie</sup>ハ復タ土帝ノ意ノ如クナラサル可ラサルニ至レリ

是ヲ以テ魯國ハ土帝ト「セルビ」<sup>Serbie</sup>ノ間ニ平和ヲ爲サシメタリ且ツ魯國ハ土帝ニ對シ「スラヴ」<sup>Slaves</sup>人ノ待遇ヲ特別ニ爲サンヲ請求セリ

此談判ノ成功ヲ期センカ爲メ千八百七十六年魯國ハ數部分ノ軍隊ニ出師準備

ヲ爲サシメタリ

故二千八百七十六年ニハ魯土兩國ノ間ニ殆ント開戦セントスルノ景況ヲ現出  
ヒリ歐羅巴ノ他ノ諸國ハ頻リニ其中裁ヲ試ミタリ此談判ハ殆ント一ヶ年ヲ經  
過セリ然レモ土帝ハ魯國ノ請求ヲ一ツモ許諾スルヲナク悉ク之ヲ斥ク

此ニ於テ魯國ハ千八百七十七年四月廿四日宣戦ヲ布告ス實ニ之ヲ以テ魯土戰  
争最后ノモノトス

今戦闘ノ現象ヲ述フル前之ニ關係アル地勢ヲ述フ

此戦争ハ歐羅巴ト亞細亞ノ兩地ニ於テ實行セリ

此時歐羅巴ニ於テハ魯土兩國直接ニ界ヲ接セス何トナレハ「セルビ」及ヒ「ル  
ーマニ」ハ其中間ニアリ而シテ此兩國ハ前年ノ戦ニ於テ獨立シアレハナリ  
然ルニ魯國ヨリ土京「コンスタンチノツブル」ニ至ル最近路ハ亞細亞ノ部分ニ  
非スシテ此小國ヲ通過ス故ニ戦争ハ首トシテ歐羅巴ノ部分ニ成立セリ即チ東  
Constantinople

南ノ半島是ナリ

此半島ハ一政府ノ下ニアラサルヲ以テ以太利、西班牙ノ如ク國ノ名ヲ以テ半  
島ノ名トスル能ハス故ニ地勢ニ因テ名ツク即チ「バルカン」山アルヲ以テ「バ  
ルカン」半島ト稱ス  
Balkan

此戦争ノ始マル前ニ此半島ハ土耳其ノ領有トス而シテ其西端ハ奧地利ニ至ル  
土耳其ノ北部ニハ「セルビ」<sup>Serbie</sup>「ルーマニ」<sup>Roumanie</sup>アリ又半島ハ「バルカン」<sup>Balkan</sup>山脉ニ因リ東  
西ニ部ニ分タル西部ニハ「セルビ」<sup>Serbie</sup>「ボスニ」<sup>Bosnie</sup>アリ東部ニハ「ルーマニ」<sup>Roumanie</sup>「ベルガ  
リ」<sup>Bulgarie</sup>アリ戦争ノ起原ハ「ボスニ」ニ於テ始マレリ然レモ實際ハ東部ニ於テ多  
ク戦闘ヲ爲セリ  
Bosnie

「ルーマニ」ハ其形状恰モ半圓ノ如シ西ハ奧地利ト界シ南ハ「ダニユーブ」<sup>Danube</sup>河ヲ  
以テ「ベルガリ」<sup>Bulgarie</sup>及ヒ「セルビ」<sup>Serbie</sup>ト境ス又東北ハ魯士亞ト接ス  
地勢概テ平坦開濶ニシテ樹木少ク土壤膏腴ナレモ人民農耕ヲ勉メス故ニ國土

「ルーマニ」  
國勢一斑

益、荒蕪ナリ蓋シ土田膏腴ニシテ人民農耕ヲ勵マサルハ下之ヲ作り上之ヲ取  
ル厭クヲ知ラサルニ因ル其國勢ノ振ハサル恰モ朝鮮ト一般ナリ  
加之土耳其人ノ歐羅巴ニ對テ戰爭スルハ常ニ此地方ハ戰場トナレリ而シテ  
其戰鬥ハ常ニ慘憺ヲ極メ地方存在ノ資源ハ概テ燒却セララル  
土耳其人ハ往々戰場ヲ清ムルヲ爲セリ

哥利末戰ノ後土帝ハ「ルーマニ」ニ特別ニ君主ヲ置ク然レモ其君主ハ常ニ民ヲ  
虐シ己レヲ富スヲ是レ勉メ富ヲ得レハ則テ退ク如此新陳代謝シテ數十年間  
ヲ經過セリ故ニ其國勢思フヘシ

此國數條ノ河川アリ北ヨリ南ニ流レ「ダニユーブ」川ニ朝ス水勢激湍河底深フ  
シテ水常ニ少シ沿岸絕壁ノ多キ殆ント日本ノ河川ニ似タリ村落多ケレモ貧ナ  
リ家ハ粘土ト木材ヲ以テ成立ス道路ハ悉ク不良ニシテ當時要塞ノ設置ナシ然  
レモ五穀良ク登リ土民多ク牧畜ニ從事スルヲ以テ侵入軍隊ハ一時其資物ヲ用

ユルヲ得ヘシ

首府ニアリ「ヤッシー」及ヒ「ブーカレスト」トス「ブーカレスト」ハ全國ノ主府  
ニシテ「ジャッシー」ハ當時ノ主府ナリ

魯國ヨリ「ダニユーブ」川ニ至ル只二條ノ大道路アルノミ他ノ一路アリト雖モ  
支道ナリ一鐵道アリ魯國ヨリ「ブーカレスト」ヲ經テ「ダニユーブ」川ニ至リ東  
方「ヴァルナ」ニ至ル又二個ノ支線「ブーカレスト」ヨリ西方及ヒ北方ニ通ス

鐵道ノ構造概テ不良ニシテ其諸橋梁ノ如キ極テ脆弱就中運行材料頗ル欠乏  
ナリ

「シリストリ」ヨリ下流「ダニユーブ」河ト黑海間ノ地ヲ「ドブルチヤ」ト稱ス此  
地方ハ最モ緊要ナルヲ以テ特ニ注目スルヲ要ス何トナレハ土京「コンスタン  
チノツプル」ニ至ル最近路ハ此所ヲ通過スレハナリ然レモ此地荒蕪ニシテ人  
口亦少ナシ北部ニ山アリ稍峻ナリ此近傍ノ地ヲ「マッテン」ト稱ス

「ドブルチヤ」  
Dobruja

Matchin



Cayal  
en Roumanie

地質ハ鼠色ヲ帯ヒタル沙土ニシテ水容易ニ滲透ス故ニ水源ナク山間ニ小川ナシ水ヲ得ルハ唯々深井ニ依ルノミ  
耕作ハ殆ント無シト云フモ可ナリ故ニ軍隊ヲ養フノ資物ナク殊ニ馬糧ヲ得ル能ハス其化樹木稀ナリ

「ダニユーブ」河畔「ケエルナボダ」ヨリ海岸「コスタンツア」ニ至ルノ間堤堰ヲ築ケリ是レ往時ノ防禦工事ナリシモ今時用ユルニ足ラス

其堤堰ノ南方約五十里(日本里)ハ瘠地ニシテ軍隊ノ糧秣ヲ得ル能ハス

「ビュルガリ」  
「國勢」  
斑

「ビュルガリ」ハ「バルカン」山ニ依テ二分セラル而シテ「バルカン」山ト「ダニユーブ」河間ニアル地ハ豊饒ナリ然レモ土耳其古政府ノ下ニ在ルヲ以テ殆ント耕作ナシ但シ此國「ルーマニ」ニ比スレハ荒蕪ノ度少ナシ

村落ハ其數少ナシト雖モ各部落ハ大ナリ全國ノ地質ハ粘土ニシテ原野到ル處秣草ヲ生ス唯降雨ニ際スレハ泥濘トナリ軍ヲ行ル頗ル困難ヲ醸スノ患アリ

河川ハ北ニ向テ「ダニユーブ」川ニ朝ス溪谷頗ル深シ之ヲ登降スル最モ難シ又多ク橋梁ノ架設ナシ

冬季降雪多ク夏候旱魃甚シク全ク竭水トナルコトアリ通國牛馬五穀アリ

大市街ハ首トシテ「バルカン」山及ヒ「ダニユーブ」川ニ接ス

「ダニユーブ」川ニ沿フテ多ク防禦工事ヲ施ス又内地ニモ二個ノ要塞アリ即チ「ジュームラ」及ヒ「ワルナ」是レナリ此兩要塞ト「ダニユーブ」沿岸ニアル

「ルーチュク」及ヒ「シリストリ」兩要塞ト共ニ四角形ヲ爲ス故ニ其中間ニ兵ヲ配置セハ四方互ニ應援スルニ便ナリ

「ダニユーブ」川ハ歐洲第二ノ河川ニシテ源ヲ南獨乙ニ發シ堤地利及ヒ「ルト」

マニ」ヲ經テ黒海ニ朝ス

此川堤地利ヲ離ル、所ニ岩石ノ峻山アリ幅狹隘トナル之ヲ稱シテ鉄門ト云フ故ニ此上流幅廣闊ナルアルモ此ニ至テ急流トナル又河底ニ洲アリ故ニ水多シ

「ダニユーブ」  
「河」  
「班」

difficult to cross to south

ト雖モ航行スル能ハズ

鉄門ヨリ下流ハ河ノ性質一變シ河岸漸次殆ント平坦トナル而シテ四十里(日本里)ノ積地アリ河ノ左岸ハ平坦ニシテ右岸ハ絶壁ナリ而シテ其性質ハ「ウイヂン」ヨリ海ニ至ル迄殆ント變セス故ニ此方ヨリ「ダニユーブ」川ヲ渡ラントスルハ最モ困難ナリ又左岸ニハ死水及ヒ沼澤地多シ且ツ増水ニ際シテハ此岸常ニ溢ル故ニ近接スル難シ此ヲ以テ「ルーチユク」ヨリ河口ニ至ル迄只一ノ渡過スヘキ點アルノミ然ルニ此點ニハ土國堡ヲ築テ之ヲ拒止ス  
此地方ハ數、戦争アリシヲ以テ近接シ得ヘキ諸點ニハ悉ク要塞ヲ設ク然レモ多クハ壞廢セリ就中堅固ナルモノ左ノ如シ

「ウイヂン」ニコポリー「シストバ」ルースチコック「及」シリストリナリ  
Widin Nikopoli Kistova Routschouk Milistrie  
「ダニユーブ」川防禦ノ爲メ土國ハ一艦隊ヲ有ス其船數二十三就中鋼鐵艦十一艘全艦隊ノ砲數七十九門ナリ  
Danube

The Danube  
River

山「バルカン」

又河口ニハ土人砲臺ヲ築キ且ツ海ヲ制スルヲ以テ魯國ハ軍艦ヲ「ダニユーブ」川ニ入ル、能ハス唯分解セシ漁船ヲ漁車ニテ輸送セリ  
Danube

鐵門ヨリ河口ニ至ル迄最狭所ト雖モ九百米ヲ下ラス又深キ所ハ七十「ヒイト」ヲ過ク故ニ架橋セント欲セハ浮游橋梁ヲ以テセサル可ラス

「ソビヤ」ハ「バルカン」山ノ中央ニアリ四方峻山ヲ以テ包ム「ブルガリー」今日ノ首府ナリ  
Sophia Balkan Bulgarie

「ソビヤ」ノ北ニアル山脉ハ「ピロツト」「セルビ」國內ヨリ起リ黒海ニ至リ「ミシブリ」ノ絶壁ヲ以テ終ル  
Sophia Pirof Mi

此ノ山脉ニ因テ河孟ヲ成形ス即チ諸水ハ之レヨリ南北ニ流ル只「ソビヤ」ノ南方ヨリ出ツル一河「イスケル」アリ此山脉ヲ横斷ス  
Isker

「ソビヤ」ノ北方「イスケル」川ノ傍ニ「エトロポール」「バルカン」山(第五號圖)アリ其東方ニシテ「バルカン」山ノ北面ニ左ノ有名ナル諸地アリ  
Sophia Isker Ethropol Balkan

「テテウエン」「セルウイ」「プレブナ」「ガブロウア」「エレナ」又「ミジブリ」ハ  
Teteven Selwi Plewna Gabrova Elena Misivri  
山ノ東方ニアリ

山ノ南面ニハ左ノ如シ

「ソヒヤ」「ストラチツア」「カルロウア」「ケザンリック」「スリウノ」「カルナ  
Sophia Slatiza Karlova Kezanlik Slivno Karnaba  
バ」等

此山脉ハ西部ニテ千五百米東部ニテ千三百米ノ真高ヲ有ス而シテ西部ニ在テ  
ハ夏季ト雖モ絶エス雪ヲ戴ク南面ハ峻ニシテ北面ニハ多クノ支脉アリ各支山  
ノ頂ハ高原ヲ爲スト雖モ其縁端常ニ斷岸ヲ以テ終ル故ニ二三ノ箇所ヲ除クノ  
外登ル能ハス支山ニハ灌木繁茂シ本山脉ハ森林稠密ス土耳其人往々斬伐セシ  
所アルノミ故ニ道路ヲ除クノ外山ヲ横通スル能ハス  
道路ハ粘土ナルヲ以テ降雨ニ際シテハ行進困難ナリ今ヲ去ル五十年前ハ道路  
ト雖モ馱馬ヲ通過セシメ得シノミ當時首ナル道路ハ「シプカ」峠ヲ過ク是レ嘗  
Shipka

道首ナル大街

テ土帝ノ通過セシ所ナリト云フ

近來二三ノ街道ヲ作り車馬ヲ通スルヲ得ルニ至レリ

此山脉ハ地勢ノ爲メ防禦ニ便ナリ

第一ノ最良ナル道路ハ「ウヒゲン」ヨリ「ピロット」ヲ經テ「ソヒヤ」ニ至ルモノ  
ナリ Widin Prot Sophia

第二ノ道路ハ「ダニユーブ」河畔「ローム」「ロームバランカ」ト云フヨリ「ベル  
Danube Lom Tomplanika Ber-

コビツア」ヲ經テ「ソヒヤ」ニ至ル  
Kowitz Sophia

第三ノ道路ハ「ソヒヤ」ヨリ「タスキイ」セン「タルクハニ」「ジヤプロニツア」  
Sofia Tskienssen Orhanie Jablonitza

「プレブナ」ヲ經テ「ニコポリ」ニ至ル  
Plevna Nikopoli

第四ノ道路ハ「ルーチユク」「ビエラ」チルノヴァ」「ガブロヴァ」「シプカ」峠、  
Routschouk Bielo Firnova Gabrova Shipka

及ヒ「ケザンリック」ヲ經テ「アンドリノプル」ニ至ル  
Kezanlik Andrinople

第五ノ道路ハ「ナスマンバザール」ヨリ「カザン」「スリウノ」「ヤンボリ」ヲ經テ  
Osmanbazar Kazan Slivno Yamboli

「アンドリノッブルニ至ル  
Andrinople  
其他軍路トシテ用ユルモノ左ノ如シ

「ルーチユク」ヨリ「シエームラ」ヲ經テ「ワルナ」ニ至ル  
Routschouk Schoumna Warnia  
又「アンドリノッブル」ヨリ「カザン」ノ東ヲ過キ「プラヴァヂ」ヲ經テ「シリスト  
Andrinople Kazan Prawadi  
リ」ニ至ル者アリ共ニ敷石道ナリ此二道ハ四角要塞ト「アンドリノッブル」トナ  
Andrinople  
連絡スルモノナリ

千八百七十七年 魯土戰史筆記第二回

明治廿年十二月廿三日

歐羅巴及亞細亞ニ於テ爲セシ兩戰爭ハ互ニ密着ノ關係ヲ有セサルヲ以テ先  
ツ歐羅巴部内ニ在リシ戰爭ヲ講セントス

戰爭前ニ於ケル魯土兩軍ノ景況ヲ知ルヲ要ス抑魯士亞國ハ方域絶大ナルモ其  
大サニ比スレハ人口寡少ナリ此國、軍隊ヲ編制セシハ殆ント二百年前ニ在リ  
キ實ニ魯國ハ廣袤大ニシテ交通便ナラス故ニ歐洲他ノ諸國ニ比シテ勢ヒ衆多  
ノ軍隊ヲ常置セサルヲ得ス

世人ノ知ル如ク魯國ハ戰役ニ從事シ得ヘキ者ニハ平時ヨリ常ニ武器ヲ携帯セ  
シム是ヲ實行センカ爲ソ兵役ノ義務頗ル永シ今ヲ去ル五十年前迄ハ兵卒ノ服  
役年期ハ二十ヶ年トス故ニ兵卒ヲ補充スルノ必用ヲ要セサルノミナラス年々  
兵卒ヲ徵集セスシテ毎三年若クハ毎四年ニ徵募セリ

魯國農民ハ土地生産物ヲ盡ク領主ノ所有ニ属シ領主ノ奴隸タルニ過キス故ニ

兵役義務ハ領主ノ爲メ之ヲ免ス若シ領主兵ヲ出スヘキ義務ニ應スル時ハ其土  
 民ノ一部ヲシテ農耕ヲ止メシム此間領主農耕ノ益ヲ得ル能ハス  
 領主ハ兵ヲ出スヲ好マサル故政府モ亦屢新兵ヲ募ラサリシ此新兵ハ二十年  
 間ノ兵役義務ヲ有シ役畢ルノ后尚ホ再役ヲ希望スルモノハ政府之ヲ傭兵トシ  
 テ採用ス兵卒ノ傭兵ヲ志願スルモノ頗ル多シ是レ各自兵團ヲ脱スルニ際シ政  
 府ヨリ一モ救助ヲ得ルヲナク爲メニ活路ヲ得ルノ方法ナキニ根スト雖モ之レ  
 カ爲メ魯國軍隊組織上屢新兵ヲ募ルヲ要セサルノ利アリ  
 軍隊ハ平時ト雖モ戰時人員ヲ具備セリ然レモ一二年間新兵ヲ徵募セサル時ニ  
 在テハ多ク欠員ヲ生ス是レ常ニ魯國軍ノ不利トスル所ナリ  
 此ノ形勢ノ一變セシハ魯國內政ヲ改革セシ時ニ起レリ殊ニ農民領主ノ奴隸タ  
 ルヲ免カレシ時即チ「哥利米」役後ニ在リ  
 今ヲ去ル十三年即チ千八百七十四年ニ於テ始メテ必任義務ノ法ヲ布ク後三年

編者記ス  
 某書ニハ千  
 八百七十四  
 年一月一日  
 法律ニ因リ  
 現役六年預  
 備役九年ニ  
 定ムトアリ

編者記ス  
 魯國ニハ十

ニシテ魯土ノ役起ル故ニ此義務法律ノ結果未ダ全キ能ハサルナリ  
 此役ニ方テ魯軍ノ團隊ハ尚ホ戰時定員ニ充實スルヲ得サリシ  
 服役義務ハ漸々短縮セシカ爲メ教育完全ノ豫備兵ヲ得ス服役義務ノ年限短縮  
 スレハ隨テ豫備兵ノ教育ヲ充分セシムル能ハサルハ通理ナリ  
 千八百七十四年以來常備役五年豫備役十年ト定制ス實ニ此法律ヲ永久實施セ  
 ハ魯國軍隊ハ非常ノ程度ニ達セシナラン魯土戰爭前魯國毎年新兵ヲ召募スル  
 一二十萬故ニ五年ニシテ一百万ノ現役兵ヲ得然レモ此法律ハ永續セサル前千  
 八百七十七年ノ役起レリ  
 魯軍ハ從前ノ編制ニ在テモ一般ノ出師準備ヲナサハ土耳其軍ヨリ大ニ優レリ  
 然ルニ當時魯國ハ土耳其ヲ侮リ只僅ニ南部三軍事園區及「高加索」軍事園區ニ  
 出師準備ヲ行ヒシノミ南部三軍事園區ハ即「オデッサ」「キエーヴ」及ヒ「カ  
 ルコヴ」

ルコヴ  
 Rukova

Odessa  
 Kiev  
 Kh

魯軍ハ戰時ノ外軍團ヲ編制セズ是レ常ニ軍事園區ノ編制ニ因レハナリ  
 宣戰ノ報告ハ千八百七十七年第四月廿四日ニ在リ然レモ三軍事園區ノ出師準  
 備ハ千八百七十六年十一月十三日ニ命シタリ又「高加索」軍事園區ノ出師準  
 備ハ同年十一月二日ニ令ス  
 魯軍ハ悉ク綫條銃及施條砲ヲ採用セリ開戰ニ際シ現今使用ノ「ベルダン」銃ヲ  
 用ヒント欲セシモ果サス之レニ代ユルニ一種ノ底裝銃ヲ用ユ然レモ機關ノ構  
 造錯雜ニシテ口径大ニ裝藥ノ量少シ是ヲ以テ射距離及命中界共ニ少ク一モ近  
 今要求スヘキ性能ヲ供エス  
 歩兵ハ稠密部隊ノ教法ヲ主トシ散戰順次ノ教育ニ力ヲ用井ズ是ヲ以テ魯人ハ  
 各個ノ戰鬪ニ適セス是レニ反シテ稠密兵團ハ能ク訓練シ且軍紀嚴肅ニ行ハル  
 戰時往々稠密兵團ヲ以テ劇烈ノ火戰ヲ爲スフアリ又敵ノ放火ノ下ニ在テモ依  
 然縱隊ヲ以テ働作ス實ニ驚クヘシ然レモ特別兵科及參謀部ハ教育ノ進度高シ

- 軍事園區  
 一「サンプ  
 テル」  
 二「フアン  
 ランド」  
 三「ウイ  
 ナ」  
 四「ウアル  
 フウイ」  
 五「キエ  
 ヴ」  
 六「オデ  
 ヴ」  
 七「カル  
 コ」  
 八「モス  
 グ」  
 九「カザ  
 ン」  
 十「カウ  
 カ  
 ーズ」

魯軍武器及  
 教育ノ略

魯國騎兵ハ二種ニ區別ス即定制軍騎兵及制外軍騎兵是レナリ定制軍騎兵ハ歐  
 洲他諸國ノ騎兵ニ比シ中等ニ位ス制外軍騎兵ハ世ノ所謂可薩騎兵ニシテ此編  
 制法諸國嘗テ其例ヲ見ズ原來可薩種族ハ魯國南方「ステッペン」地方乾地ノ住  
 民ニシテ殊ニ「敢」河近傍ニ多シ  
 可薩騎兵ハ一種ノ民兵ニシテ武器ノ使用ニ堪ユル者悉ク此兵ニ屬ス嘗テ鬪掠  
 ナ事トセシカ後遂ニ魯帝ニ歸服セリ千八百七十七年ノ役起ルニ當テハ之ヲ定  
 制軍騎兵ニ屬セシム此民兵ハ悉ク私馬ヲ有ス其騎乘ノ巧妙ナル實ニ驚クヘシ  
 然レモ其熟練ハ規則ニ因ラサルヲ以テ稠密襲撃ニハ適當セズ是レニ反シテ搜  
 索勤勞ニハ頗ル良シ其最モ得意トスルハ冒險敵背ニ出沒スルニ在リ  
 往古千八百十二年佛國トノ役ニ利ヲ得シハ可薩騎兵ノ力大ニ與レリ爾後ノ戰  
 争ニハ其功績漸ク少シ故ニ「哥刑米」役后編制ヲ改革シ近年遂ニ聯隊ニ編制ス  
 ルニ至レリ

編者記ス  
各步兵師團  
ハ砲兵旅團  
ヲ有ス其砲  
數四十八門  
之ヲ六中隊  
ニ分ツ  
又騎砲兵ハ  
近衛ノ三師  
六中隊其他  
軍ノ十四師  
團ノ爲メニ  
二十八中隊  
ヲ有ス  
魯軍出師準備

魯國ニテハ制外軍騎兵ハ師團騎兵トナシ定制軍騎兵ヲ以テ騎兵師團ヲ編制スルノ目的ナリ其他騎砲兵アリ一聯隊ハ六中隊ヨリ成ル砲兵ハ施條砲身ニシテ殆ント可ナレトモ土耳其軍砲兵ニ劣レリ只其利トスル所ハ多量ノ榴霰彈ヲ初メテ使用セシニ在リ魯國軍隊ニ於テ他國ト最モ異ナル制ヲ設ケシハ即チ輜重ヲ各聯隊ニ附スルニ在リ

魯國ハ千八百七十六年十一月十三日ニ南部地方三個ノ軍事園區ニ出師準備ノ命ヲ發シ次ノ六軍團ヲ編成セシム即第八第九第十第十一第十二及第十四軍團ナリ其后四周間ヲ徑即十二月十日ニ於テ第四第七及第十三軍團ニ出師準備ヲ命令セリ此軍隊ハ平時魯國中央部ニ屯在セルモノナリ此出常準備ハ多クノ時日ヲ費セリ何トナレハ當時鐵道ハ「キシユ子ーウ」ヨリ東西ニ通スル只一線路アルノミニシテ且ツ其構造ハ軍用ニ適セス殊ニ運行材

Kichenew

料及作業人員ノ欠乏セシ爲メ澁滯ヲ醸セシニ因ル又鐵道ハ單線ニシテ停車場互ニ遠隔ス故ニ一日ニ衆多ノ列車ヲ往復スル能ワサルノミナラス通過路水ニ乏シク軍隊ノ飲用水氣罐車ノ用水ヲ得ル能ハサルニ至レリ之ヲ要スルニ鐵道布設ノ方法宜シキヲ得サリシナリ

魯國ノ如キ大國ニテハ軍隊ヲ鐵道ニテ行ルモ長時間車中ニ居坐セサルヲ得ス故ニ飲水及糧食ノ具備必要ナルハ論ナキナリ鐵道ノ景況如此故ニ只四軍團ヲ集中スルニ三週間ヲ費セリ而シテ他ノ二軍團ハ海岸ニ集中ス即チ第七軍團ハ「オデッサ」第十一軍團ハ「ニコライエヴ」ニ集中シ各其地ニ駐止ス

Odesa

Nicolaiw

第八軍團ハ「チラスポール」(キシユ子ー)第十軍團ハ「グーラ」(ガルビナ) (キシユ子ー) 第九軍團ハ「ビルヅ」(キシユ子ー) 第十二軍團ハ「タルグイエヴ」(キシユ子ー) (西方ト) 第九軍團ハ「ビルヅ」(キシユ子ー) (中間ト) 第十軍團ハ「グーラ」(ガルビナ) (キシユ子ー) 第十一軍團ハ「オデッサ」(オデッサ) (北方ト)

Orguew

「ベンデル」ヨリ「ガラツ」ニ通スル鉄道ハ當時建設ナカリシカ戰役中初テ鉄道大隊之ヲ築構セリ

Bender

Galatz

魯國鐵道軌線ノ幅ハ歐洲他ノ諸國トハ其性質ヲ異ニス故ニ機關車及ヒ客車ヲ變更スルニ非サレハ國境ヲ起ユル能ハス例ヘハ「キシユチーヴ」ヨリ西ニ通スル鐵道ノ如キハ「チンゲニー」ヨリ「ルーマニ」ニ至ル間ニ於テ積ミ替ヲ爲サル可カラス集中ノ時ハ此不利ヲ著シク感ゼザリシ是レ初メハ軍隊「ルーマニ」地方ニ出テサリシヲ以テナリ

Orzheni

Romanie

Kichenav

Romanie

魯軍ハ始メヨリ作戰軍ト海岸軍トニ區別ス即チ作戰軍ハ四軍團ヨリ海岸軍ハ二軍團ヨリ成ル然レモ後ニ至リテ此兵團寡少ナルヲ感シ該國中央部ニ就テ尚ホ三軍團ヲ召集シ「キエブ」及「奧太利國境」ニ集中セリ

Kiev

各軍團ハ步兵二師團騎兵一師團ヨリ編制シ步兵一師團ハ步兵四聯隊(一聯隊ハ三大隊ヨリ成)砲兵六中隊(一中隊ハ砲八門)トス又騎兵一師團ハ騎兵十八中隊及ヒ騎砲兵二中隊

魯軍編制ノ略

ヨリ成ル己ニ述ベシ如ク步兵大隊ハ戰時人員ニ比スレハ欠員多シ故ニ一師團即チ十二大隊ノ銃ヲ合シテ一萬挺ト算ス又騎兵師團ノ兵數ハ二千五百騎及砲十二門ナリ

軍團ニ軍團砲兵ヲ屬セズ然レモ戰役中各師團ヨリ砲兵二中隊ヲ派シ軍團長ノ手裡ニ置クニ至レリ故ニ軍團長及各師團長ハ共ニ砲兵四中隊ヲ有セリ

步兵師團ハ騎兵ヲ有セサルヲ以テ其用ヲ足サンカ爲メ敢可薩騎兵聯隊ヲ編制セリ然レモ始メハ師團ニ屬セスシテ獨立シ居レリ又可薩騎砲兵ヲ編制ス

其他別働隊ヲ編制シ有名ナル將官「スコベレフ」氏ノ令下ニ屬セシム其兵團ハ高加索地方(回教ヲ奉ス)ノ人民ヲ採用セリ魯國耶蘇教ヲ信スルハ世人ノ知ル如シ

SKOBELOFF

然ルニ土耳其國人ハ回教ヲ尊崇ス故ニ魯軍土耳其ニ侵入セハ宗教戰ノ起ルヤモ期シ難シ魯帝常ニ宗教戰ノ殘酷ナルヲ諱ム故ニ之ヲ避ケンカ爲メ特ニ回教宗ノ人民ヲ用ヒシナリ是ヲ以テ高加索回教徒聯隊ヲ用ヒテ前衛ヲ編成シ土耳



古國民ニ宗教戰ナラザルヲ公ニ示サントセリ其他土國々境ノ住民ヲ懷ケントスルノ意志亦此内ニ在リ

此別働隊ニ根幹トシテ二個ノ可薩聯隊山砲二中隊及獵兵大隊四個ヲ附ス之ニ加

フルニ「ビュルガリー」ヨリ遁逃シ來レル志願兵ヲ以テス始メハ二大隊ヲ編制

セシモ后ニ志願者増加シテ遂ニ六大隊ニ至レリ此「ビュルガリー」兵團ノ幹部

ハ魯國人ニシテ「ビュルガリー」人ハ只兵卒ノミ

「ビュルガリー」ハ元來耶蘇教ヲ奉ス今來リテ魯軍ニ投シ戰ニ從フハ蓋シ其本

國ヲシテ獨立自由ニ爲サンノ目的ナリ歐羅巴部内ニ於テ用ヒシ職員歩兵十二

萬五千人騎兵一萬九千騎野砲五百十六門ナリ若シ戰時定員ニ充實セハ十七萬

人ニ至ルヘキモノナリ

海岸軍五萬六千人此戰時定員七萬人ナリ

魯軍職員ノ

後ニ至リ出師準備セシ兵團ハ右ノ諸軍ノ人員ヲ増加セリ魯國ニハ野戰軍ノ外

特別ニ編成セシ軍隊アリ即チ左ノ如シ

一軍團ニ屬セサル工兵大隊

此隊ハ戰役中殊功ヲ奏センモノナリ即チ「ベンデル」ヨリ「ボルグラード」ニ

一鐵道大隊 至ル鐵道及ヒ「ヂュルジエウ」ヨリ「シストウア」ニ至ル鐵道ヲ新設セリ

一砲三百五十門ヨリ成ル攻城廠 此攻城廠ハ要塞ニ對スルノミニ非スシテ土耳其

一海軍支隊 已ニ前回ニ述ヘシカ如ク魯國ハ黑海内ニ一隻ノ軍艦ヲ有セス故ニ條

約ヲ破リテ自今黑海ニ艦隊ヲ浮泊スト揚言セシモ未ダ之ヲ實行スル

能ハサルナリ哥利米戰后六年間未ダ土耳其艦隊ニ優ルノ軍艦ヲ構造

スル能ハサルナリ又北洋ヨリ艦隊ヲ招致セントスルモ土艦海峽ヲ封

鎖スルヲ以テ能ハス是ヲ以テ止テ得ス分解セル氣船ヲ鐵道ヲ以テ

今其制ヲ建テシト雖モ條例ハ唯紙上ニアルノミニシテ之ヲ實行セサンハナリ

土耳其軍兵

編者記ス  
左表ハ豫備  
軍ヲ徵集シ  
テ戰時定員  
トナセル上  
耳古常備軍  
隊ノ總數ナ  
リトシテ其  
書ニアリ依  
ステ參考ニ  
供ス

實ニ軍隊養成ニ要スル定額ノ過半ハ常ニ將官及ヒ監督部吏員ノ私スル所トナ  
ル故ニ條例ニ掲クル所ノ定員ハ戰時ニ於テモ之ヲ充足スルヲ得ス  
是ヲ以テ左ニ述フル兵員ノ如キ實際ニ有リシヤ否固ヨリ確證スル能ハサルナ  
リ唯タ條例ニ因テ其數ヲ擧クルノミ

第三	第二	第一(近衛)	軍團ノ番号		軍屯地	歩兵		騎兵		砲兵		工兵	合計																																					
			隊數	人員		隊數	人員	隊數	人員	隊數	人員																																							
Monastir	Chumla	Constanti-nople	41	24	28	34.354	20.424	23.828	16	12	14	24	24	37	3.860	3.860	6.037	17	14	39	2.169	2.436	6.911	162	84	234	21	20	144	3.150	3.000	21.600	731	1.253	500	1	2	40	187	374	7.480	410.320	30.094	65.856	118	96	248	731	374	500

合計	第七	第六	第五	第四
	Sana	Bagdad	Damas	Erzeroum
181	20	20	24	24
153.494	17.926	17.020	20.424	20.424
86	10	10	12	12
145	10	12	24	24
23.407	10	1.930	3.860	3.860
118	6	14	14	14
20.335	911	2.436	2.436	2.436
708	36	84	84	84
207	5	1	3	12
31.050	750	300	450	1.800
3.411	204	1	149	574
47	1	1	1	1
8.789	187	187	187	187
237.105	18.898	21.873	27.357	28.707
794	46	94	96	96
2.532	204	1	149	574

土國ニハ從前一種特別ノ兵制アリタリ此兵ヲ「シヤニッセイル」ト云フ封建時  
代ノ武士ノ如ク特權ヲ有セリ實ニ此「シヤニッセイル」ノ遺弊ニ因テ土國ハ時  
世ニ應スル兵制ノ進歩ヲ妨ケラレ且ツ其國零落ヲ致スノ一基因ヲ爲セリ  
土帝「マームード」第二世夙ニ悟ル所アリ且ツ土耳其國勢ヲ恢復スルハ先ツ  
Mahmoud

「ジャニツセル」ヲ除カサル可ラスト爲ス是ヲ以テ今ヲ去ル七十年前即チ千八百二十六年ニ於テ非常ノ鮮血ヲ流シテ遂ニ之ヲ鏖殺セリ而ル后歐州諸國ニ倣ヒ斯兵制ヲ建ツ

最初先ツ外國ヨリ將校ヲ招キ人民ニ護國ノ義務ヲ負擔セシム

其法「マホメット」<sup>Mahomet</sup>「宗信者ハ兵役ニ服シ」<sup>Christ</sup>「クリスト」<sup>Christ</sup>「宗信者ハ兵役ニ服セシメス之レニ替ユルニ軍稅ヲ出サシム」

「クリスト」<sup>Christ</sup>「宗信者ヲシテ武器ヲ取ラシメサルハ所以アルナリ即チ歐洲中此宗ノ信者ハ」<sup>Mahomet</sup>「マホメット」<sup>Mahomet</sup>「宗ノ信者ニ比スレハ多キヲ十中ノ六ニ居ル故ニ此宗ノ信者ヲシテ武器ヲ取ラシムレハ終ニ」<sup>Mahomet</sup>「マホメット」<sup>Mahomet</sup>「宗信者ヲ歐洲ヨリ驅逐スルニ至ルヲアラシテ恐ルレハナリ」

土耳其全國ヲ分ツテ七軍團區トナス

各軍團區ニハ左ノ兵員ヲ有ス

編者記ス  
此騎兵四聯  
隊ハ二旅團  
ニ編成セラ  
ル然レハ騎  
兵師團ナル  
モノヲ編成  
スルヲナレ

- 一 歩兵六聯隊(各聯隊ハ三大隊)
- 一 獵歩兵六大隊
- 一 定制軍騎兵四聯隊(各聯隊ハ六中隊)
- 一 砲兵一聯隊(十四中隊ヨリ成ル)
- 一 工兵一中隊

此七軍團中二個ハ其兵員稍衆多ナルモ特ニ此ニ詳記スルヲ要セサルヘシ  
七軍團區ノ概略總計左ノ如シ

- 一 歩兵百三十八大隊
- 一 獵歩兵四十三大隊
- 一 騎兵二十五聯隊(百四十五中隊)
- 一 砲兵百十八中隊
- 一 工兵七中隊

右ノ外各軍團ニ属セサルモノアリ左ノ如シ

- 一 豫備砲兵一聯隊
- 一 海岸要塞砲兵七聯隊
- 一 獨立歩兵五大隊
- 一 砲兵局地部隊五大隊
- 一 獨立工兵四大隊
- 一 警備隊二聯隊
- 一 憲兵六十五大隊

全計兵員左ノ如シ

- 一 歩兵二十二萬人
- 一 騎兵三萬六千騎
- 一 砲六百七十二門

右ノ兵員ハ常備、豫備兵ヲ算合セシモノナリ

右ノ外後備軍ノ兵員左ノ如シ

二百四十大隊(各大隊ハ八百人ヨリ成ル)

又國民軍三十萬ヲ得ルノ算ナリ

然レトモ是等ハ紙上ノ員數ニシテ確信スヘキモノニ非ルナリ

戰鬥中止ムヲ得ス佛國ニ倣ヒテ民兵團ヲ作レリ

然レトモ此兵團ハ實際敵ニ對シテ働作スルヲ能ハサリシヲ以テ軍事上ヨリ論

スレハ一モ益ナキモノナリ

右ノ他ニ左ノ属國ヨリ左ノ兵員ヲ出ス豫定ナリシ

- 一 埃及 歩兵一萬七千人 騎兵二千騎
- 一 砲二十四門
- 一 「チュニス」 Tunisia 歩兵三千人 騎兵千騎

註世人ノ知ル如ク現今埃及ハ英國ニ「チユニス」ハ佛國ニ属セリ

以上述フル所ノ兵員ハ條例正シク施行セラレタルモノト假定セシナリ然レトモ實際行政ノ不可ナルカ爲メ決シテ此定員ヲ充足セサリシヤ疑ナシ

然レトモ別ニ壯兵多クアリシヲ以テ制外軍ヲ編成スルヲ得タリ其兵員幾何ナリシヤハ確知スル能ハスト雖トモ蓋シ其數七萬人ニ達セシナラン此兵ハ教育ナキヲ以テ敵ニ對シテ働作スル爲メニハ其効力少ク唯搶掠等ニ用ヒシノミ

後備大隊ハ千八百七十五年ノ末即チ「ヘルゼゴウイヌ」ニ於テ反亂起ルニ際シ

*Herzegovine*

編成シテ旗下ニアリ年齢二十四歳ヨリ二十九歳ニ至ル「マホメット」宗信者ヲ徵集セリ之ヲ第一後備軍ト稱ス千八百七十六年「セルビ」ノ戰鬪ニ與レリ故ニ

*Serbie*

七十七年宣戰ノ布告アル迄約一年半間ニ稍戰鬪ノ訓練ヲ爲スヲ得タリ

千八百七十六年「セルビ」トノ戰爭ニ際シ第二後備軍ヲ徵集セリ即チ年齢二十

*Serbie*

九歳ヨリ三十三歳ニ至ルモノトス然レモ此兵ハ七十七年戰ニ至ル迄ニ十分ナル教育ヲ受ケシモノニ非ス

魯土戰爭ノ間即チ千八百七十七年十一月ニ於テ第三後備軍ヲ徵集スルニ至レリ此兵員ハ事故アリテ兵役ニ服セサリシモノヲモ徵集セリ而シテ年齢三十三歳ノモノ亦此内ニアリ

此全體ニ就テ熟視スレハ常備兵ト第一後備軍ハ教育アル軍隊ニシテ他ハ不良ノ軍隊ナルノミ而シテ此不良ノ軍隊ハ全軍ノ三分一強ニ居レリ

千八百七十七年四月二十四日宣戰布告ノ時ニ當テハ凡ソ左ノ如ク軍隊ヲ配布セリ

編者記ス  
此表ハ「セ  
ルビヤ」ノ  
終ニ當リ七  
耳古軍ノ採  
リシ配置ナ  
リ参考ノ爲  
メ茲ニ掲ク

場 戦ノ 巴 羅 歐	ノ大歩 數隊兵	ノ中騎 數隊兵	數 砲	合 計 員 人
Bosnie .....	26	12	30	19.000
Herzegovine .....	37	”	24	24.000
Sandjak de Novi-Bazar .....	14	”	18	9.000
Albanie .....	23	”	30	15.000
Macedanie .....	4	”	6	3.000
Epire-Thessalie .....	18	6	18	13.000
				83.000
Serbie ノ 東 境 .....	64	18	102	45.000
全 南 境 .....	22	12	48	16.000
				61.000
Daniebe : Babadagh 及 ヒ Dobrildja .....	5	6	6	4.000
Varna, Routschouk, Silistrie.	51	18	144	37.000
Sistova, Tirnova, Berkovatz, Rahova .....	10	5	”	7.000
				48.000
Bulgarie transbalkanique, Philippopolis, Sophia.	38	”	”	25.000
Constantinople .....	32	6	18	22.000
				47.000
Archipel 島 .....	14	”	24	9.000
合 計	358	83	468	248.000

編者記ス  
官名ヲ「ミ  
ユシール」  
Mucmir  
ト云フ佛國  
ノ「マレシ  
Mainhal  
シャル」ニ等

第一大將「オスマンバシヤ」ノ指揮スル軍隊(五萬人)ハ「ウイゲン」附近ニアリ  
Osmanpacha  
 即チ歩兵五十三大隊騎兵六中隊砲兵十五中隊ナリ此兵員ヲ左ノ如ク配布ス  
Widin

一 歩兵十四大隊 「ウイゲン」ノ要塞及其近傍  
Widin

二 歩兵二十六大隊 「リュプファ」「ベルラダ」及「ダニユーフ」  
Rupfa Bellradia Danube

三 騎兵及砲兵ノ大部 沿岸ニ野營  
Bellradia Danube

三 歩兵四大隊 「アルナエヴバラシヤ」及「ユソウチ」  
Archev Palanko Kossowo

四 歩兵四大隊 「ロームバラシヤ」  
Lom Palanka

四 砲兵一中隊  
Lom Palanka

五 歩兵五大隊 「ラホウア」  
Rahova

五 砲兵二中隊  
Rahova

第二 「ルーチユク」隊ハ大將「エスクレフバシヤ」ノ指揮スル所ニシテ其隊數  
Routschouk EschnefPachia  
 歩兵四十三大隊騎兵六中隊砲兵十二中隊ナリ之ヲ左ノ如ク配布ス

一 歩兵二十九大隊

騎兵二中隊 「ルーナユウク」  
砲兵七中隊 Routschouk

二 歩兵九大隊 「ニコポリ」  
騎兵四中隊 Nivrolio  
砲兵三中隊

三 歩兵四大隊 「シストウア」  
砲兵二中隊 Sissova

四 歩兵二大隊 「フレブナ」  
Plevna

五 歩兵一大隊 「ビエラ」  
Bela

第三 「シリストリ」隊ハ中將「セラミバシヤ」ノ指揮スル所ニシテ其隊數ハ歩

Siistrie

SolamiPaeha

兵三十四大隊騎兵六中隊砲兵九中隊ナリ之ヲ左ノ如ク配布ス

一 歩兵二十四大隊 「シリストリ」  
騎兵二中隊 Siistrie  
砲兵五中隊

二 歩兵六大隊 「テユルナユカイ」  
騎兵二中隊 Turtukai  
砲兵四中隊

三 歩兵四大隊 「ラツソウア」  
騎兵二中隊 Rassowa

第四 「トブルグヤ」隊ハ中將「アリーバシヤ」ノ指揮スル所ニシテ其隊數ハ歩  
兵二十四大隊騎兵十二中隊砲兵七中隊ナリ之ヲ左ノ如ク配布ス

Doludga

Ali Paeha

一 歩兵三大隊 「ツールナヤ」  
砲兵二中隊 Toulcha

二 歩兵五大隊 「イザクラヤ」  
砲兵一中隊 Isaktoha

三 歩兵六大隊 「マツナン」  
騎兵四中隊 Matchin  
砲兵三中隊

四 歩兵二大隊 「ババダグ」  
Babadagh

騎兵二中隊

五 歩兵三大隊 「ヒルリウア」  
Hirsova

騎兵二中隊  
砲兵一中隊

六 歩兵四大隊 「チエルナウチダ」及「メチヂー」  
騎兵四中队 「Tschernavuda」  
Medjidie

七 歩兵一大隊 「コスタンツア」  
Kostantza

第五 「ワルナ」隊ハ埃及人中將「ラシドバシヤ」ノ指揮スル所ニシテ其隊數歩

Warna

Raschia Pasha

兵二十一大隊騎兵四中队砲兵七中队ナリ之レヲ左ノ如ク配布ス

一 歩兵十六大隊 「ワルナ」  
砲兵五中队 Warna

二 歩兵三大隊 「バザルチーク」  
騎兵四中队 Pazardjik  
砲兵一中隊

三 歩兵二大隊 「プラウアデー」  
砲兵一中隊 Peawadi

第六 「シュームラ」隊ハ「アクメートエイユーブバシヤ」ノ指揮スル所ニシテ

Choumla

Achmet-Eyoub-Pacha

其隊數ハ歩兵四十一大隊騎兵十二中队砲兵十二中队ナリ之ヲ左ノ如ク配布ス

一 歩兵二十九大隊 「シュームラ」内ニ居住シ及其近傍ニ幕營ス  
騎兵六中队 Choumla  
砲兵九中队

二 歩兵四大隊 「ラスグラド」  
騎兵六中队 Rasgrad  
砲兵一中隊

三 騎兵四中队 「ラスグラド」ヨリ「プラウアデー」ニ至ル鉄道線ニ梯置ス  
Rasgrad Plawadi

四 歩兵四大隊 「カサン」  
砲兵二中队 Kasam



五 歩兵二大隊 「エスキチュマ」  
 Eski Djuma  
 六 歩兵一大隊 「エスキスタンビュール」  
 Eski Stambul  
 七 歩兵一大隊 「チエンコイ」  
 Jenikoi  
 右ノ外豫備トシテ左ノ兵員ヲ備フ是レ所要ニ際シ何レノ点ニモ速ニ赴接セシムルモノナリ

- 一 歩兵三大隊 「チユーウア」  
Tirnova
- 二 歩兵一大隊 「オスマンバザール」  
Osman-basar
- 三 歩兵一大隊 「ロウアツツ」  
Lowatz
- 四 歩兵一大隊 「ヤンボリ」  
Fahloli
- 五 歩兵二大隊 「スリブノ」  
Slivno
- 六 歩兵十三大隊 「ソヒヤ」及「ニツシユ」  
Sophia Nisch

騎兵六中隊  
砲兵五中隊

計

歩兵二百三十九大隊  
騎兵五十二中隊  
砲兵七十一中隊

以上述フルモノ、外内亂鎮定ノ爲メ「モンテチグロ」ニ六万五千人アリ希臘國ヲ顧慮シテ土耳其南部ニ一万五千人ヲ駐ム都城「コンスタンチノツプル」ニハ二万五千人アリ又亞細亞ノ戰場ニハ十二万ノ軍隊ヲ使用セリ  
 此戦争ニ於テ土耳其軍ノ最モ不幸ナリシハ旅團師口ノ編成確定シアラサリシ  
 及軍隊ノ戦闘力上ニ大關係ヲ有スル行李輜重ノ設ケナカリシニアリ  
 土軍ハ常ニ守勢ヲ取レリ是レ止ヲ得サレハナリ何トナレハ攻勢ヲ取ラント欲スルモ軍隊不具ニシテ運動スル能ハサレハナリ

千八百七十七年 魯土戰史筆記第三回 明治二十一年一月十三日

歐羅巴部内ニ在ル土耳其軍ノ總督ヲ「アブデユルケリムハシヤ」ト稱ス軍事上ニ就キ良好教育ヲ受ケシ人ナリ嘗テ永ク「Abdul-Kerim Pacha 奧大都」ウイエンヌ」ニ住シ同國軍務ニ服シ高等ナル將校ノ薰陶ヲ受ケタリ且ツ此戰役ノ一年前「Vienna セルビ」ト戰フテ利ヲ得シ人ナリ于時年七十一歳ナリト云フ Serbie

此熟練ナル老將軍ハ此戰役ニ於テ策ヲ攻勢ニ取ラサリシ是レ此過失ハ一二年老ニ基因スト雖モ又軍隊ノ情況止ヲ得サルニ出ツルヲ多キニ居ルナラン此役ノ起ルニ當テヤ政略上ノ攻勢ハ常ニ魯國ニ在リタルヲ以テ軍事上ノ攻勢モ亦之レニ歸シタルモノ、如シ今地圖ヲ閱スルニ土耳其軍攻勢ヲ取リタラシニハ好結果ヲ得シナラン若シ土耳其軍全ク作戰力ヲ完備シ居レハ之ヲシテ「Danube ダニユーブ」河ヲ起ヘシメ以テ「Danube 奧地利國境」ト「Danube ダニユーブ」ノ下流「Galatz ガラツツ」ノ間ニ配置スルヲ良トス

然レモ時期ヲ失リス之ヲ行ハント欲セハ政略上ノ談判ヲシテ先制ヲ得ル如ク  
 セサル可ラス若シ之ヲ實行スルヲ得ハ土耳其軍ノ占領スル面ハ短縮シ左翼ハ  
 中立國ナル奧地利ニ托シ右翼ハ「ダニユーブ」河ヲ以テ界シ且ツ正面ニハ急激  
 ナル支流「プリュト」(魯國ト「ルーマニ」ノ國境)及ヒ「ゼレット」(「ガラツツ」ニ  
 於テ「ダニユーブ」河ニ朝ス)アリ以テ十分ナル抵抗ヲ爲スヲ得且ツ此低地ニハ  
 「バスカニ」ヨリ「ガラツツ」ニ至ルノ鉄道アリ  
 Danube Paskani Galatz  
 然レモ政略上談判ノ經過ニ因テ終ニ此策ヲ行フ能ハスシテ守勢ヲ取ラサル可  
 ラサルニ至レリ  
 土耳其軍守勢ヲ取ル爲メニハ「ダニユーブ」河ノ大障碍ハ大ニ利益ヲ與ヘタリ  
 然レモ「ヴィヂン」ヨリ河口ニ至ル迄ヲ掩護セント欲セハ殆ント六百五十吉米  
 ノ長サアリ而シテ此間何レノ點ニ於テ魯軍ノ渡河スヘキヤヲ考慮セサル可ラ  
 ス土軍總督ハ之ヲ知ル「ニ頗ル苦慮セリ」

是ヨリ先キ魯土兵ヲ交ユルヤ魯軍ハ多クハ「イザクナヤ」「マケン」ノ東方ニ近  
 傍ニ於テ渡河セリ故ニ此回モ亦タ河口ノ近傍ヲ顧慮セサル可カラズ然レモ此  
 回ノ戦ハ實際前年ノ「セルビ」ト土國ノ戦ヨリ連續スルモノナリ是ヲ以テ魯軍  
 ハ「セルビ」ヲ援助トナサント欲スルヤモ知ル可ラス故ニ「セルビ」國境ニ近  
 セル「ヴィヂン」地方モ亦タ恐ナキ能ハス  
 Serbia Vidin  
 是等ノ關係ヲ以テ土耳其軍總督ハ何レノ地ニ軍隊ヲ集中スヘキヤニ困迷セリ  
 然レモ終ニ全軍ヲ二部ニ分テ其小部ヲ「ヴィヂン」附近ニ大部ヲ四角要塞ノ附  
 近ニ集中スルニ決セリ  
 Vidin  
 四角要塞トハ曩キニ述シ如ク「ルーチュツク」「シリストリ」「シユームラ」「ワ  
 ルナ」ノ四要塞ヲ稱スルナリ此四要塞ハ前年ノ戦役ニ於テ頗ル功力ヲ有セシ  
 Varna  
 モノナリ  
 「ヴィヂン」附近ニ在ル部隊ト四角要塞ノ間ナル「ダニユーブ」河ハ唯制外軍ヲ  
 Vidin Danube

シテ監視ヲ爲サシムルノミ又「ドブルチヤ」地方ニモ大兵ヲ置カスシテ監視兵ヲ出セシノミ是レ全軍ヲ六百五十吉米ノ間ニ散布スルヲ避クルカ爲メナリ  
 歐洲ニ於テモ一般ニ此兵ノ配置ハ過失ナキモノト評セリ然レモ予ノ考フル所ヲ以テスレハ土軍ハ二部ニ分ツトナク一大團トナシテ四角要塞ノ附近ニ置クヲ良トス是レ百出變化四方ニ應スルノ便ヲ得レハナリ  
 土軍十五萬人若シ四角要塞附近ニアレハ魯軍ハ之ヲ西方ヨリ迂回スル能ハス何トナレハ土軍ノ突撃ニ會フテ背后ノ連絡ヲ斷絶セラル、恐レアレハナリ又魯軍東方ヨリ攻撃セントスルカ如キハ固ヨリ爲シ得ヘキニアラス何ントナレハ東方ハ海ニ濱スレハナリ  
 故ニ魯軍ハ唯北方ヨリ攻撃スルヲ得ルノミ然レモ此場合ニ在テハ土軍ノ眼前ニ於テ「ダニユーブ」河ヲ渡ラサル可ラス然ルルハ土軍ニハ艦隊アリ之ヲ妨クルヲ得  
 Danube

「魯國作戰計畫」

其他土軍ハ諸要塞ヲ修理シ且ツ「バルカン」山ニハ堡壘ヲ築キ假令弱少ノ守備兵ト雖モ之ヲ置カサル可ラス  
 Balkan  
 實ニ地物ト人工ノ防禦物ニ因テ土軍ノ利益ヲ得ヘキハ他ノ諸國ニ於テ未ダ嘗テ其例ヲ見サル所ナリ  
 魯國ノ第一ノ目的トスル所ノモノハ「コンスタンチノツブル」ニ侵入スルニアリ  
 Constantinople  
 「コンスタンチノツブル」ニ至ル最近路ハ「トブルチヤ」ヲ經過ス千八百二十八年ノ戰役ニ於テハ即チ「イザクチヤ」及ヒ「ワルナ」ヲ經テ南行セリ實ニ此線路ハ背後ヲ斷絶セラル、ノ患ナク且ツ此附近ニ在テハ「ダニユーブ」河ヲ容易ニ渡過スルヲ得即チ「ブライラ」下流ニ在テ河ノ北岸ハ南岸ヨリ高シ而シテ其幅ノ最モ狭キ部分ハ殆ント七百五十米ナル處アリ加之此點ハ四角要塞ヨリ遠隔シアルノ利アリ且ツ「マチン」「イザクチヤ」ノ防禦工事ハ大破シ居レリ故ニ此  
 Braila  
 Danube  
 Matchin Isakcha

近傍ニ於テ「ダニユーブ」川ヲ渡リ正面ヲ以テ四角要塞ニ當レハ大ニ利アリ然レモ健康上ニ於テハ大害アリ現ニ千八百二十八年ノ役魯軍ハ「トブルチヤ」地方ニ於テ病ノ爲メ全軍ノ三分ノ一ヲ失ヘリ又千八百五十四年ニ於テ佛軍モ亦同様ナル損害ヲ蒙レリ

故ニ此等ノ經驗ハ此地方ヲ作戰路ニ採用スヘカラサルヲ示スモノナリ又此地方ニハ唯一ノ不良道路アルノミ而シテ沿道瘠地軍隊ノ給用品ヲ欠ク故ニ五十年前ノ軍隊ニ三倍スル兵員ヲシテ此地方ヲ通過セシムルカ如キハ魯軍ノ爲ス可ラサル所ナリ其他千八百二十八年ノ役ニ在テハ魯軍黒海ヲ制シ居レリ故ニ「キシユチーヴ」「イザクチヤ」「ワルナ」ヲ經過スル線路ヲ取ルヲ得シモ今ハ全ク反對セリ

故ニ此役ニ於テ魯軍ノ首ナル行進路ハ「ブーカレスト」「チルノヴァ」「アードリノプル」ヲ經テ「コンスタンチノブル」ニ至ルモノヲ取レリ  
Konstantinople  
Boukarest  
Tirnova  
Andrinople  
Isaktscha  
Warna

若シ「ルーチユック」近傍ニ於テ「ダニユーブ」河ヲ渡ルルハ此道路ハ四角要塞ヲ迂回スルモノナリ  
Rontschouk  
Danube

又地誌ニ因レハ「ルーマニ」「ビュルガリー」ハ軍隊給養ノ爲メニハ十分ナル材料ヲ有スルモノ、如シ假令土耳其政府ノ過失ノ爲メ零落スルニモセヨ天然豊饒ノ地ナルヲ以テナリ

其他此方向ニハ使用シ得ヘキ鉄道アリ即チ「キシユチーヴ」ヨリ「イヤッシー」「ブライラ」及ヒ「ブーカレスト」ヲ經テ「ルーチユック」ニ至ルモノ是レナリ此線路ハ「ダニユーブ」河ニ稍近接スル迄之ヲ使用スルヲ得然レモ此行進線路ハ大ナル危険アリ何ントナレハ「ダニユーブ」河北方ニ彎曲スルヲ以テ「トブルチヤ」ヨリ土軍ノ來テ背後ノ連絡ヲ斷ツノ恐レアルヲ以テナリ故ニ此線路ヲ採用スルニ當テハ「ガラツ」「ブライラ」及ヒ「レニ」ヲ堅固ニ占領シテ之ヲ掩護セサル可ラス  
Galatz  
Braia  
Bemi  
Danube  
Danube  
Danube

又魯軍「ナルノバ」ニ前進スルニ至テハ「トブルナヤ」ヲ占領セサル可ラス

「ルーマニ」國內部ノ交通ヲ確實ニ保持セント欲セハ帝ニ「トブルナヤ」ヲ占領

スルノミナラス四角要塞ニ對シテモ掩護セサル可ラス又「ウイゲン」ヨリ魯軍ノ

背後ヲ脅威スルヲ得ヘシ故ニ之ニ對シテモ有力ノ掩護ヲ爲サ、ル可ラサルナリ

之ヲ爲サント欲セハ魯國ハ最初ヨリ著大ノ兵力ヲ有セサル可ラス即チ出師準

備ニ當リ四軍團ヲ以テ能ク之ヲ爲シ得サルヲ知ラサル可ラス然ルニ魯國ハ土

國軍事上ノ動力ヲ誤解シ居レリ故ニ一旦「ダニユーブ」河ヲ渡ルニ方テ忽チ其

兵力ノ足ラサルヲ感シ魯國內部ヨリ増加兵ノ來ル迄長時間戦争ヲ中止セザル

可ラサルニ至レリ土軍若シ此時間ヲ利用セシナラハ魯軍ハ殆ント危カリシ

ナリ

魯軍ハ路ヲ「ブーカレスト」「ルーケユク」ニ取ルニ決セリ「ブーカレスト」ハ

土耳其屬「ルーマニ」ノ首府ナリ故ニ之ヲ過クルハ恰モ土國ヲ通過スルモノニ

Romania

Bonkarest

Kontschouk

Bonkarest

異ナラサルナリ

是ヲ以テ此戦役ノ始メニ於ケル「ルーマニ」國ノ舉動如何ヲ知ルコト緊要タリ

藩屬タルノ點ヨリ論スレハ「ルーマニ」國ノ土國ニ從フヘキハ素ヨリ當然ナリ

然レモ土國ハ「ルーマニ」ノ國境ヲ守備スルコトヲ爲サスシテ「ダニユーブ」河ノ

南方ニ於テ防禦スルニ決セリ且ツ「ルーマニ」國ノ軍隊ヲシテ土國內ニ來ラシ

メントセリ故ニ同國侯ハ其國ヲ魯人ノ手ニ放棄セラル、ヲ知レリ依テ國侯ハ

局外中立ヲ保タンコトヲ希望シ竟ニ魯國ト盟約ヲ爲スニ至レリ

此盟約ニ因レハ「ルーマニ」國ノ軍隊ハ「ナルテツ」河「ニコホリ」ノ近傍ニ於

テ「ダニユーブ」河ニ朝ス」ノ西方ニ退去シ其東ニアル部分及ヒ鐵道ハ魯國ノ

意ニ任シテ使用セシム又地方ノ資物ハ賠償ヲ以テ魯軍任意ニ取ルヲ得

「ルーマニ」國侯ノ權利上ヨリ論スレハ如此盟約ハ爲シ得ヘキニ非ルナリ然レ

トモ土帝之ヲ援ケサルヲ以テ己ムヲ得ス此約ヲ結フニ至リシナリ

土國ニ於テ之ヲ知ルヤ「ルーマニ」國ハ己ニ敵ト見做サ、ル可ラス即チ土國ハ更ニ敵ヲ増加セシモノ、如シ

Roumanie

魯國最初ノ目的ハ軍ヲ「ブーカレスト」ニ集中スルニアリ之レカ爲メニハ「ブライラ」及ヒ「イスマイル」ヲ速ニ占領セサル可ラス即チ鐵道ヲ破壊セラレサル前占有スルヲ要ス

Boukarest

Braïla

Ismail

「イヤ、レー」ヨリ通スル鐵道ハ「ガラツ」附近ニ於テ「ダニユーブ」河ニ接近

Iasi

Galatz

Danube

ス而シテ「ダニユーブ」河ニハ土耳其艦隊アリ殊ニ「ガラツ」ノ上流「バル

Danube

Golatz

Bar-

ボシ」村ニ於テ鐵道ハ二線トナリ其南ナルモノハ「セレト」川ノ橋梁(第二號

boschi

Seret

地圖ヲ視ヨ)ヲ通過セリ此點ハ魯軍ノ爲メ最モ緊要ニシテ最モ危険ナル點トナス何トナレハ魯軍「ブーカレスト」ニ在ルニ當テ土艦ノ爲メ若シ此橋ヲ破壊セラルレハ則チ其背後ノ連絡斷絶スレハナリ而シテ土艦モ亦其準備ヲ爲シテ

Boukarest

「セレト」河口ニ碇泊シ居レリ

Seret

千八百七十七年四月二十四日魯軍ハ左ノ三縱隊トナリテ「ルーマニ」國ヲ行

Roumanie

進ス

魯軍「ルーマニ」國ノ通過

第一縱隊(第十二軍團)「ブーカレスト」ニ向フ

Boukarest

第二縱隊(第八軍團及ヒ第九軍團(半部)同)「ブーカレスト」ニ向フ

Boukarest

第三縱隊(第十一軍團)「レニ」「ガラツ」「ブライラ」ニ向フ

Reni

Galatz

Braïla

第九軍團變部ハ鐵道ヲ以テ「ストラチナ」「ナルテツ」河畔(ニ送レリ

Slatina

Oltez

其他架橋材料、漁船及ヒ攻城廠ハ鐵道輸送ヲ爲サントセリ之レニ因テモ亦タ前ニ述フル所ノ「バルボシ」村ノ橋梁ハ之ヲ占領スルノ急務ナルヲ知ルニ足ル

Barboschi

之ヲ爲サンカ爲メ豫メ「ボルグラアド」ニ置キシ格薩聯隊ヲシテ四月二十四日

Bolgrad

即チ宣戰布告當日ノ早朝ニ國境ヲ越ヘシメタリ

此聯隊ハ非常ノ熱心ヲ以テ其夕「バルボシ」村ノ橋梁ニ達セリ即チ途中「プリ

Borboschi

Prut

ユト「河ノ漲アリ之ヲ渡ルニ四時間ヲ費セシニモ關ラヌ午後四時四十分「ガ  
ラツ」ニ達ス其路程八十三吉米之ニ費ス時間九時半ナリ

是ヲ以テ翌二十五日ニハ「ブライラ」ニ侵入スルヲ得タリ「ガラツ」ニ達スルニ至リ「ガ  
Galatz

實ニ如此強行軍ヲ爲セシ例ハ戰史中唯此一アルヲ見ルノミ

土艦ハ格陸兵ノ如此突然ニ現出シタルニ喫驚シ橋梁ヲ破壊スルニ違アラヌシ

テ「マ、ナシ」ノ方向ニ歸航セリ「ガラツ」ニ着ス依テ水雷四十個ヲ「セレ  
Matchin

二十五日魯軍(第十一軍團)ノ前衛ハ「ガラツ」ニ着ス依テ水雷四十個ヲ「セレ  
Galatz

ト「河口ニ裝置ス又其後二日間ニ「セレ」ト「近傍」ダニユーブ」河岸ニ四個ノ  
Seret Danube

堡壘ヲ築設セリ此堡壘ニハ最初野砲ヲ備付セシモ二十八日ニハ若干ノ重砲ヲ

据ユルヲ得タリ「ガラツ」ニ着ス依テ水雷四十個ヲ「セレ」ニ着ス依テ水雷四十個ヲ

五月四日ニ於テ第十一軍團ハ「ヤロミツア」(ヒルソバノ西)「ブライラ」「ガ  
Ialomitza Hirsova Braila

ラツ」及ヒ「レニ」ニ達セリ而シテ「プリユト」河口ニ水雷ヲ裝置ス又「ダニ  
Galatz Reni Prut Danube

「ブ」川ニ於テモ「レニ」ト「キリヤ」ノ間ニ水雷ヲ沈メ以テ土艦ヲシテ海ヨリ  
Reni Kilia

入航スル能ハサラシム「ブ」川ニ於テモ「レニ」ト「キリヤ」ノ間ニ水雷ヲ沈メ以テ土艦ヲシテ海ヨリ

此時ニ當テ魯軍ハ妨害ナク「ブーカレスト」ニ集中スルヲ得タリ然レトモ其行  
Boukarast

進ハ頗ル困難ヲ感セリ何トナレハ歐洲ニ於テ道路粗惡ナルハ「ダニユーブ」河  
Danube

下流近傍ノ地ノ如キナシ殊ニ此行軍ハ降雨多キ時季ニ際セシヲ以テナリ加之

「ブーカレスト」ニ向テ行進スル大部隊ノ爲メ用ヒ得ヘキ道路ハ唯二條アリシ  
Boukarast

ノミ

如此長キ縱隊ヲ以テ粗惡ナル道路ヲ行進スルニモ關ハラス歩兵ハ毎日十五吉

米前方派遣ノ騎兵ハ毎日二十二吉米ノ行軍ヲ爲セリ「ブ」川ニ達シ「ナルテツ」河ノ「ダニユー  
Danube Oltez Danube

ブ」ニ朝スル點ヨリ「ナルテニツア」「ブーカレスト」ノ東南ノ間ヲ監視セリ

歩兵ノ行進ハ五月下旬ニ於テ全ク終リ左ノ如ク位置ス



第十二軍團ハ「ブーカレスト」西方

*Boukarest*

第八軍團ハ同所東方

第九軍團ノ半部ハ其北方

又前兵ヲ「ニコポリ」ルータエック」シリストリ」ノ方向ニ出セリ此三要塞中

*Nicopolis*

*Routschouk*

*Silistrie*

「ニコポリ」ヲ除クノ外ハ皆大ナリ「ニコポリ」ハ稍小ナリト雖モ尚四千乃至五

*Nicopolis*

*Nicopolis*

千ノ兵ヲ有セリ

第九軍團ノ歩兵第三十一師團及騎兵第九師團ハ前ニ述フル如ク鐵道ヲ以テ

「ストラチナ」ニ送レリ

*Zatina*

以上ノ運動ヲ爲ス間「ルーマニ」國軍隊ハ「ナルテツ」川ノ西方ニ退去セリ

*Roumanie*

*Oltez*

「ルーマニ」國ノ軍隊ハ四師團ニ分ツ其總計左ノ如シ

*Roumanie*

歩兵五十一大隊(小銃ノ數三万二千挺)

騎兵四十中隊(騎士四千五百騎)

砲兵十四中隊(砲八十四門)

此軍隊ヲ二部ニ分チ一部分ヲ「カラファ」ニ他ノ一部分ヲ「クラヨウア」附近及

*Kalafat*

*Krayowa*

ヒ其東北ニ置ケリ

土國ハ己ニ「ルーマニ」國ヲ敵視ス故ニ「ウイヂン」ヨリ「カラファ」ニ向テ砲撃

*Roumanie*

*Widin*

*Kalafat*

セリ

此ニ於テ「ルーマニ」國ハ眞實ニ魯國ト盟約ヲ結ヒ且ツ土國ノ羈束ヲ脱セン

*Roumanie*

ヲ努ムルニ至レリ

又魯國ハ「ルーマニ」國人民ノ志願者ニ武器ヲ貸與スルヲ要スルニ至レリ然レ

*Roumanie*

此此人民ニハ最初戦闘ニ與ルヲ禁止セリ

魯軍ノ第一ニ「ブーカレスト」ニ到着セシ軍團ハ其閉進ヲ終ルヤ六月六日ノ夜

*Boukarest*

「ダニユーブ」河ヲ渡ラント考定セリ之レニ臨マンカ爲メ魯帝ハ聖彼德堡ヨリ

*Danube*

「プロエシユチ」ニ來ル然レ其準備未ダ整頓セサリシカ爲メ期日ヲ延ハサ

*Ploeschti*

ル可ラサルニ至レリ

此魯帝ノ臨場ハ土軍ニ庇フ能ハスシテ魯軍首カノアル所ヲ知ラシメタリ

此時ニ當リ魯軍ハ増加兵ノ三軍團來着スルヲ待テ要セリ

増加兵中第十四軍團及ヒ「ドンコザック」騎兵師團ハ「ブライラ」Brilla「ガラツツ」Galatz

「レニ」ノ線ニ至リ第十一軍團ト交代ス而シテ第十一軍團ハ「ナルテニツア」ニOtenitza

至リ「ダニユーズ」河下流ノ方向ヲ監視ス此運動ハ六月十三日迄ニ終ルヲ得

タリ

Danube

第十三軍團ハ「ブーカレスト」ノ南方ニ來着ス又第四軍團ハ六月中旬「プリユ

Bozkirest

Prut

ト「川ヲ過ク

魯軍ハ此増加兵ヲ併セテ左ノ員數ヲ有スルニ至レリ

小銃ノ數十九万挺

騎士二万七千騎

砲八百五十門

土國「ダニユーズ」艦隊ノ大功ヲ奏センヲ信セシハ獨リ土耳其人ノミナラス

Danube

全世界ニ於テモ之ヲ希望セシ所ナリ

土國ハ此艦隊ヲ逮捕セシメンカ爲メ實ニ巨額ノ金ヲ費セリ當時ヲ去ル十一年

前内亂ノ爲メ弒セラレタル「アブジュル、アジス」帝ハ特ニ大ニ力ヲ盡セリ

英國海軍ノ一將官ニ「アバクバシヤ」ト稱スルモノアリ北米國民戰ニモ參與セ

シ經驗者ナリ又嘗テ封港ヲ突貫セシ「アル」ヲ以テ世人呼ンテ封鎖破リト稱セ

リ當時土國ノ軍勢ニ服シ大ニ土國艦隊ノ聲價ヲ高ムルヲ得タリ然ルニ魯土戰

前土國ノ一反對黨ノ忌ム所トナリ遂ニ海軍ヨリ黜斥セラレカ爲メ土國艦

隊ニ大ナル不幸ヲ生シタリ

「ダニユーズ」艦隊ハ最初ヨリ「ウイゲン」ノ下流數所ニ分配セリ即チ「ウヂイ

Danube

Widin

Widin

「ラホウア」「シストウア」「ルーチユク」「シリストリ」「ヒルソウア」等ナリ

Rahova

Sistova

Routschouk

Silistrie

Hirsova

「ダニユーズ」  
ノ河艦隊  
ノ戦闘

「ガラツツ」Galatz「ナルヲニツア」Otomița「ゲエルヂエウヲ」Chergevoニ於テ魯軍ノ築設セシ砲臺ハ土艦ト絶エス戦闘ヲ爲セリ

土艦ノ數隻ハ魯軍ノ設置セシ水雷ノ爲メ大損害ヲ蒙リ全ク沈没セシモノアリ否サルモノモ亦多大ニ戦闘力ヲ失ヘリ而シテ土艦ハ漸次水雷ノ爲メ要塞近傍ニ窘蹙セラル

此艦隊トノ戦闘中最モ大ナルモノハ「ガラツツ」Galatzノ砲臺ト其近傍ニアリシ土艦十二隻トノ戦闘是レナリ

土艦ハ常ニ「マツナン」Matchin近傍「ダニユーブ」Danube河東方支流ニ於テ魯國砲臺ノ射程外

ニアリ時々出テ砲臺殊ニ鐵道ヲ砲撃セリ然ニ五月九日魯軍ノ「カラツツ」Galatz砲臺

ヨリ發セシ彈丸土國鋼鐵艦ニ命中シ破烈セリ此不幸ノ後土艦ハ終ニ「ダニユーブ」Danube河ニ出ツルヲ試ムル能ハサルニ至レリ

此ニ於テ魯軍大ニ振フ依テ五月二十六日氣船ヲ浮ヘ更ニ「マツナン」Matchin支流ヲ湖

リ水雷ヲ以テ土艦ヲ攻撃シ第二ノ大破壊ヲ施行セリ

土艦ハ水雷網ヲ以テ魯國氣船ノ進襲ヲ防禦セリ

之レト同シク魯軍モ亦「マツナン」Matchin支流ノ河口ニ水雷壅塞ヲ設置セリ

六月中旬上流ニアリシ土國艦隊ハ水雷閉鎖ヲ衝破シテ「シリストリ」Silistrieニ脱セリ

其後魯軍ハ「ブライラ」Braila附近ニ於テ「ダニユーブ」Danube河ニ水雷壅塞ヲ設ケ以テ

「レニ」Remiト此地トノ中間ハ土艦ニ對シ全ク堅固ニ掩護スルニ至レリ

六月下旬ニ於テ魯軍ハ「ダニユーブ」Danube河ヲ渡過スルヲ得タリ此渡河ハ宣戰布告

ノ後既ニ六十五日ヲ經過セリ是レ「ルーマニ」Roumani國鐵道ノ効程少ナカリシト又工

兵隊ノ數不十分ナリシカ爲メナリ實ニ如此大河ヲ渡ラントスルニハ尋常軍團

ニ備フル工兵隊ヲ以テ足レリトスル能ハサルナリ

其他渡河點ニ就テモ大ニ混雜ヲ生セリ魯軍ノ行進路ハ「ブーカレスト」Boukarestヨリ

「ナルノウア」Tirnovaノ方向ヲ取レリ之レカ爲メニハ「ルーチユツク」Routschouk近傍即チ「ニコ

魯軍「ダニユーブ」河ニ渡ル

ポリ」或ハ「シストヴァ」ニ點中ニ於テ渡過セサル可ラス其他ノ點ニ於テハ河  
岸ニ近接スル能ハサルナリ

此二點ニ於テモ各利害アリ左ノ如シ

「ニコポリ」附近ニハ「ナルテツ」ノ支流アリ架橋ノ準備ヲ爲スヲ得且ツニ

三ノ島嶼アルヲ以テ渡河ト架橋ヲ容易ナラシム然レモ「ニコポリ」ノ要塞近

接シアルヲ以テ其展望内ニ於テ架橋セサル可ラサルノ危害アリ

「シストヴァ」附近ニ在テハ「ダニユーブ」ノ河幅ハ千五百米ナリ而シテ架橋

ノ準備ヲ爲スヘキ支流ナシ殊ニ南岸ハ絶壁其上陸點トスヘキモノハ(第一

号圖ヲ見ヨ)「テキールデレー」支流ノ河口只一アルノミ然レモ其利トスル

所ノモノハ「シストヴァ」ノ要塞ハ「ニコポリ」ノモノヨリ小ニシテ且ツ南方

ニ向テ後來使用スヘキ道路ヲ有スルニアリ

故ニ渡河點ヲ「シストヴァ」近傍ニ撰定セリ然ルニ六月中旬「ダニユーブ」河溢

レ其左岸ノ地ハ殆ント接近スル能ハサルニ至レリ故ニ更ニ渡河點ヲ「ニコポリ」附近ニ撰マサル可ラサルニ至レリ  
此ヲ以テ六月二十五日「ブーカレスト」附近ノ諸隊ヲ集合シテ「ニコポリ」ノ方  
向ニ行進セシム架橋材料ハ鐵道ヲ以テ「ヂュルヂエヴナ」ニ送り更ニ陸行ヲ以  
テ「ツルヌマグレリ」ニ送レリ  
「Turnu Magureli」  
此材料運搬ハ短少時間ヲ以テ爲シ得ヘキニ非サルヲ以テ「ニコポリ」ニ至ルヘ  
キ諸隊ハ一時「アレキサンドリヤ」附近「ウエード」川ノ近傍ニ駐止セシム  
「Alexandria Woede」  
此運動間「ダニユーブ」河ノ溢水漸ク減セシヲ以テ再ヒ「シストヴァ」ニ於テ渡  
河スルニ決セリ  
「Danube Sistova」  
故ニ首力「シストヴァ」ニ於テ渡河スル間「ガラツ」「ブライラ」ニ在ル諸隊ヲ  
シテ其近傍ニ於テ渡河セシメ以テ「ドブルナヤ」ニ對シテ掩護セシム  
「Dobrudja Galatz Braia」  
「ガラツ」附近ニ於テハ河幅最モ狭キ處七百五十米ナルモノアリ又西北ノ岸  
「Galatz」

ハ東南ノモノヨリ高シ且ツ「ゼレト」川アリテ架橋準備ヲ爲スニ便ナリ  
實際橋梁ハ「ブライラ」ヨリ「ゲチード」ニ架セリ然レモ六月中旬洪水アリ東岸  
ハ溢レテ氾濫ヲ爲セリ故ニ六月二十一日架橋完リシモ之ヲ使用シテ渡過スル  
能ハサリシ

土軍三千人「マツケン」ノ高地ニ在リ障地ヲ占ム而シテ魯軍ノ架橋ヲ爲スモ格  
薩兵ノ渡河スルヲモ之ヲ知レリ然レモ之ヲ妨ケルルヲ爲サスシテ「ブライ

ラ」ヨリ「マツケン」ニ至ル道路ヲ破壊スルヲ以テ足レリトセリ  
魯軍第十四軍團長ハ速ニ渡河スヘキヲ命セラレタリ然レモ橋梁ヲ使用スル能

ハサルヲ以テ二三日間延期セラレンヲ請ヘリ魯軍總督ハ此延期ヲ許サ、サ  
リシ

此ニ於テ軍團長ハ小船及ヒ筏ヲ以テ渡河スルニ決セリ

魯軍「ゲチード」ニ架橋セシヲ以テ土軍以爲ラク魯軍ハ「ブライラ」ヨリ来ルモ  
Guetschid Braila

ノナリト故ニ「ガルビナ」ノ高地ハ堅固ニ之ヲ守備セサリシ

魯軍第十四軍團長「チンメルマンヌ」氏ハ土軍「ガルビナ」ノ守備薄キヲ知ル依

テ「カラツツ」ヨリ「ガルビナ」ニ渡ルニ決シ一時二十中隊ヲ送り得ヘキノ小船  
Galatz Garbina

ヲ集合セリ

六月二十二日午前三時此小船ヲ以テ先ツ首流ヲ渡リ次ニ力可及的氾濫地ヲ航  
行シ午前六時「ガルビナ」ニ達スルヲ得タリ  
Garbina

土軍凡ソ一千人此高地ヲ占領シ居レリ而シテ戰鬥中土軍漸ヤク加ハリ遂ニ歩  
兵三千人騎兵三百騎砲一門ニ至レリ故ニ最初ニ上陸セシ十中隊ハ頗ル苦戦ス

午前第十一時ニ至リ魯軍第二ノ上陸團来リ砲二門ヲ添フ茲ニ於テ土軍退却シ  
此高地ヲ占ム此戦ニ於テ魯軍ハ將校七名兵卒約百五十名ヲ失ヘリ

此戰鬥間「ブライラ」ヨリ「マツケン」ノ方向ヲ偵察セシニ土軍ハ「ガルビナ」ヨ

リ退キ更ニ「マツケン」ヲモ捨テ、退却スルヲ知レリ  
Braila Matchin Matchin

依テ翌二十三日砲兵三中隊ヲ先ツ渡河セシメ次テ諸隊ハ左ノ如ク河ヲ渡レリ  
 歩兵第十八師團「ガラツツ」ヨリ「ガルビナ」ニ  
Galatz Garbina  
 歩兵第十七師團「ブライラ」ヨリ「マツチン」ニ  
Braila Matchin  
 格薩騎兵中隊ハ「ゲナード」ノ橋梁ヲ過キ且ツ「マツチン」ニ至ル道路ヲ修理シ  
Gnetschid Matchin  
 ツ、前進セリ

二十四日第十四軍團ハ「マツチン」附近ニ集合セリ  
Matchin  
 第十一軍團ノ前進ヲ始ムルハ尚二三日ノ後トス  
 騎兵師團ハ三日間連續シテ先キニ騎兵中隊ノ通過セシ道路ヲ行進セリ其行路  
 中十四吉米ノ間ハ水中ヲ行進スルヲ要セリ  
 如此方法ヲ以テ魯軍ハ土地ノ困難ニ比シテ思想外容易ニ渡河スルヲ得タリ其  
 損失戰鬪ノ外僅ニ馬十頭ヲ溺死セシメシノミ  
 第十四軍團長ハ「マツチン」附近ニ駐止シ先ツ騎兵ヲ以テ「ツールナヤ」及ヒ  
Matchin Tonitchea

「ババターグ」ノ方向ヲ偵察セシム而シテ土軍ハ「ドブルナヤ」ヨリ全ク退却セ  
Babaragh Dobrudja  
 ルヲ確知セリ又行李ハ七月四日ニ於テ始メテ「ゲナード」ノ橋梁ヲ渡レリ  
Gnetschid  
 行李已ニ前進セシムルヲ得ルニ至テ第十四軍團長ハ「チエルナヴナダ」及ヒ  
Tschernavoda  
 「メチジ」ニ向テ前進ス而シテ歩兵ヲ此處ニ配置シ騎兵ヲ尚南方四角要塞ニ  
Medich  
 對シテ配置セリ

「チエルナヴナダ」及ヒ「メチジ」ノ守兵ハ甚微弱ナリシモ「シリストリ」ハ土  
Tschernavoda Medich Silistrie  
 軍堅固ニ之ヲ占領セリ故ニ魯軍ハ切りニ前進ヲ續行スル能ハス且之レニ對シ  
 テ「ブーカレスト」ヨリ「チルノヴァ」ニ至ル連絡路ノ掩護ヲ爲サル可ラサル  
Konkarost Timova  
 ナリ

千八百七十七年 魯土戰史筆記第四回 明治廿一年一月廿日

「ドブルチャ」ハ己ニ知ル如ク瘠地タリ故ニ軍隊ハ大行李輻重ナクシテ行進ス  
Dobruja  
可ラサルナリ是ヲ以テ魯軍第十四軍團長「ナンメルマンヌ」氏ハ七月四日即チ  
行李ノ到着スル迄「マッテン」附近ニ駐止シテ大戦ヲ避クルヲ要セリ此間唯騎  
兵ヲ以テ搜索ヲ爲セリ Matchin

六月二十六日騎兵一旅團ハ「イザクチャ」ヲ經テ「ツールチャ」ノ方向ヲ搜索セ  
Isakcha  
リ「マッテン」ヨリ「ツールチャ」ニ至ル百吉米ナリ騎兵ハ此距離ヲ一日ニ經過  
Matchin Toulcha  
セリ然ルニ敵ニ出會スルヲナカリシヲ以テ二中隊ヲ「ツールチャ」ニ駐メ他ハ  
Toulcha

「マッテン」ニ歸來ス Matchin  
同月二十九日他ノ騎兵一旅團ハ「ババダグ」ニ向テ搜索ス三十日ニ同所ニ達  
Babadagh  
ス然ルニ土軍ハ己ニ南方ニ退却セリ

七月四日第十四軍團ハ三縱隊トナリ「チュルナウダ」及ヒ「コスタンツア」ニ  
Tschernawoda Kostantza

向テ前進シ同月十二日前此地方ニ達セリ

「メチジ」ニハ土軍歩兵ハ乃至十大隊騎士六百騎。砲八門ヲ備フ將官「ナンメ  
Medjidie  
ルマンヌ」氏ハ七月十三日之レニ向テ攻撃セリ然ルニ土軍ハ尚ホ南方ニ向テ  
退避ス

「ドブルナヤ」地方ニアリシ土軍ハ悉ク退テ「バザルナク」ニ集合ス「バザル  
Dobrudja Pazardjik  
ナク」ハ「シリストリ」ト「ワルナ」ヲ連結セル線上稍「ワルナ」ニ近邇スル點ニ  
Silistrie Varna  
アリ

第十四軍團長ハ騎兵ヲ以テ之ヲ追躡セシメ又別働隊ヲ派遣シテ屢々土軍ヲ動  
搖セシム別働隊ハ土軍ト無數ノ小戦ヲ爲セリ

四角要塞ハ土軍堅固ニ之ヲ守備セリ故ニ第十四軍團ハ孤立シテ前進スル能ハ  
ス此ヲ以テ「チエルナウナダ」及ヒ「コスタンツア」附近ニ野營舎營及ヒ露營ヲ  
Tschernawoda Kostantza  
爲セリ

第十四軍團ノ員數左ノ如シ

歩兵二十四大隊

騎兵二十八中隊

野砲九十六門

騎砲兵十二門

工兵二中隊

人員總計凡二万六千人

此兵員ハ全ク本軍背后ノ連絡ヲ掩護スルニ任セラレタルモノナリ故ニ真ノ作  
戦ニハ使用スル能ハス此兵員ハ魯國ノ歐羅巴部内ニ於テ集中セシ軍隊ノ九分  
一二値セリ

又第七、第十軍團ヲ海岸ニ配置シ第七軍團ヨリハ僅ニ一支隊ヲ分遣シテ「ダニ  
Dan-  
ユーブ」川下流沿岸ノ市街ヲ守備セシメタリ  
nbe



魯軍ノ首カ  
「シストウ  
ア」附近ノ  
渡河

是等ノ兵員ヲ總計スノハ歐羅巴部内ニ於テ出師準備ヲ爲セシ魯軍ノ三分一ハ  
 全ク真ノ作戰ニ與ル能ハサルモノナリ  
 第十四軍團ハ給養上大ナル困難ヲ爲セリ然レモ土艦ノ「シリストリ」近傍ニ遁  
 去セシ以來魯軍ハ汽船ヲ以テ給養品ヲ「ガラツツ」ヨリ「チエルナウ」ヲダニ送  
 ルヲ得稍困難ヲ減スルヲ得タリ Galatz Tschernawoda  
 第十四軍團渡河ノ後第五日ニ於テ本軍ハ「シストウア」附近ニ渡河セリ  
 是レヨリ先キ第十四軍團長ノ請願セシ渡河ノ延期ヲ魯軍總督ノ許可セサリシ  
 ハ蓋シ所以アルナリ魯軍ハ宣戰布告ノ后既ニ二ヶ月ヲ經過セシモ未タ真ノ戰  
 鬪ヲ交ユルニ至ラス土國若シ此時間ヲ利用セハ衆多ノ兵力ヲ以テ「モンテチ  
 グロ」ヲ鎮壓スルヲ得ヘシ「モンテチグロ」ハ前年ヨリ「セルビ」ト同盟シテ土  
 國ト戰フ所ノモノナリ魯國ハ「モンテチグロ」ノ負擔ヲ輕カラシメント欲ス之  
 ヲ爲スニハ魯軍ハ速ニ攻勢ヲ取ラサル可ラサルナリ Montenegro Montenegro Montenegro

魯軍「シストウア」附近ニ於テ渡河スルニモ亦タ水雷ヲ以テ土艦ヲ窘蹙セシメ  
 サル可ラス故ニ六月二十日「ルーチユツク」ノ稍上流ニ水雷ヲ裝置シテ「ダニ  
 ユーブ」川ヲ閉鎖シ又二十四日ニハ「ニコポリ」ノ上流ニ水雷壅塞ヲ設置シ以  
 テ上流及ヒ下流ニアル土國艦隊ニ對シ渡河ヲ掩護セリ Nicopolis Dan-  
 二十四日以來魯軍ハ「ダニユーブ」北岸ヨリ南岸ノ土國要塞ニ向テ烈シク砲撃  
 ナ施行ス此目的ノ爲メ魯軍ハ預シメ左ノ數所ニ砲臺ヲ築設セリ Danube  
 「チユルチカイ」ニ對シテ「ナルテニツア」  
 Turtukai  
 「ルーチユク」ニ對シテ「ヂユルヂエウチ」  
 Rautschouk Gurgewo  
 「ルーチユク」上流水雷壅塞ノ點  
 Rautschouk  
 「ニコポリ」ニ對シテ「ツルヌマグレリ」  
 Nicopolis Turnu-Magureli  
 「ウイヂン」ニ對シテ「カラフア」  
 Widin Kalafat  
 此砲撃ハ二十七日ニ至ルマテ連續セリ土軍モ亦之レニ應射ス

魯軍砲撃ノ目的ハ「ダニユーブ」河岸ニアル土軍ヲ動搖セシメ且ツ渡河點ヲ長  
時間敵ニ秘匿スルニアリ *Danube*

已ニ述フル如ク魯軍首カハ六月二十五日「ブーカレスト」ニ集合シ「ニコポリ」  
附近「フラムンダ」ニ向テ行進セシモ途ニシテ材料ノ未タ容易ニ整頓セサルヲ

知り「ウエド」河近傍ニ駐止セリ *Framunda*

然ルニ此間「ダニユーブ」川稍減水セシテ以テ再ヒ「シストウア」附近ニ於テ渡  
河スルニ決ス而シテ二十六日ニハ軍隊ハ左ノ如ク位置セリ *Yacze*

第八軍團ノ第十四師團ハ「シストウア」ニ對シテ「ジムニツア」ニアリ且ツ先  
ニ別働隊タリシ獵兵四大隊山砲二中隊(各中隊八門)ヲ増加ス *Danube*

第八軍團ノ第九師團ハ第十四師團ノ西北ニ休止ス *Sistova*

第八軍團ノ騎兵師團ハ此時迄「ニコポリ」ノ上流ニ對シ「ダニユーブ」河ヲ監  
視シアリシモ「スラナナ」「ナルテック」河畔ヨリ來リシ騎兵第九師團ト交代 *Zimnitsa*

シテ直ニ軍團ニ復歸ス *Slutina*

別働隊ノ殘餘ハ「ジムニツア」ノ北方一日行程ノ地ニ駐止ス *Oleza*

第十二軍團ハ第九師團ノ背後ニ位置ス *Zimnitsa*

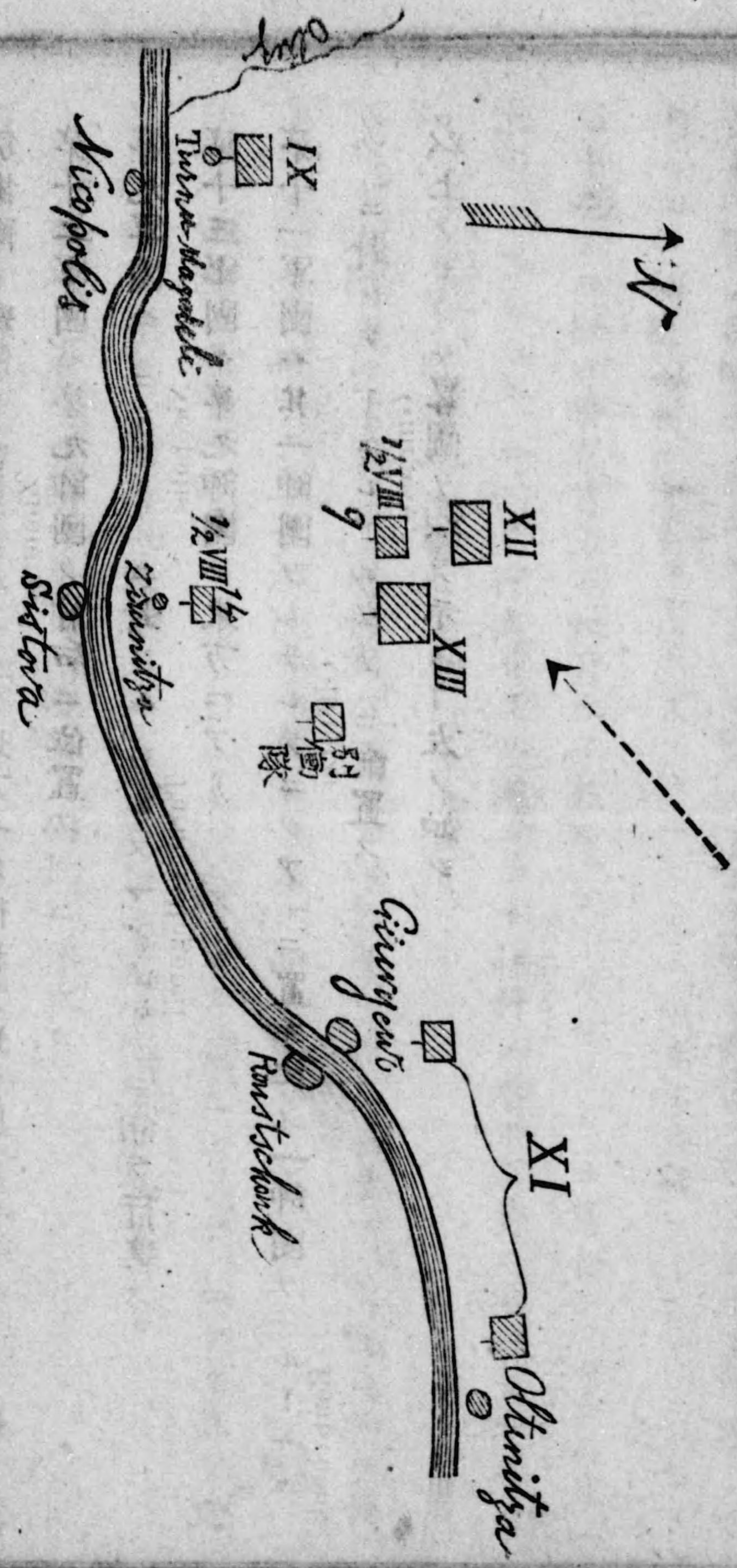
第九軍團ハ「ニコポリ」ニ對スル「ツルヌマグレリ」ニ向テ行進ス *Nicopolis*

第十三軍團ハ第九師團ノ東方ニアリ *Turnu-Magureli*

第十一軍團ハ其一師團ヲ「ナルテニツア」ニ置き他ノ一師團ヲ「ルーチユ  
ク」ニ對シテ「ヂユルヂエウチ」ニ配置ス *Otenitza*

以上ノモノサ畧圖ヲ以テ示ス左ノ如シ *Gimgavo*

*Routschouk*



魯軍總督皇太子「ニコラス」ハ第九軍團ノ位置ニアリ且ツ魯軍ハ矢ヲ以テ示ス  
 行進方向ヲ取レリ故ニ土軍ハ以爲ラク魯軍ハ「ニコポリ」ニ向テ渡河スルモノ  
 ナリト魯軍自ラモ亦初メハ如此考定セリ

魯軍首カノ渡河スルニハ架橋セサル可ラス而シテ材料ハ鐵道ヲ以テ「スラナ  
 ナ」ニ運送シアリタリ故ニ材料ハ「ナルテツ」河ヲ航行シテ運ハサル可ラス之  
 レカ爲メニハ「ニコポリ」ノ要塞下ヲ通過スルヲ要ス

此材料ハ百五十ノ船及ヒ六十四ノ筏ヨリ成ル其一部ハ鐵道ヲ以テ輸送セシモ  
 ノニシテ他ノ一部ハ地方ニテ製作セシモノナリ

此材料ハ「ナルテツ」河口ニ集合シ二十七日ヨリ三日間ニ「シストウア」ニ至  
 ルヲ得タリ

己ニ述ヘシカ如ク「シストウア」ハ「ダニューブ」川南岸絶壁ノ上ニアリ故ニ上  
 陸點トスヘキモノハ唯「テキールデー」河口ノ一處アルノミ(第一号圖ヲ見

ヨ「ヒゼテツク」シストロウナ「島ハ魯軍ノ爲メニ大ニ利ヲ與ヘタリ此島ハ雜  
樹アルヲ以テ渡河ヲ隱蔽スルヲ得」Fisetok Ostrovo「ダニユーブ」ノ北岸ハ單ニ草地ニシテ一モ  
隱蔽物ナシ Danube

「テキールデレー」河口ニハ土軍一モ防禦ノ工事ヲ施サ、リシ然レモ「シスト  
ウア」附近ニハ重砲ヲ備フル所ノ土國砲臺アリ Tekir Dere Sistora

又「シストウア」要塞ニハ左ノ兵員ヲ有セリ

步兵二千五百人 Sistora

騎士二百騎

砲八門

「シストウア」ノ下流一日行程弱ナル「ウアルヂン」ニ土軍ノ一支隊アリ其兵員  
左ノ如シ Sistora Wardin

歩兵四千五百人

騎士二百騎

砲八門

此二點間ニハ土軍唯監視兵ノミヲ配置セリ「テキールデレー」河口ニモ亦夕衛  
兵アリタリ而シテ最前ノ哨兵ハ水車場ノ處ニ位置セリ Tekir Dere

實ニ魯軍ノ「シストウア」ニ渡河セントスルハ總督ト第十四師團長ノ他ニ未タ  
知ルモノゾラサリシ Sistora

第十四師團長「ドラグイミロフ」氏ハ架橋ニ任セララル其使用シ得ヘキ兵員左ノ  
如シ Druginirof

歩兵十八大隊

騎兵三百六十騎

山砲十六門及野砲二十四門

工兵四半大隊

右ノ外山砲六中隊ヲ使用スルヲ得此砲兵ハ北岸ヨリ渡河ヲ援助スヘキモノナリ

六月二十六日始メテ船ヲ水中ニ浮ヘ次テ之ヲ「ヒゼテック」島ノ南ニ集合セリ北岸ヨリ此島ニハ夜間一橋梁ヲ架ス其長サ百五十米諸兵ノ通過スルヲ得ルモノナリ

又此島ニハ五個ノ砲臺ヲ築設セリ

後ニ至リ砲兵六中隊ハ「ダニユーブ」ノ上流北岸ニ陣地ヲ占ム

第一ノ上陸團ハ夜二時半「ヒゼテック」島ヲ發ス其兵員左ノ如シ

步兵十二中隊

格薩騎兵六十騎

山砲八門

總計約三千人

然ルニ此上陸團ハ水流ノ爲メ三團ニ分離セラル而シテ其第一ニ對岸ニ達セシモノハ午前三時十五分ナリ

殊ニ困難セシモノハ「テキールデレー」河口ヨリ下流ニ於テ對岸ニ達セシモノナリ即チ上陸登岸共ニ頗ル困難ヲ究ム一ニ橋門船ハ對岸ニ達シ得サリシモノアリ又山砲二門ハ人馬共ニ河底ニ沈没セリ且ツ土軍ノ水車場ニアリシ哨兵ハ第一ノ上陸兵ヲ認メ河口ヲ占領シテ發火ス

尚ホ一層困難ニ際セシモノハ第二ノ上陸團ナリ即チ土軍ハ南岸ヨリ射撃ヲ始ム殊ニ重砲二門ヲ以テ頗ル妨害ヲ爲ス

魯軍ノ山砲六中隊ハ之レニ對シテ放射セシモ容易ニ重砲二門ヲシテ沈黙セシムル能ハス之レニ因テ見レハ四十八門ノ山砲能ク重砲二門ヲ撲滅スルヲ得サ

リシ

魯軍ハ彈丸亂飛ノ下ニ在テ尚ホ渡河ヲ連續シ四時間ノ后步兵一旅團ヲ渡河セ

シムルヲ得タリ加此漸次兵力増加セシヲ以テ終ニ土軍ヲ擊退シ重砲射撃ヲ蒙  
ラサルニ至ル又汽船ハ夜間ニ「ニコポリ」要塞下ヲ過キ此時「ツルヌマヅレリ」  
ニ達セリ之レニ因テ魯軍ノ渡河ハ大ニ速ニスルヲ得タリ故ニ午前十時三十分  
ニハ第十四師團ノ他ノ旅團及ヒ獵兵四大隊渡河ヲ終レリ

此間土軍ノ支隊ハ「ウアルゲン」ヨリ「シストウア」ニ來テ展開セリ

午前九時ニ至ル迄魯軍ノ情况ハ頗ル困難ナリシ動モスレハ「ダニユーブ」川中

ニ擊墜セラレントセリ然レモ辛フシテ漸次ニ南方及ヒ西南ニ向テ地ヲ略シ午

後二時ニ「シストウア」南ノ高地ヲ占メ三時ニハ「レストウア」ヲ略取スルヲ得

タリ

土軍ハ南方「ナルノウア」ノ方向及ヒ東方「ルーチユク」ノ方向ニ退走セリ

後方ニ位置セシ魯軍諸隊モ亦續テ前進シ渡河ハ間斷ナク之ヲ施行セリ故ニ午

後九時ニハ二万二千人ハ己ニ「ダニユーブ」南岸ニ移レリ

土軍ハ其近傍ニ預備兵ヲ有セサリシヲ以テ魯軍ノ此運動ヲ妨クル能ハス故ニ

魯軍ハ終ニ渡河ヲ強行スルヲ得タリ

此渡河ノ爲メ魯軍ハ將校二十七名兵卒七十五名ヲ喪ヘリ

魯軍ノ渡河ハ激流ノ爲メ頗ル不規則ノモノナリシ即チ軍隊ハ其建制ヲ保ツ能

ハスシテ種々ニ混亂セリ

土軍ハ四千乃至五千ノ歩兵及ヒ砲兵二中隊ヲ以テ南岸ニ好陳地ヲ占ム之レニ

對シテ魯軍ハ此渡河ヲ強行セリ其勇氣實ニ感スヘシ殊ニ地形ノ不利ナルヲ意

トセスシテ之ヲ爲セシハ驚クヘキナリ最モ魯兵ノ運動ヲ困難ナラシメシモノ

ハ此地方葡萄園ノ多キニアリシ

架橋材料ハ六月二十七日ヨリ二十八日ニ亘ルノ夜及ヒ二十九日ニ於テ危害ナ

ク運フヲ得タリ然レモ「ダニユーブ」川漲溢セシヲ以テ大ニ架橋ヲ困難ナラシ

メタリ

實際架橋ハ二十八日ニ着手セシモ其完成セシハ七月二日ニアリ

此架橋完成セサル以前ハ騎兵ヲ南岸ニ送ル能ハス從テ南方ノ地ヲ搜索スルヲ得ス此間徒ニ南岸ニ駐止セシ魯軍ノ情况想フヘシ是レ四角要塞附近ニアル土軍ハ何時逆撃シ來ルヤ知ル可ラサルヲ以テナリ此地ヨリ「ルーチユツク」ニ至ル凡ソ十六里(日本里程)二日乃至三日行程ナリ故ニ土軍ハ強勢ナル兵力ヲ以テ南岸ニアル魯軍ヲ撃破スルヲ得シナリ抑モ土軍ノ此策ヲ取ラサリシハ實ニ魯軍ノ僥倖ト云フヘキノミ此ヲ以テ魯軍ハ左ノ如ク渡河セリ

七月三日第八第十三軍團及ヒ別働隊ハ「ダニユーブ」南岸ニ集合ス

同 八日第十二軍團渡河終ル

同九日十日第九軍團渡河ス第九軍團ハ「ニコポリ」ニ對シテ位置セシモノナリ此時「ルーマニ」國ノ軍團來テ之ニ交代ス

此狀況ニ因テ見レハ「ダニユーブ」南岸ニ於ケル真ノ作戰ハ七月四日ヨリ之ヲ

始ムルヲ得依テ魯軍ハ此日前衛團ヲ編成ス將官「グールコ」氏其指揮官タリ此前衛ニハ從來ノ別働隊ヲ用ヒ之レニ加附スルニ「ビユルガリー」步兵六大隊及ヒ獵兵四大隊並ニ第九軍團ノ騎兵第二聯隊ヲ以テセリ故ニ其兵力ハ左ノ如シ

步兵十大隊

騎兵三十中隊半

騎砲兵三中隊(一中隊)

山砲兵二中隊(一中隊) 總計砲三十四門

前衛ノ任務ハ「チルノバ」及ヒ「セルビ」ヲ經テ「バルカン」山ノ峠ヲ占領シ且ツ

騎兵ヲ以テ遠ク前方ヲ搜索スルニアリ

第八軍團ハ前衛ニ續行ス

第十二及ヒ第十三軍團ヲ以テ一軍ヲ編成ス皇太子「ニコラス」自ラ之ニ將タリ

此軍ハ「ジヤントラ」河ヲ經テ前進シ「ルーチユック」ヲ孤立セシメントス之レ  
 カ爲メ「Jantra シユームラ」ニ對シテ監視ヲ爲ス  
Rontschonk  
 第九軍團ハ「ニコポリ」ニ向テ前進ス此軍團ニハ後ニ至リ前衛ヨリ「コザツク」  
Nicopolis  
 騎兵旅團ヲ屬セシム  
Cosques

以上述フルモノ、外第四軍團ハ六月中旬國境ヲ踰ヘ今ヤ「シストウア」ニ向テ  
 行進中ナリ此軍團ハ該地ニ着セハ皇太子ノ軍ニ編入セラレ、モノナリ  
Sistova  
 第十一軍團ハ駐止シ居レリ

將官「グールコ」ハ直ニ「ナルノヴァ」ニ向テ前進シ七月五日「ビエラ」高地ニ達  
Gourko  
 ス此地ニハ「ジヤントラ」河ニ架スル二三ノ石橋アリ故ニ此占領ハ軍事上最モ  
Jantra  
 緊要ノモノナリ「ジヤントラ」河ノ性質ハ後ニ精ク述フル所アルヘシ

六日第十二軍團ノ歩兵「ビエラ」ニ達ス將官「グールコ」ノ率ユル前衛ハ此日ジ  
Jantra  
 ヤントラ「河ノ支流ナル「ルーチタ」川ニ達ス「ルーチタ」河ハ「セルウイ」ヲ  
Biela  
Routzita  
Gourko  
Routzita  
Selvi

經過シ「ナルノヴァ」北方ニ於テ「ジヤントラ」河ニ合スルモノナリ  
Timova  
 騎兵ハ左ノ如ク配置セリ

一旅團ハ右翼ニ於テ「スホウシダ」ニアリ  
Suhoundal  
 之レニ並列シテ他ノ旅團ハ「ムラデゴ」ニアリ  
Mradego  
 又他ノ一旅團ハ「ニクープ」ニアリ  
Nikoup

翌七日皇太子ハ第十二軍團ヲシテ「ビエラ」ヨリ「ルーチユック」ニ向テ前進セ  
Biela  
 シム又第十三軍團ヲシテ「ラスグラド」及ヒ「チスマンバザール」ニ向テ前進  
Rasgrad  
 セシム  
Osmanbazar

此日將官「グールコ」ハ「ナルノヴァ」ニ達セリ此處ヨリ「バルカン」山ヲ搜索ス  
Gourko  
 十二日第八軍團モ亦「ナルノヴァ」ニ達ス即チ其本隊ヲ以テ同所ヲ占領シ前兵  
Timova  
 ラ「カブロウア」及ヒ「エレナ」ニ派遣ス又第八軍團ノ騎兵師團ハ「カザン」地方  
Gabrova  
Elena  
Kazan  
 ニ在テ左翼ヲ掩護スルニ任ス之レカ爲メ「ジヤントラ」河ヲ渡リ進テ「チエル  
Jantra  
Tcherk.



コヴナ<sup>OWNA</sup>ニ向テ行進ス此途次七月十一日土軍ノ輜重ヲ襲ヒ護衛兵千五百人ヲ  
撃退シ車輪三百ヲ獲タリ

此騎兵師團ハ皇太子ノ軍ノ左側掩護ニ任セラレシヲ以テ第八軍團長ノ令下ヲ  
離レ皇太子ノ直轄トナル此景況ヲ以テ七月十三日ニ至ル迄ヲ經過セリ

魯軍ノ常ニ幸福ニ經過シ來リシモノハ全ク土耳其古軍ノ配置法宜シキヲ得サル  
ニ因ル可シトハ雖モ四角要塞内現ニ十萬ノ兵力アリ實ニ此兵力ハ魯軍ノ渡河  
兵ヲ撃退スルニ足リシナラン

例ヘ土軍ハ攻勢ヲ取ラストスルモ「ジャントラ」河ニ出テ敵ヲ拒止セサルヘカ

ラス此河ハ「ガブロウア」及ビ「ナルノウア」ヲ經過シ其北方ニ於テ「ルーケタ」

河ト合シ北流シテ「ビエラ」ヲ過キ「ダニユーブ」川ニ朝スルモノナリ

此河ハ著シク東方ニ彎曲セル地區ヲ成形シ且ツ「ビエラ」上流ニ在テハ其深

サ橋梁ニ據ラサレハ通過シ能ハサルノミナラス河岸ニ至ルノ道路亦稀ナリ殊

魯土兩軍運  
動ノ略評

ニ右岸ハ左岸ニ比スレハ十分ナル制高ヲ有ス故ニ堅固ナル良好障地タリ

尚ホ細説セハ「ルーケツク」ヨリ「ビエラ」ヲ經テ「ナルノウア」ニ通スル道路

ハ良好ナリ「ジャントラ」河ニ架スル「ビエラ」橋ハ石造ニシテ頗ル堅硬タリ然

レ此西ヨリ東ニ通スル道路此他ニアルモノハ悉ク不良ニシテ「ビエラ」下流ニ

在テハ「ジャントラ」河ニ堅固ノ橋梁ナク河岸ニ近接スル亦難シ且ツ河ノ右岸

ハ概テ峻崖一ニノ點ニ於テハ全ク垂直ノ斷岸ヲ成スアリ

地形如斯ヲ以テ土軍ハ例ヘ「シストウア」ニ向テ攻撃ヲ試ミサルモ「ジャント

ラ」河右岸ニ於テ防禦障地ヲ占メ魯軍ヲ拒支セサル可ラサルナリ

然ルニ土軍ハ恰モ空手傍觀スル如ク徒ニ十萬ノ兵ヲ擁シテ四角要塞内ニ駐止

シ志氣モ振フヲナク前面一帯ノ地ヲ魯軍ノ手裡ニ属セシム誰レカ如斯働作ニ

驚カサルモノアラシヤ實ニ疑訝ニ堪エサルナリ

抑モ戰ハ敵ノ兵ヲ搜索シテ然ル后攻撃セサル可ラス故ニ魯軍ハ「多腦」南岸ニ

渡ルヤ常ニ土軍ヲ搜索シテ先ツ之ヲ撃タサル可ラサルナリ

魯軍ハ「ビュルカリ」地方ノ土軍ヲ撃攘シ然ル后始メテ「コンスタンチノツプ  
Bulgarie Constantinople  
ル」ニ侵入スルヲ得ヘキナリ

然ルニ魯軍ハ土國兵力ノ在ル所ヲ搜索セスシテ先ツ自己ノ兵力ヲ諸方ニ分散  
セリ即チ左ノ如シ

一軍團ハ「チエルナウチダ」及ヒ「コスタンツマ」ニ

*Tschernavoda*

*Kostantza*

一軍團ハ「ルーチユク」ニ對シテ「ダニユーブ」左岸ニ

*Rautschouk*

*Danube*

一軍團ハ「シストウア」ヨリ「ニコポリ」ニ向テ

*Sistova*

*Niopolis*

一軍團ハ「ビエラ」ヨリ「ルーチユク」ニ向テ

*Bielia*

*Rautschouk*

一軍團ハ「ビエラ」ヨリ「ラスグラド」及ヒ「ナスマンバザール」ニ向テ

*Bielia*

*Rasgrad*

*Osmanliazar*

一軍團ハ「ナルノウア」附近及ヒ其南方ニ殊ニ此前衛ハ「バルカン」山ヲ踰

*Tirnova*

*Balkan*

エテ南方ニ行進セントス

又二軍團ハ北海ニアリ而シテ全軍ノ爲メ本軍トナルヘキ首幹ナシ一軍團尚使  
用シ得ヘキモノアリト雖モ未タ來着セサルナリ(第四軍團ノヲ云フ)  
如斯兵力ヲ分割スルノ誤リハ畢竟土軍ノ無爲ナルヨリ致セシトハ雖モ到底不  
幸ノ果實ヲ結フニ至ランノミ

千八百七十七年 魯土戰史筆記第五回 明治二十一年一月廿七日

以上述フル所ニ因テ見レハ土軍ハ全ク魯軍ノ先制ヲ受ク是レ一ハ土軍總督タル老將軍ノ性質ニ基因スト雖モ土軍ノ編制不良ニシテ運動ヲ自由ニ爲ス能ハサルモノ亦タ大ニ其源因ヲ爲セリ

抑モ防禦ノ爲メ地形ノ障害ヲ利用シ得ヘキ土國ノ如キハ蓋シ比類ナシ實ニ土

境「ダニユーブ」川ノ如キハ一大障害ニシテ世界ニ稀ナルモノナリ且ツ其南方

*Danube*

ニハ「バルカン」大山脈アリ加フルニ「ダニユーブ」河岸及ヒ其南方ニハ數多ノ

*Danube*

要塞アリ又海ハ自ラ之ヲ制シ居レリ

之レニ因テ見レハ土軍ハ魯軍ニ比スレハ有利ノ地位ニ居レリ然ルニ前述スル所ノ經過ニ因レハ土軍ハ一モ此地形ヲ利用セシテ見ス魯軍ノ多ク困難セシモノハ土軍ノ抗抵ニ因ルニ非スシテ地形ノ障碍アリシカ爲メノミ  
或曰ク土軍總督ハ魯軍ヲシテ過度ノ企望ヲ起サシムルカ爲メ自ラ運動ヲ爲サ

サリシナリト總督ノ計畫果シテ此ノ如クナリシナラハ好ク魯軍ノ性質ヲ推想  
 セシモノト云フヲ得ヘシ實ニ魯軍ハ其計畫ヲ妨ケナク實施シ得シヲ以テ過大  
 ナル企望ヲ一時ニ強行セントスルニ至レリ  
 抑モ二國ノ戰爭ニ在テハ一國先ツ他國ノ軍隊ヲ挫折セサル可ラス他國ノ軍隊  
 已ニ戰鬥力ヲ失ヘハ萬事皆ナ意ノ如クナラサルハナシ  
 故ニ魯軍「ダニユトブ」ヲ渡ルヤ先ツ土軍ヲ挫折スルヲ努メサル可ラス之レ  
 カ爲メニハ土軍首力ノアル所ヲ索メ之レニ向テ首ナル攻撃ヲ爲スヲ要ス魯軍  
 ハ之レカ爲メニ使用スルニ足ルノ騎兵ヲ有セリ而シテ之ヲ爲サス且ツ其用法  
 ハ最モ拙ナリシ即チ此過失ハ忽チ不幸ノ結果トナレリ  
 此時ニ至ルマテ土軍ノ情況ニ就テ魯軍ノ知レルモノハ只間諜ニ因テ土軍ノ大  
 部ハ四角要塞附近ニ又一部ハ「ウイゲン」附近ニアリト云フニ過キス故ニ魯軍  
 ハ「ウイゲン」及ヒ四角要塞ニ向テ數多ノ偵察支隊ヲ出シ又土軍ノ首力アル方  
 向ニハ成ル可ク衆多ノ兵力ヲ集合シテ前進スルヲ要ス

然ルニ魯軍ハ之ヲ爲サスシテ却テ枝葉ノ事ニ力ヲ勞セリ

魯軍以爲ラク此戰爭ノ基因ハ「ビュルカリ」ヲ土國政府ヨリ除カントスルニア  
 リ故ニ先ツ「ビュルカリ」ノ首府「チルノウア」ヲ占領スルヲ要ス之レニ次クニ

「バルカン」山ヲ踰ヘテ南進スヘキナリト

此目的ヲ實行センカ爲メ魯軍ハ一軍ヲ編成シ皇太子親ラ之ヲ指揮シ四角要塞  
 ニ對向シ而シテ南進スル諸隊ノ運動ヲ掩護ス

已ニ述フル如ク魯軍ノ前衛團ハ七月七日「チルノウア」ニ達セリ此地ハ「チス

マンバザール」ヨリ派遣セシ土軍ノ小支隊之ヲ守備セリ然レモ魯軍ハ急ニ襲

フテ之ヲ略取ス依テ此地ヨリ南方「バルカン」山ヲ搜索ス

七月十二日第八軍團モ亦タ「チルノウア」ニ達ス依テ前衛團ト合シテ前兵ヲ

「ガブロウア」及ヒ「エレナ」ノ兩方向ニ派遣セリ

七月十四日  
ニ至ル第九  
軍團ノ働作

此間「ダニユーブ」左岸ニ駐止セシ第十一軍團ヲ招致セリ是レ皇太子ノ軍ノ右翼ヲ延伸シ且ツ殊ニ「ナスマンバザール」ノ方向ヲ監視セシメンカ爲メナリ而シテ左岸ニハ唯第十一師團ノ一部分及ヒ騎兵ニ聯隊ヲ殘留ス  
第十一軍團ノ渡河ハ東方ニ在テハ「ルーチユック」ニ對スル第十二軍團ノ一部及ヒ西方ニ在テハ第九軍團ノ爲メニ掩護セラル而シテ其渡河ハ第十二軍團「ローム」河（ルーチユックノ附近ニ於テ）「ダニユーブ」川（朝ス）ニ達セシキ即チ七月中旬ニ於テ終ルヲ得タリ

六月中旬魯國々境ヲ超ヘシ第四軍團ハ七月二十日「シストウア」ニ來着スルノ預定ナリ

魯國第九軍團及ヒ「コザク」騎兵旅團ハ西方ニ向テ働作スヘキモノナリ此兵カハ十分ナルモノナルヤ否ト人問ハ、予ハ否ラスト答ヘンノミ何トナレハ「ウイヂン」附近ニハ五萬ノ土軍在リ其後尚ホ増加セシナラン又「ニコポリ」要

七月十二日  
ヨリ十九日  
ニ至ル第八  
軍團及ヒ前  
衛團ノ働作

塞ニハ土軍八千人アリ以テ絶ヘス「シストウア」ノ橋梁ヲ脇威ス故ニ魯軍此橋梁ヲ安全ニ使用セント欲セハ先ツ此要塞ヲ略取スルヲ要ス又此要塞ヲ得レハ此附近ニ第二ノ橋梁ヲ作り且ツ要塞ヲ以テ橋頭堡ト爲ヌヲ得加之此場合ニ至レハ「ストラナナ」ニ至ル迄鐵道ヲ使用シ然ル后チ「ナルテツ」河ヲ航運シ得ルノ便アリ（一般圖ニ示ス所ノ「ブーカレスト」ヨリ「シストウア」ニ通スル鐵道ノ如キハ當時敷設シアラサリシナリ）此ヲ以テ魯軍ハ速ニ「ニコポリ」ヲ占領セサル可ラス之レカ爲メニハ其兵力ハ決シテ十分ナリト云フヲ得サレハナリ實ニ魯軍中西方ニ向テ警戒スヘキ軍團ハ又「ニコポリ」要塞ヲ略取スヘキノ任務ヲ受ク即チ該軍團長ハ「ニコポリ」要塞ノ多ク崩壞シアルヲ知ルヲ以テ先ツ強襲ヲ行ハンカ爲メ前進シテ七月十四日要塞前ニ達セリ  
右ノ運動ヲ爲ス間ニ於テ魯軍總督皇太子ハ其本營ヲ「ナルノウア」ニ移轉セリ又第八軍團ト前衛團ハ「シプカ」峠畧取ノ運動ヲ始ム

「シプカ」峠ハ「ナルノウア」ヨリ「ケザンリツク」ニ通スル道路上ニアリ「バル  
Schipka Hirnova Kozanlik Bal-  
カン」山脉ヲ横通スル最大道路ナリ四季共ニ車行スルヲ得土軍ハ標高1318ノ  
Kan  
點第三号圖(近傍ニ防禦工事ヲ施シ以テ堅ク守備セリ

「シプカ」ノ正面ニハ第八軍團ノ混成旅團「ガブロボ」ヲ經テ前進ス又同時ニ背  
Schipka Galnova  
面ヨリ之ヲ攻撃センカ爲メ將官「グールコ」ハ前衛團ヲ卒ヒ支道ヨリ前進ス此  
道路ハ一ノ間道ニシテ住民ノ外知ルモノナシ (Gomko)

「シプカ」攻撃ハ十七日ヲ期シテ前後ヨリ同時ニ發センヲ約セリ  
Schipka

前衛團ノ出發前二日即チ十日ニ於テ乘馬工兵團ヲ派遣セリ此工兵團ハ「コザッ  
ク」聯隊ヨリ採ル所ノモノニシテ先キニ諸軍隊「ダニユーブ」川ヲ渡ルニ際シ  
Danube

「ヂユルヂエウチ」附近ニ在テ道路修築ノ演習ヲ爲サシメタルモノナリ  
Hingovo

前衛團ノ一部ハ前兵トナリテ己ニ「エレナ」附近ニアリ將官「グールコ」ハ輜重  
Elena Gomko  
ノ大部ヲ「ナルノウア」ニ留メ自ラ「エレナ」ヲ經テ前進シ十二日「ドエロウア  
Irnova Elena Doyevomost

モスト」ニ達ス此處ニ於テ道路ノ教導ヲ募リ十三日「パロスチ」ニ達セリ此地  
Pavshi  
ヨリ前方ニハ己ニ車ヲ通スルヲ得ス依テ彈藥ハ車輛ヨリ卸下シ一部ハ荷擔シ  
一部ハ地上ヲ挽行スルヲ要セリ  
非常ナル勞力ヲ以テ前衛團ノ先頭ハ十五日ニ「ハインキユーイ」ニ達スルヲ得  
Hainkein  
タリ

土軍ハ魯軍ノ此道路ヨリ侵來スルヲ考慮セス故ニ其守備モ亦タ甚タ薄弱ナ  
リシ

魯軍ハ山頂ニ至ルニ及ンテ初メテ土軍ノ支隊約三百人ニ出會セリ然ルニ暫時  
ノ后此支隊ハ「スリヴ」ノ方向ニ退却セリ  
Slivno

魯軍「バルカン」山ヲ通過スル爲メニハ死者一人傷者五人ノ損失アリシノミ  
Balkan  
魯軍ハ先ツ歩兵砲兵ヲ山頂ニ集合シ騎兵ヲ以テ東南及ヒ西方ヲ搜索ス即チ東  
ニ在テハ「トウアルヂッア」ノ方向ニ至ル此近傍ニ於テ土軍ノ一支隊ニ出會シ  
Tvalitza

此市街ニ退ク又南ニ在テハ「エニザグラ」迄搜索ス此處ニ於テ「ヤンボリ」ニ  
通スル鉄道ヲ破壊セントセシモ土軍ノ妨クル所トナリ果タサス然レモ「エス  
キザグラ」ニ通スル電線ヲ切斷スルヲ得タリ西ニ在テハ「ジャイキユー子」ニ  
至ルマテ搜索ス

將官「グールコ」ハ步兵二大隊山砲十四門ヲ「ハインキユウイ」ニ留メ前衛團ノ

殘余ヲ以テ西方「トウンチャ」河ノ低地ヲ經テ前進ス十六日夕「グールコ」ハ

「マグリ」ニ達ス土軍ハ「ケザンリツク」ニ退ク此日魯軍ハ士卒六拾人ヲ失フ

十七日ハ續テ「ケザンリツク」ニ進ム然ルニ此地ヲ去ルハ吉羅米ニシテ又土軍

ト戰フ土軍ノ步兵二大隊砲三門ノ一支隊ハ敗レテ北方「シプカ」峠ノ方向ニ退

ク魯軍ハ生擒三百人砲三門ヲ獲而シテ「ケザンリツク」ヲ占領ス

將官「グールコ」ハ尚ホ續テ「シプカ」峠ニ向ヒ前進ス午后ニ至リ騎兵ハ同處南

方ニアル「シプカ」村ヲ占ム夜ニ至テ步兵モ亦タ此地ニ達スルヲ得タリ

將官「グールコ」ハ首トシテ騎兵ヨリ成ル前衛團ヲ率ヒ凡ソ困難ノ極度ナル山

間ノ小徑ヲ六日間二百二十五吉羅米行進セリ實ニ其効程ハ非常ナルモノト云

ハサル可ラス

是ヨリ先キ將官「グールコ」ノ「ナルノウア」ヲ發スルヤ十七日ニ於テ「シプカ」

峠ノ土軍ヲ前後ヨリ挾撃スルヲ約セリ然ルニ「グールコ」氏ハ十八日ニ非サレ

ハ此攻撃ヲ爲ス能ハス

之レニ反シ「シプカ」峠ノ北方即チ土軍ノ正面ニ對シテハ十七日ニ於テ彼混成

旅團ハ步兵三大隊騎兵四中隊半砲十門ヲ以テ攻撃ヲ爲セリ然レモ將官「グー

ルコ」ノ援助ヲ得サリシカ爲メ功ヲ奏スル能ハス二百三十名ノ士卒ヲ失フタ

ル后夜間「ガブロヴァ」ニ退却スルニ至レリ

十八日將官「グールコ」ハ步兵二大隊半ヲ以テ南方ヨリ土軍ノ背後ヲ衝キシモ

其効ナク百八十名ヲ失フテ而シテ退却セリ茲ニ於テ更ニ期ヲ約シテ前後ヨリ

挾撃セント欲ス依テ土民ヲ徵シテ使者トナシ山間ヲ經テ「ガプロヴァ」ニ赴カシム而シテ此使者ノ歸來スル迄左ノ配置ヲ取レリ

歩兵五大隊

騎兵十二中隊

騎砲兵三中隊

歩兵五大隊半

騎兵十四中隊

山砲十四門

「シプカ」村ヲ占領ス  
Schipka

「ケザンリツク」ニ陣地ヲ占ム  
Kezanlik

是ヨリ先キ「ハインキユーイ」ニ留メシ軍隊ニハ「ケザンリユツク」ニ來ルヘキノ命ヲ發セリ  
Hainkiemi Kezanlik

此間ニ於テ「シプカ」峠ノ土軍ハ使ヲ以テ休戦ヲ乞フ而シテ十九日ニ山背ニ浴テ西方ニ去ル茲ニ於テ魯軍「シプカ」峠ヲ得依テ第八軍團ノ一支隊ヲシテ此峠  
Schipka Schipka

七月十四日  
ヨリ十九日  
ニ至ル第九  
軍團ノ一攻  
撃

第四号圖

ヲ占領セシメ將官「グルルコ」ハ南方「アンドリノツプル」ニ對シテ正面ス  
Gourko Andrinople

第九軍團ノ歩兵一聯隊ハ先キニ「シストウア」ニ殘留セシ歩兵一聯隊及ヒ騎兵  
Sistova

二中隊ト共ニ「ブールガレニ」ニ至ル「ブールガレニ」ハ「プレブナ」ヨリ「ビエ  
Boulgareni Plevna Biela

ラ」ニ通スル道路上ニシテ「ニコポリ」ノ東南ニアリ此部隊ノ歩兵一聯隊ハ更  
Nicopolis

ニ「プレブナ」ニ向テ前進シ「ボラヂム」高地ニ陣地ヲ占ム  
Plevna Paradim

第九軍團ノ本隊ハ七月十四日「ニコポリ」前方ニ達セリ  
Nicopolis

「ニコポリ」ノ西方ニハ「ダニユーブ」川ニ朝スル「オスマ」河アリ多ク徒渉シ得  
Nicopolis Danube Osma

又其西方ニ「ウイド」河アリ同シク「ダニユーブ」河ニ朝ス  
Vid Danube

「ニコポリ」要塞ハ己ニ大ニ崩壞シ居レリ然レモ土軍ハ其周圍ニ多ク野堡ヲ築  
Nicopolis

設シ以テ之ヲ堅固ニセリ就中「ニコポリ」東南ニアル角面堡ハ最モ大ナリ又此  
Nicopolis

野堡ニ連系シテ數多ノ砲臺ヲ築ケリ  
Nicopolis

土軍ノ野營地ハ要塞ト野堡系ノ間ニアリ且ツ一支隊ハ「ウイド」及ヒ「オスマ」  
Vid Osma



河ノ中間「サムリコイ」ノ南方約二十三吉羅米ナル「ブリスラン」附近ニアリ  
 第九軍團長ハ「ニコポリ」要塞ヲ強襲センカ爲メニ縦隊ヲ編成シテ前進ス  
 第一縦隊ハ「オスマ」河ノ右岸ニ於テ要塞ノ東方及ヒ南方ヨリ攻撃セントス  
 第二縦隊ハ「オスマ」河ノ左岸ヲ行進シ先ツ其近傍ニアル土軍ノ支隊ヲ退ケ然  
 ル後テ西方ヨリ要塞ヲ攻撃セントス又此縦隊ハ「プレブナ」及ヒ「ラホウア」ニ  
 對シテ警戒スルノ任ヲ有ス故ニ騎兵ヲ多ク附属セシム  
 第一縦隊ノ兵員左ノ如シ  
 歩兵十二大隊  
 騎兵七中隊  
 砲兵七中隊  
 之ヲ左ノ如ク區分ス  
 右翼隊

騎兵三中隊「ダニューブ」川ニ沿フテ前進ス  
 左翼隊  
 歩兵三大隊(南方ヨリ要塞ニ向フ)  
 中央隊  
 歩兵三大隊  
 砲兵五中隊  
 預備隊  
 歩兵三大隊  
 騎兵二中隊  
 砲兵二中隊  
 連絡支隊  
 兵兵三大隊

(東南ヨリ要塞ニ向テ前進シ且ツ此方向ヨリ砲撃スルヲ任トス)

(此支隊ハ「オスマ」河ニ沿フテ前進シ第一第二縦隊ノ連絡ヲ保持スルヲ任トス)

騎兵二中隊

第二縱隊ノ兵員左ノ如シ

歩兵六大隊

騎兵十中隊

山砲兵三中隊 各中隊四門

攻撃ハ最初先ツ西方ヨリ行ハントス故ニ第一縱隊ノ砲撃ヲ爲ス間ニ第二縱隊ハ而南方ヨリ要塞ニ向テ前進ス

此運動間第二縱隊ハ「ウイド」及ヒ「ナスマ」河ノ中間ニ於テ土軍ノ支隊ニ出會セリ然ルニ土軍ノ此支隊ハ退路ヲ斷タル、ノ恐アリシヲ以テ退却セリ依テ魯軍第二縱隊ハ一支隊ヲ以テ之ヲ追躡シ他ハ直ニ要塞ニ向テ前進ス

土軍ハ「ナスマ」ノ東方「ニコポリ」ノ西方ニ於テ防禦ス此地ニハ稍激烈ナル戦闘ヲ爲セリ之レカ爲メ連絡支隊モ亦此戦ニ參與スルヲ要セリ魯軍遂ニ一堡壘

ヲ略取ス

此間第一縱隊モ亦タ右翼ヨリ攻撃ヲ始ム最初ハ先ツ最大堡壘(要塞ノ東南ニアルモノ)ニ向テ侵畧ヲ試ミシモ濠前ニ於テ拒止セラレ退却ス

此日早朝ヨリ布陣セシ砲兵五中隊尚ホ前進シ且ツ預備隊ヲ招致スタニ至テ連絡支隊モ亦タ西方ヨリ來リ援ク然レモ三回ノ突撃ハ悉ク撃退セララル終ニ魯軍ノ一二中隊ハ辛フシテ咽喉部ニ達セシヲ以テ堡壘終ニ陥ル此戦闘ハ夜ニ及ヘリ而シテ魯軍ハ千三百人ヲ失フ

此堡壘陥ルノ後ハ其附近ニアル砲臺モ亦悉ク魯軍ノ手ニ落ツ此歩兵戦闘間騎兵ハ搜索ヲナシ「アレブナ」ニハ敵ノ守備ヲキチ知レリ

「高加索格薩旅團」ハ夜間歩兵ノ近傍即チ「サマリド」附近ニ招致セララル「サマリド」ハ「ウイド」河ノ「ダニユーブ」川ニ朝スル所ノ近傍ニアリ  
「サマリド」附近ニ招致セララル「サマリド」ハ「ウイド」河ノ「ダニユーブ」川ニ朝スル所ノ近傍ニアリ  
此夜魯軍ハ銃ヲ手ニシテ要塞附近ニ徹夜セリ

夜間土軍ハ要塞ヨリ西方ニ向テ突出セントセリ即チ先ツ警戒線ヲ突貫シテ次ニ格薩騎兵旅團ノ露營地ニ衝突セリ此處ニ於テ兩軍非常ノ混雜ヲ爲ス然ルニ格薩騎兵ハ退却シ魯軍ノ歩兵之レニ代テ敵ヲ扼ス此間騎兵ハ隊伍ヲ整頓シ紛亂セル突撃兵ニ向テ更ニ襲撃ヲ爲シ以テ其一部ヲ撃退シ一部ヲ囚虜トナセリ此夜東方ニ在ル魯軍ハ砲臺ヲ築キ以テ翌日ノ砲撃準備ヲ爲セリ

翌日ニ至テ「ダニユーブ」左岸已ニ築設シアル所ノ砲臺ト共ニ合力シテ要塞ヲ砲撃セリ

Danube

要塞ノ狭小部内ニアル土軍ハ馬ソ能ク之ニ耐ユルヲ得ンヤ少時抵抗ノ後チ終ニ白旗ヲ掲ケテ以テ降ヲ乞フ

魯軍ハ六千人ノ囚虜ト多數ノ砲及ヒ軍艦二隻ヲ獲此軍艦ハ曩キニ「ダニユーブ」左岸魯軍砲臺ノ爲メ損害ヲ蒙リ己ニ運轉シ能ハサルモノナリ

Danube

「ニコポリ」要塞ノ略取ハ真ニ魯土戰爭ノ端緒ナリ此戰ニ於テ魯兵ハ非常ノ猛

Nicopolis

勇ヲ顯セリ然レモ其指揮法ニ至テハ批難スヘキモノ多シ

最初分派堡ヲ攻撃スルニ當テ十分ナル準備ヲ爲サ、リシ魯軍ハ早味ヨリ之レニ向テ砲撃セシトハ雖モ突撃準備ノ爲メ最モ要用ナル集合放火ヲ施サ、リシ此等首ナル巧拙ノ歸スル所ハ兵卒ニ非スシテ魯軍將校ノ罪ナリ

「高加索格薩旅團」ノ偵察ニ因テ「プレブナ」ニハ土軍ノ守備ナキヲ知ル

魯軍總督ハ「ナルノウア」ニアリ騎兵ヲ「セルビ」ヨリ「ロバツ」方向ニ派遣ス

Plevna  
Selvi  
Iovatz

此騎兵ハ途ニシテ土軍ニ遭フ

十五日ニハ土國制外軍凡ソ一千人「ロバツ」ヨリ東方ニ前進シ來ル然レモ魯

Iovatz

軍之ヲ退ク

十七日ニハ魯軍ノ騎兵二中隊及ヒ騎砲兵一中隊ハ「ロバツ」ニ向ヒ進行ス土

Iovatz

軍凡ソ三百人ニ會フ然レモ土軍亦退ク

如此再三此近傍ニ土軍現出スルヲ以テ魯軍ノ總督ハ之ヲ掃攘セント欲シ第九

軍團ニ「プレブナ」ニ向テ前進スヘキヲ命ス  
之レカ爲ノ第九軍團長ハ左ノ兵員ヲ以テ支隊ヲ編成セリ

歩兵九大隊

格薩騎兵三聯隊(十八中隊)

歩兵第五師團砲兵四中隊

此支隊司令官ハ歩兵第五師團長將官「シルデルシユールドチル」氏ナリ同氏ハ「プレブナ」ヲ占領スヘキノ命ヲ受ケ十八日ニ縱隊トナリテ前進ス其區分左ノ如シ

右翼隊

歩兵六大隊

騎兵四中隊

砲兵四中隊

左翼隊

歩兵三大隊 (是迄「ブルガレニ」ト「プレブナ」ノ間ニアリシモノ)

騎兵十二中隊

砲兵一中隊 (別ニ附属セシムルモノ)

格薩騎兵旅團ハ此支隊ニ先タツテ前進ス

右翼隊ハ「ニコポリ」ヨリ「グリウイッア」ニ通スル道路左翼隊ハ「ブルガレ

ニ」ヨリ「プレブナ」ニ通スル道路ヲ前進シ十九日「プレブナ」附近ニ着ス

支隊司令官ハ攻撃ヲ翌日ニ於テ爲サントス此時ニ當リ「プレブナ」ハ己ニ土軍

凡六千人之ヲ守備ス

此夜魯軍支隊ハ左ノ如ク位置ス

右翼隊ハ「プレブナ」ノ北方「ウイド」河ノ低地

左翼隊即チ「ブルガレニ」ヨリ來ル諸隊ハ「プレブナ」ノ東方「スガレ

ウイツァ附近

高加索格薩旅團ハ「トウチエニツァ」附近

Toutschentza

故ニ魯軍ハ大ナル曲形ヲ以テ「プレブナ」ヲ包圍セリ即チ右翼ハ「ウイド」河ノ

Plevna

Vid

「リベン」ヨリ左翼ハ「トウチエニツァ」ニ至ル其正面ノ廣サ二十八吉米ナリ

Riben

Toutschentza

Vid

Plevna

七月廿日魯軍ノ右翼隊ハ北方「ウイド」河ノ低地ヨリ「プレブナ」ニ向テ攻撃ス

Vid

Plevna

土軍ハ魯軍ノ此ノ如ク兵力ヲ分割セシテ利用シ大縱隊ヲ以テ魯軍兩縱隊ノ中

間ニ陣地ヲ占ム殊ニ其砲兵一中隊「プレブナ」ノAナル字(第四号圖)ノ附近ニ

Plevna

アリ以テ「ウイド」河低地ヲ進行シ來ル魯軍ヲ側射セリ

Plevna

魯軍右翼隊ハ勇ヲ勵マシテ前進シ「プレブナ」市街ノ北部ニ侵入スルヲ得シモ

Vid

Plevna

更ニ優勢ナル土軍ニ出會セリ魯軍ハ九時ニ至ル迄奮闘セシト雖モ將校ノ多ク

Plevna

ヲ失ヒ且ツ此戰鬪間土軍ハ漸次二万人ノ多キニ至リシヲ以テ竟ニ敗レテ北方

ニ走ル

七月廿日ニ於ケル「プレブナ」第一ノ攻撃

土軍敢テ之ヲ追ハス且ツ魯軍ノ「ニコポリ」ヨリ新ニ來ル所ノ歩兵三大隊ハ此

Nicopolis

退却ヲ收容セリ依テ右翼隊ハ「ブリスラン」附近ニ於テ再ヒ整頓スルヲ得タリ

Byzian

左翼隊ハ此攻撃ニ協力スルヲ得ザリシ何トナレハ右翼隊ヨリハ七吉羅米ノ距

離ニアリ故ニ獨立シテ「ブルワイツァ」ニ向ヒ戰鬪セシナリ此地ニ於テ

Civilian

モ魯軍ハ初メ勇進シテ一部ノ地ヲ略セリ然レモ優勢ナル土軍ニ遭遇シ攻撃功

ヲ奏セサルノミナラス高等將校陣亡シタル後ハ敗走シテ「ブールガレニ」ニ遁

Boilgarini

逃ス

タリ

土軍又之ヲ追ハス且ツ高加索格薩旅團ノ掩護ニ因テ此隊モ亦整頓スルヲ得

タリ

此戰ニ於テ魯軍ハ大損亡ヲ爲ス即チ左ノ如シ

將校七十五人

下士卒二千八百人

彈藥車十七輛

之レニ因テ觀レハ魯軍ハ戰鬥ニ與リシ兵員ノ四分一以上ヲ失ヘリ

魯軍ハ此夜「ブリスラン」及ヒ「ブールガレニ」附近ニ宿營セリ

*Bryslan*

*Boulgareni*

此魯軍ノ敗北ハ一ニ土將「ナスマンパシヤ」ノ力ニ因ル是ヨリ先キ同氏ハ五萬

*Osmanpacha*

ノ兵ヲ以テ「ウイザン」ニツリ同所ニ三萬五千人ヲ留シ其他ノ兵ヲ率ヒテ七月

*Widin*

七日發途シ先ツ「ダニユーブ」川ニ沿フテ行進ス其最初ノ目的ハ「ニコポリ」ニ

*Danube*

*Nicopolis*

向テ行進シ敵若シ同所ニアレハ之ヲ擊退セントスルニアリ然ルニ「ラホウア」

*Rahova*

ニ達スル頃「ニコポリ」ハ己ニ陥ルヲ知ル依テ直チニ道ヲ轉シテ「プレブナ」ニ

*Nicopolis*

*Plevna*

向ヘリ而シテ此兩三日前ヨリ「プレブナ」内及ヒ其周圍ニ軍隊ヲ集中セリ故ニ

*Plevna*

最初六千人ナリシ守兵モ二十日ニハ己ニ二萬人ノ多キニ及ベリ

又二十日魯軍ノ敗走スルヤ土軍ハ「プレブナ」南方東方及ヒ北方ニ防禦工事ヲ

*Plevna*

築設ス

魯軍ノ敗後  
「プレブナ」  
第二ノ攻撃  
ニ至ル間  
景況

二十六日ニ至リ「ロバツ」ニアリシ魯軍モ亦タ擊退セラル爰ニ於テ魯軍ノ右

*Lowatz*

翼ハ最モ脇威セラル、ニ至レリ

「プレブナ」ノ敗ハ實ニ魯軍ノ不注意ナリシヲ証スルニ足ル即チ魯軍ハ多數ノ

*Plevna*

騎兵ヲ有セリ若シ之ヲ以テ「ウイザン」ノ方向ヲ十分ニ偵察セハ「ナスマンパ

*widin*

*Osman pacha*

シヤ」ガ「プレブナ」附近ニ大兵ヲ集合スルヲ知リシナラン之ヲ知レハ又如此

*Plevna*

敗ヲ取ラサリシナラン

將官「シルデルシユールド子ル」ハ「プレブナ」ニ如此衆多ノ敵兵アルヲ知ラサ

*Schilder-Scholdner*

*Plevna*

リシ若シ之ヲ知レハ如此拙劣ノ戰鬥ヲ爲サ、サリシナラン

抑モ戰ノ前ニ於テハ可及的兵力ヲ集結スルヲ要ス又各隊ノ連結ヲ確實ニスル

ヲ要ス故ニ右翼隊ヲ以テ攻撃スルニ當リ左翼隊ヲ「ブールカレニ」ヨリ「プレ

*Boulgareni*

*Ple*

ブナ」ニ通スル道路ノ南方ニ位置セシムルカ如キハ最モ不可ナリ

*vina*

單ニ將官ノ過誤ニ因リ魯國勇兵ノ如此不幸ノ地位ニ陥リシハ實ニ憫ムヘキナ

リ兵卒ノ勇猛ナリシハ其死傷ノ多キヲ以テモ之ヲ証スルニ足ル  
實ニ此戰ニ於テ右翼ハ一旦「プレブナ」ニ侵入スルヲ得タリ又左翼ハ三回土軍  
ヲ撃退セリ然レモ土軍ノ兵力ハ己レニ三倍ナルヲ知ルニ及ンテ終ニ退却ス  
ルニ決セリ夫交戰中退却ヲ爲サントスルカ如キハ困難中ノ最モ困難ナルモノ  
ナリ

此戰ニ於テ將官「シルデルシユールドテル」ノ全敗セサリシモノハ其功ニ非  
スシテ土軍ノ之ヲ追撃セサリシニ因ル  
*Schilder—Schouldner*

何故ニ土軍カ追撃ヲ爲サ、リシヤハ之ヲ知ル能ハスト雖モ其編成不良ニシテ  
堡壘ノ背后ニ在テ戰フヲ得ルモ進テ敵ヲ攻撃スルノ能力ヲ有セサリシニ因ル  
ナラン

魯軍ハ「プレブナ」ノ敗報ヲ得シト雖モ未タ土軍ノ精細ナル情報ヲ得ス唯魯軍  
ノ最大緊要ナル渡河點「シストウア」ヨリ三日行程ナル「プレブナ」附近ニ土軍  
*Plevna* *Sistova* *Plevna*

約二萬人アルヲ知ルノミ

然レモ今ヤ魯軍ハ己ニ全軍ヲ擧テ「プレブナ」ヲ攻撃セサル可ラサルノ時期ナ  
リ然ルニ魯軍總督ノ意圖未タ此ニ至ラス以爲ラク「プレブナ」ノ土軍ヲ撃破ス  
ルニハ大軍ヲ要セスト  
*Plevna*

之レニ因テ第九軍團長ヲシテ先キニ「ニコポリ」ニ残留セシ諸兵ヲ率ヒテ更ニ  
「プレブナ」ニ向テ進マシム之レカ爲メ「ルーマニ」國軍團ヲシテ「ニコポリ」ノ  
守備ヲ交代セシム  
*Nicopolis* *Roumanie* *Nicopolis*

又「シストウア」ニ残留シアリシ第一師團ハ新ニ采テ第九軍團長ノ指揮ニ屬ス  
其他第十一軍團長ノ歩兵一旅團及ヒ騎兵一旅團即チ皇太子ノ軍ノ背後ニアリ  
テ運動シアリシモ此時「ナルノウア」東方ニ達セリ是レ亦タ「プレブナ」ニ向  
テ前進スヘキノ命ヲ受ク  
*Sistova* *Tirnova* *Plevna*

故ニ以上ノ諸兵ヲ合算スレハ「プレブナ」第二ノ攻撃ニ用ヒ得ヘキ兵數ハ殆ン  
*Plevna*

ト三萬五千人ナリ魯軍總督ハ此兵員ヲ以テ「プレブナ」ヲ畧取スルニ足ルモノト考定セリ

是ニ於テ將官「グールコ」ニハ尚ホ南方「アンドリノツアル」ニ向ヒ前進セシム

ルニ決ス且ツ之レニ第八軍團ノ半師團ヲ續行セシム又第八軍團ノ殘余ハ留テ

「シプカ」峠及ヒ「ナルノウア」ノ占領ニ任ス

魯軍總督ハ「プレブナ」ノ第一敗ニ因テ己ニ其過大ナル計畫ヲ一時ニ強行スル

ノ非ナルヲ覺ラサル可ラス然ルニ「プレブナ」第二ノ攻撃ニ失敗スルニ至テ始

メテ其企望ノ不可ナルヲ感セリ是レ實ニ晩シト云ハサルヲ得ス

セリ

千八百七十七年 魯土戰史筆記第六回 明治二十一年三月三十日

己ニ述ヘシカゴトク將官「グールコ」ハ七月十九日ニ「シプカ」峠ヲ占領

セリ

魯軍本營ハ此喜フ可キ報知ト共ニ更ニ悲ムヘキ報知ヲ得タリ即チ「プレブナ」

攻撃失敗ノ第一報ナリ

此失敗ハ魯軍ノ不注意ト且ツ其軍隊ヲ過度ニ分離セシニ因ル此戰鬪ノ勝者ハ

土將「オスマンパシヤ」ナリ同氏ノ率ユル軍隊ハ前年「セルビ」ニ於テ勝ヲ制セ

シ士卒ナリ

此勝利ノ翌日「オスマンパシヤ」ハ全軍隊ヲ「プレブナ」附近ニ集合シ尚「ソセ

ヤ」ヨリモ軍隊ヲ招致シ加之周圍ニ防禦工事ヲ施セリ

魯軍總督ハ「プレブナ」ノ不幸ヲ聞テ大ニ驚キシト雖モ未タ南方「アンドリノ

プル」ノ侵入ヲ斷念スル能ハス以爲ラク「プレブナ」攻撃ハ第九軍團悉皆ヲ用

ブル」ノ侵入ヲ斷念スル能ハス以爲ラク「プレブナ」攻撃ハ第九軍團悉皆ヲ用



ユレハ足レリト

初メ魯國人ハ「ルーマニ」軍隊ノ援助ヲ受クルヲ欲セサリシ是レ此軍隊ヲ良好

Roumanie

ナラスト思意セシヲ以テナリ然レモ此時ニ當テハ勢ヒ彼レノ救助ヲ求メサル

ヲ得サルニ至レリ依テ同國軍團ノ第四師軍團ヲ招キ「ニコポリ」要塞ノ守備ニ

Nicopolis

任セリ

之レニ因テ第九軍團ノ全隊(歩兵二聯隊欠)ヲ「プレブナ」攻撃ニ使用シ得ルニ

Plevna

至レリ

其他第四軍團ノ先頭ナル第三十師團即チ此時「シストウア」ニ着セシモノ及ヒ

Zistowa

第十一軍團ノ兵若干ヲ以テ之ヲ増加ス

「プレブナ」第二攻撃ノ指揮官ハ第九軍團長「クリユドチル」氏ナリ

Krudoner

以上ノ諸兵ヲ合シテ三萬五千人ハ將官「クリユドチル」ノ揮下ニアリテ七月二

Krudoner

十五日「プレブナ」附近ニ達セリ

Plevna

七月二十日  
ヨリ八月六  
日ニ至ル將  
官「グール  
コ」ノ働作

「プレブナ」第二ノ攻撃間將官「グールコ」ハ南方ニ前進ス

Plevna

Gourko

土軍ノ小支隊「シプカ」峙ヲ棄テ去ルヤ將官「グールコ」ハ南方ニ向テ侵入ス而

Schipka

Gourko

シテ其兵力ハ第八軍團ノ半師團ヲ以テ増加セララル

第八軍團ノ殘余ハ留テ「チルノウア」及ヒ「シプカ」峙ヲ守備ス

Tinowa

Schipka

「グールコ」ハ先ツ「ケザンリツク」ニ駐止シテ増兵ノ來着ヲ待ツ此増兵ハ第九

Gourko

Kezanlik

師團ノ歩兵六大隊砲兵二中隊ニシテ先ニ「グールコ」ノ通過セシ道路即チ「ハ

Gourko

インキユーイ」ヲ經テ來ル

Hainkienni

此ニ於テ「グールコ」ノ率ユル兵員ハ左ノ如クナレリ

Gourko

歩兵十六大隊半

騎兵三十中隊

砲四十八門

總計

歩卒一萬二千人  
騎士四千騎

此諸兵ノ「バルカン」山南方ニ出テシ頃ハ其地方住民殆ソド皆遁散セリ其住民  
ノ一部ハ土國人ニシテ一部ハ「ビュルガリー」人ナリ而シテ「ビュルガリー」人  
ハ「グールコ」ノ續テ南進センヲナ請求ス  
Balkan  
Bulgaria  
Gourko

二十二日「グールコ」ハ騎兵五中隊砲二門ノ支隊ヲ作り「エスキザグラ」ノ方向  
ヲ搜索セシム此騎兵ハ土國軍隊ノ鐵道ニ沿フテ集合シアリシヲ見ル  
註鐵道ハ「トルノウア」ヨリ「ヤンボリ」ニ通スルモノヲ云フ其他端ハ「ヒリッ  
ポポリ」ニ通ス  
Trioava  
Yamboli  
Paphos  
Gourko

茲ニ於テ二十三日多クノ騎兵ヲ「エスキザグラ」及ヒ「ケザンリツク」ヨリ派遣  
シ偵察ト鐵道破壊ニ任ス  
二十四日「カジヤチツク」ノ停車場ヲ破壊シ「トルノウア」附近ニハ土軍ノ集合  
Kajandjik  
Trioava

編者記ス第  
三号圖中  
「カラブー  
Karabouna  
ナ」ト「カラ  
ブナール」  
alounar  
ナルニ地点  
アリハ鉄  
道ニ隣接シ  
他ハ「エニ  
サグラ」ト  
「エスキザ  
Eski-zagra  
グラ」ノ間  
ニアリ注意  
アルハシ

シアルヲ確認セリ「トルノウア」ヨリ「ヤンボリ」ニ通スル線路上「カラブーナ」  
ニハ土兵約四大隊アリ故ニ其南方ニハ近接スル能ハス依テ其北方二三ノ點ニ  
於テ鐵道ヲ破壊セリ  
二十四、二十五兩日ニ於テ新編成ノ「ビュルガリー」兵六大隊及ヒ多クノ騎兵  
ヲ以テ「エスキザグラ」ノ支隊ヲ増加ス依テ其總兵員ハ歩兵六大隊騎兵五中隊  
砲十二門トナレリ  
Eski-zagra  
Bulgaria  
二十八日ニ至ル迄鐵道ノ偵察ヲ連續セリ而シテ此諸偵察隊ハ屢々諸兵連合ノ  
土軍ニ出會セリ且ツ鐵道附近ナル「エニザグラ」モ亦タ土軍ノ占領スル所トナ  
レリ  
Yenizagra  
茲ニ於テ將官「グールコ」ハ全兵ヲ以テ「エニザグラ」ヲ突撃セント欲ス是レ一  
ハ敵情ヲ偵察シ一ハ要地ヲ占領シテ「アンドリノプル」ヨリ來ル土軍ノ増兵ヲ  
Andrinople  
扼止センガ爲メナリ

俄テ二十九日三縱隊ト成テ前進ス將官自ラハ歩兵四大隊騎兵二中隊徒歩砲六門ヲ以テ「ケザンリック」附近ヨリ「エリゴボ」ヲ經テ進行ス

之レト同シク第八軍團ヨリノ増兵歩兵六大隊騎兵二中隊砲十六門ハ「ハイン

キユーイ」ヨリ「エニザグラ」ニ向テ前進ス

第三ノ支隊ハ「エスキザグラ」ヨリ大街道ヲ經テ「エニザグラ」ニ向フ而シテ三

縱隊ハ三十日ニ於テ集結センヲ期ス其法最初二縱隊ハ「エニザグラ」ノ北方ニ

於テ次ニ第三支隊ニ會合スルニアリ

然ルニ「エニザグラ」ノ附近ニ於テ二縱隊合シテ前進スルヤ土軍ノ抵抗ニ會フ

然レモ魯軍ハ撃テ之ヲ退ケ市街ヲ侵略シ砲二門ヲ獲且ツ此地ニアル鐵道橋ヲ

破壊セリ魯軍ノ死傷約一百人

走ル

魯軍ハ如此勝利ヲ得シト雖モ第三支隊未タ來リ合セス且西方ニ於テ砲聲ヲ聞

クヲ以テ將官「グールコ」ハ先キニ自己ノ率ヒシ四個ノ獵兵大隊(第四獵兵旅

團ト稱ス)ヲ「エニザグラ」ニ留メ他ノ兵ヲ以テ其夜直ニ「カラブナル」ニ至リ

此地ニ露營ス茲ニ於テ此日「エニザグラ」ト「エスキザグラ」トノ間ニ戰鬪アリ

魯軍支隊敗レテ「エスキザグラ」ノ方向ニ退却セシヲ知ル俄テ「クールコ」ハ第

四獵兵旅團ヲ招キ三十一日「エスキザグラ」ニ向テ進行セリ

「エスキザグラ」ノ戰況ハ次ニ述ブルカ如シ

此地ニアリシ魯軍支隊ハ二十九日「エニザグラ」ニ向テ進行セシト雖モ「カラ

ブナル」附近ニ於テ土軍ノ大兵ニ衝突シ且ツ其右側土軍支隊ノ爲メニ脅威セ

ラレシヲ以テ終ニ退却セザルヲ得サルニ至レリ而シテ其退却ハ「エスキザグ

ラ」ノ方向ニ非スシテ「ダルボカ」ノ方ニ於テセリ

三十日ニハ更ニ此地ヨリ前進ヲ試シモ再ヒ土軍ノ大兵ニ出會シ「アイデン

リ」ニ退避ス土軍ハ之ヲ追フテ「ツランリ」ニ進ム

*Dzuranti*

此夜「アイデンリ」ニ駐止セシ魯軍支隊ハ「マハレ」及ヒ「アヒキエウイ」附近ニ

*Aidanti*

*Mahale*

*Ahikieni*

於テ土軍ノ大露營火ヲ見ル是レ先キニ「モンテチグロ」ニ於テ戦闘シアリシ將

*Montenegro*

官「スレイマンパシヤ」ノ率ユル軍隊ナリ實ニ此軍隊(四十二大隊)ハ「モンテチ

*Suleiman-pasha*

*Montenegro*

グロ」ヨリ航海シ「マリツァ」河口ニ上陸シ次テ鐵道ヲ以テ輸送セシモノナリ」

*Maritza*

茲ニ於テカ土軍ノ兵力ハ三萬五千人ニ及ヘリ尚且ツ「アンドリノツプル」及ヒ

*Andrinople*

「コンスタンチノツプル」ニ駐在セシ兵ト合シテ「シプカ」岬ニ向テ突進セント

*Constantinople*

*Schipka*

セリ

故ニ一萬二千ノ兵員ヲ有シテ「エスキザグラ」ト「スリヴノ」ノ間ニアル將官

*Eskizagra*

*Slivno*

「グールコ」ハ實ニ危險ノ地位ニ陥レリ

*Gourko*

然レモ土將「スレイマンパシヤ」ト前指揮官トノ議協ハス其運動一致セサリシ

*Suleimanpacha*

ヲ以テ魯軍萬死ヲ免ル、ノ饒倖ヲ得タリ

三十一日「スレイマンパシヤ」ハ「エスキザグラ」ニ向テ前進シ其左翼ハ此市街

*Suleimanpacha*

*Eskizagra*

ヲ侵畧セリ故ニ此地方ニアリシ魯軍支隊歩兵六大隊騎兵六中隊砲兵二中隊ハ

「ケザンリツク」ニ退却ス此左翼ノ運動間右翼ニ在テハ「グールコ」ノ軍隊ニ向

*Kezanlik*

*Gourko*

テ働作セリ

魯將「グールコ」ハ「ツランリ」附近ニ於テ土軍ノ右翼ヲ撃破シ且ツ騎兵ヲ以テ

*Gourko*

*Dzuranti*

「エスキザグラ」ノ支隊ト連絡ス時三年后二時ナリ魯軍損傷甚シ「エスキザグ

*Eskizagra*

*Eskizagra*

ラ」ノ支隊ノミニ五百人ノ死傷者アリ「グールコ」ハ「ダルボカ」ニ退ク

*Gourko*

*Dalboka*

八月一日「グールコ」ハ「ダルボカ」ヨリ「ハインキユーイ」ニ退キ騎兵ヲ「ソフ

*Gourko*

*Dalboka*

*Hankieni*

ーラル」ト「エセクチ」ノ線ニ留メ土軍ヲ監視セシム此騎兵ハ八月五日ニ至ル

*Sofular*

*Esektehi*

迄其位置ニ駐在ス其間「グールコ」ハ「ハインキユーイ」ノ北ニ於テ山脈ヲ輸エ

*Gourko*

*Hankieni*

「エレン」ニ至リ同地ヲ守備ス騎兵ノ報告ニ因リ土軍ハ「エニザグラ」近傍ニ集

*Elena*

*Yenizagra*

合セルヲ知ル

八月六日騎兵モ亦タ「バルカン」山ノ北方ニ退ク

*Balkan*

如此將官「グルルコ」ノ速ニ退却セシハ敢テ「スレイマンパシャ」ノ軍隊ヲ恐レ

*Gourko*

*Suleiman pasha*

シノミニ因テ然ルニ非ラス他ニ一原因アリ即チ「プレブナ」攻撃第二回ノ失敗

*Plevna*

是ナリ

「プレブナ」第二ノ攻撃

第四号圖參照

「プレブナ」第二ノ攻撃ニ於テ將官「クリユドチル」ノ用ヒシ軍隊ハ歩兵三十六

*Plevna*

*Krudener*

大隊騎兵三十中隊砲百八十六門ナリ此軍隊ハ二十八日ニ於テ「ブリスラン」

*Bryslan*

「ボラヂム」及ヒ「ボゴト」ノ線ニアリ其線ノ全長約四十吉米ニシテ「プレブナ」

*Poradim*

*Bogot*

市街ヲ距ル凡ソ二十吉米ナリ

騎兵ハ兩翼ニ位置ス即チ騎兵十二中隊砲六門ハ右翼ニシテ「フリスラン」ニア

*Bryslan*

リ又騎兵十二中隊砲十二門ハ左翼ニアリ

左翼騎兵ハ其後有名トナリタル將官「スコベレフ」ノ率ユル所ナリ同氏ハ二個

*Skobelof*

ノ任務ヲ有ス即チ「ロバツツ」ノ方向ニ對シテ警戒シ一ハ「プレブナ」ノ方

*Lowatz*

*Plevna*

向チ監視スルニアリ

又將官「クリユドチル」ノ率ユル第九軍團ノ師團ハ「カリゾヴァ」及ヒ其方向ニ

*Krudener*

*Kalysovav*

第四軍團ノ第三十師團ハ「カラガツチ」附近ニ第十一軍團ノ軍隊ハ「ボラヂム」

*Karagatch*

*Poradim*

附近ニアリ皆各一日間ノ偵察ヲ爲シタル後七月三十日攻撃ヲ施行セントス

「ブリスラン」ニアル右翼騎兵ハ西ニ向テ正面ス是レ攻撃功ヲ奏スレハ「プレ

*Bryslan*

*Plev-*

ブナ」下流ニ於テ「ウイド」川ヲ渡リ直ニ土軍ノ退路ヲ切斷セントスルニアリ

*Vid*

蓋シ魯軍ノ推想ニ因レハ土軍ノ退却路ハ「ナルクハニ」ヲ經テ「ソヒヤ」ニ至ル

*Orkhanie*

*Sophia*

モノナリトナス

「カリソヴァ」附近ノ第九軍團ハ右攻撃縱隊トナリテ大街道ノ北ナル土軍ノ陣

*Kalysovav*

地ニ向ヒ前進ス其兵員ハ歩兵十八大隊騎兵三中隊砲八十門ナリ各師團ハ一聯

隊ヲ欠ク是レ一ハ「ニコポリ」攻撃ノ際敗亡シ一ハ「シストウア」渡河ノ際大損

*Nicopolis*

*Sistova*

害ヲ受ケ各其地ニ駐在スレハナリ此右縱隊ノ司令官ヲ中將「ウエリアミノフ」

*Velaminof*

トス

左攻撃縦隊ハ第四軍團第三十師團ノ一旅團及ヒ第十一軍團第三十一師團ノ一旅團ヨリ成ル其兵員總計歩兵十一大隊騎兵四中隊砲四十八門ナリ司令官ヲ中

將「シヤコウスコイ」トス「ボラヂム」ヨリ大街道ノ南「スガレヴィツア」及ヒ

Schakhovskoi

Poradin

Sgalovitza

「ラヂシエボ」ヲ經テ「グルウイツア」ニ向ヒ前進ス

Radischevo

Grivitza

左翼ノ騎兵司令ハ歩兵一大隊ヲ以テ増加セラル首トシテ「ロウアツ」ノ方向

Radischevo

Grivitza

Louatz

ヲ搜索ス又攻撃功ヲ奏スルニ當テハ直ニ「ウイド」川左岸ニ渡リ土軍ノ退路ヲ

Yai

絶塞セントス

將官「クリエドチル」ノ率ユル豫備隊ハ第四軍團第三十師團ノ一旅團騎兵四中

Krudener

隊砲三十門ニシテ「ボラヂム」ト「ペリシヤ」ノ線ニアリ

Poradin

Palischat

土將「ナスマンバシヤ」ハ「プレブナ」周圍ニ大ナル角面堡ト野堡ヲ築ケリ就中

Osman pacha

Plevna

「グリウイア」ノ北小距離ニアル角面堡ハ殊ニ大ナリ此堡ハ大街道ヲ制ス又

Grivitza

其西南及ヒ「ラヂシエウチ」ノ北方ニモ稍大ナル二角面堡アリ

Radischevo

一般ノ地形ハ波狀ヲ爲ス此日曉霧甚シク方向ヲ辨識スルニ苦メリ

右翼ノ戦闘ハ「グリウイツア」ノ北ナル角面堡ノ近傍ニ集中セリ此戦闘ハ最初

Grivitza

砲撃ヲ以テ誘引セリ然レモ砲兵陣地ノ偵察不精ナリシカ爲メ其射撃ハ霧中ニ

於テ閉目シテ放射スルニ異ナラス其効力殆ント無シ且ツ攻撃準備ヲ爲スニ當

テ砲兵ノ大部分ハ豫備トシテ使用セス第九軍團中ノ砲兵ニ於テモ最初ハ唯三

中隊ヲ用ヒ他ハ小豫備トシテ殘置シ後ニ至リ漸次之ヲ使用シ五中隊ニ及ヘリ

其他土軍ノ占領スル陣地ヲ偵察スルヲ粗ナリシカ爲メ不意ノ射撃ニ吃驚

セリ

攻撃準備如此然ルニ左翼「ラヂシエウチ」ニ於テハ已ニ攻撃ヲ始ム茲ニ於テ右

Radischevo

翼モ亦攻撃ヲ始メサル可ラス即チ歩兵ハ此無効ナル準備ヲ以テ直ニ前進スル

ヲ要スルニ至レリ依テ左ノ如ク運動ス

第三十一師團ハ步兵二聯隊ヲ第一線ニ又步兵一聯隊ヲ第二線ニ其背後ニ砲兵ヲ隨ヘ前進ス

第五師團ハ第三十一師團ノ左翼後方ニ在テ豫備ノ狀ヲ爲ス是レ先ニ此市街ヲ攻撃シテ敗北セシモノナルヲ以テナリ

右攻撃縱隊ノ目的ハ先ツ「グリウイツァ」北ノ角面堡ヲ略シ次ニ第二線ノ聯隊ヲ以テ本道ヨリ突撃ヲ爲サントスルニアリ

然レモ唯野堡二個ヲ略スルヲ得シノミニシテ「グリウイツァ」北ノ角面堡ニ於テハ兩師團共ニ頗ル苦戦セシト雖モ之ヲ抜ク能ハス豫備隊ナル第四軍團ノ旅

團ヨリ二大隊ノ増援兵ヲ得シト雖モ尚ホ功ヲ奏スルヲ得ス軍隊ハ大損害ヲ蒙リ且ツ彼是混淆シ頗ル困難ヲ究ム夜已ニ暗キニ及ンテ辛ク退却スルヲ得タリ

此處ニ於テモ土軍追撃セサリシヲ以テ魯軍ハ萬死ヲ免ル、ヲ得タリ且ツ「シストウア」ニ殘留セシ一聯隊來リ援クルニ會シ軍隊ハ三十一日午前十時迄ニ

Sistova

「カラガツチ」附近ニ集合スルヲ得タリ

Karagolche

左攻撃縱隊ハ預定ニ從ヒ「スガレウイツァ」及ヒ「ラヂシエウチ」ヲ經テ前進ス

Sgalovitza

Radischevo

此諸村落ハ難ナク占領スルヲ得タリ依テ續テ前進シ

激戦ノ後「ビユルガレニ」ヨリ「プレブナ」ニ通スル大街道及ヒ「プレブナ」ヨリ

Bulgareni

Plevna

Plevna

「ロウアツ」ニ通スル街道ノ集中點ニアル野堡ヲ略取シ且ツ土軍ノ反撃ニ抵抗スルヲ得タリ然レモ已ニ豫備隊ヲ盡クシ且ツ後援ノ兵ナキヲ以テ不得止薄

Louwarza

暮ニ至リ「ラヂシエウチ」ニ退却セリ

Radischevo

八月一日ニ至リ更ニ「ボラチム」ニ退ク

Porabim

最モ左翼ナル將官「スユベレフ」ハ濃霧ニ乘シ一部ノ兵ヲ率ヒテ「クリツシン」

Krischin

ニ進ミ更ニ「プレブナ」市街ニ達ス茲ニ於テ土軍ノ預備隊多ク現在スルヲ見ル

Plevna

此將官ハ急激ノ突出ト其剛氣トヲ以テ能ク土軍ノ預備隊ヲ誘出シ且十時比迄

之ヲ「クリツシン」附近ニ糜撃セリ然レモ此時命令ヲ得テ遂ニ「ボゴト」ニ退

Krischin

Bogot

ク

「ブレブナ」第二攻撃ニ依テ魯軍ハ左ノ兵員ヲ殲亡セリ

*Plevna*

將校百八十九名

下士卒七千三十六名

此攻撃ニ於テ魯軍ノ兵力ハ土軍ニ劣レリ且ツ土軍ハ充分防禦工事ヲ作スノ時  
間ヲ有セリ

此戦ノ終ニ於テ「サスマンバシヤ」若シ魯軍ヲ追撃セハ魯軍ハ蓋シ臺滅セシナ

*Osmanpacha*

ラン之レヲ免レシハ實ニ魯軍ノ僥倖ト謂フヘキノミ

魯將「クリユドチル」ハ初メヨリ此攻撃ヲ危疑セリ然レトモ總督ノ明了ナル命

*Krudoner*

令ニ依テ施行セシモノナリ但シ其働作ニ至テハ「クリユドチル」亦罪ナシトス

*Krudoner*

ル能ハサルナリ

其過失ノ第一ハ攻撃ヲ一途ノ指揮ニ於テ施行セサリシモノ是ナリ

右攻撃縱隊ハ左攻撃縱隊ヨリ遠隔シ戰鬪間ト雖モ尚四吉米ヲ離隔セリ而シテ

「クリユドチル」ハ左縦隊ノ指揮ヲ全ク委任セリ故ニ右縦隊ノ前面砲戦ノ未タ

*Krudoner*

開ナラサルニ左縦隊ハ已ニ攻撃ヲ始ム之レカ爲メ右縦隊ハ「グリウイツア」ニ

*Griviza*

對シ無益ノ攻撃ヲ爲スニ至レリ

抑モ如此防禦工事ヲ施セシ陣地ヲ攻撃スルニハ先ツ砲撃ヲ以テ敵砲ヲ沈黙セ

シメ次ニ敵ノ歩兵ヲ動揺セシメ然後攻撃ヲ爲ス如ク順序ヲ經テ施行セサル可

ラス而シテ最初ノ砲撃間歩兵ハ精密ナル地形偵察ヲ爲シ又突撃點ノ準備ヲ爲

スモノトス

歩兵ノ突撃ハ一途ノ命令ニ於テ一齊ニ施行スルヲ要ス然ルニ此場合ニ於ケル

魯軍ハ二點ニ於テ各別ニ施行セリ而シテ其點ハ最モ隔離セル兩翼端ニ於テス

凡ソ兩翼ヨリ攻撃ヲ爲スハ敵ノ側面ヲ包圍スルヲ得シキニアリ然ルニ此場合

ニ於テハ土軍ノ側面ニ出ツル能ハスシテ常ニ其正面ニ出タリ



「プレブナ」第一第二回ノ攻撃ニ於テハ最モ緊要ナル同時ニ且ツ一齊ニ攻撃ス  
ル<sup>Plevna</sup>ニ注意セサリシ之レカ爲メ土軍ノ豫備隊ハ容易ニ諸方へ使用スルヲ得タ  
リ

千八百七十七年 魯土戰史筆記第七回 明治二十一年四月六日

今ヤ土軍ハ「プレブナ」ノ勝利ト魯將「グールユ」ヲ撃退セシトヲ以テ兵略上ノ  
利ヲ占有セリ <sup>Plevna</sup> <sup>Gouhko</sup>

實ニ土將「ナスマンバンヤ」ハ戰線ノ最西部ニ於テ二回ノ勝利ヲ得且ツ目下ハ  
四万五千ノ兵ヲ擁シ魯軍ノ命脉ニ關スル「シストウア」ノ橋梁ニ向テ滯陣ス  
<sup>Osmanpacha</sup> <sup>Sistowa</sup>

又「バルカン」山南方ニ於テハ土軍ハ新銳ノ兵ヲ集中シ四角要塞内ニ在ル土國  
本軍ハ未タ一回モ戰ヲ交エス而シテ此兩軍ノ交通ニ用ユル「バルカン」山南方  
ノ地ハ全ク土軍ノ有タリ <sup>Balkan</sup> <sup>Balkan</sup>

魯軍ハ其本營ヲ背后「ビエラ」ニ轉移セリ之レニ因テ魯軍ハ其懸軍孤進ヨリ生  
セシ失策ヲ勢ヒ隱秘スル能ハサルニ至レリ <sup>Bela</sup>

魯軍ノ本營ヲ轉移セシモノハ「バルカン」山南方ノ土軍四角要塞ノ本軍ト合シ  
テ「シユムラ」ヨリ西方ニ向ヒ企圖ヲ爲サンヲ恐ルレハナリ <sup>Balkan</sup> <sup>Schoumla</sup>

八月上旬ニ  
於ケル魯軍  
ノ景況

魯軍ノ敗ハ土軍ノ兵力ヲ推算スル少ニ過キ之レニ對シテ用ユル魯軍ノ兵力少キニ因ル

魯帝ハ出征軍ノ不足ナルヲ悟リ茲ニ於テ本國ノ軍隊ニ新ニ出師準備ヲ命ス其兵員歩兵十師團騎兵二師團ナリ此兵員ノ必要ヲ促セシハ帝ニ歐羅巴部内ノ戰鬪不利ナルニ原因セシノミナラス亞細亞部内ノ戰鬪ニ於テモ魯軍ノ不幸ヲ報セシヲ以テナリ

將官「グールコ」ハ前衛團ヲ解散ス而シテ其部下ニアリシ第四獵兵旅團(四大隊)及ヒ「ビュルガリー」人ヨリ成ル旅團(六大隊)ハ第八軍團ニ屬セシム故ニ第八軍團ハ歩兵十大隊ヲ増加セリ

又前衛團ニ屬セシ各騎兵ハ各自所管ノ軍團ニ歸屬ス「グールコ」自ラハ去テ魯國ニ歸リ新ニ編成スル所ノ騎兵ヲ統轄ス

第八軍團ハ南面シテ「シプカ」峠ヲ守備ス其任務ハ「ナルノウア」南方ニアル

Gourko

Balgare

Gourko

Schipka

Tihova

「バルカン」山ノ諸峠及ヒ「エレナ」ノ道路交叉点ヲ守備スルニアリ

本國ニ於テ新ニ出師準備ヲ施行スル軍隊中歩兵五師團ハ歐羅巴部内ノ戰鬪地ニ使用スルニ決セリ其軍隊左ノ如シ

- 步兵第二十四師團
- 同 第二十六師團

- 近衛歩兵一師團
- 二個ノ擲彈兵師團(近衛ニ屬スルモノナリ)

- 計五師團
- 右ノ外左ノ軍隊附屬ス

- 獵兵旅團(四大隊)
- 騎兵二師團(近衛騎兵第二師團)
- 鎮臺騎兵第一師團

魯國內部ニハ十八万五千ノ後備軍ヲ以テ豫備軍隊ヲ編制ス然レモ戰地ヨリ頗

編者記ス  
愛ニ擲彈兵  
トアルハ佛  
語「グレナ  
Grena  
チエー」ニ  
等シ故撰抜  
兵ト云フモ  
可ナリ

ル遠隔シ且ツ出師準備未タ成ラス故ニ之レカ援助ヲ得ルハ數週日ノ後ニ非サ  
レハ能ワス故ニ目下援助トシテ用ヒ得ヘキモノハ唯「多腦」北方ニアル「ルー  
マニ」國軍隊アルノミ

魯軍ハ最初「ルーマニ」國軍隊ヲ蔑視セシヲ以テ之ヲシテ戰ニ與ラシムルヲ欲  
セサリシ然レモ己ニ述フルカ如ク「プレブナ」第一ノ敗后ハ「ニコポリ」要塞ノ  
守備ヲ其第四師團ニ委任スルニ至レリ又「プレブナ」第二敗後ハ之ヲ「プレブ  
ナ」ニ招ケリ

「ルーマニ」軍ハ四師團ヨリ成ル内一師團ハ「カラファ」ニ在テ「ウイヂン」ニ對  
陣ス  
Romanie Kalafat Widin

魯國第四軍團ノ第十六師團即チ目下「ダニユーブ」北岸ニ來着スルモノ亦タ  
「プレブナ」ニ赴ク  
Plevna Danube  
茲ニ於テ「プレブナ」ニ對シ守勢ヲ以テ占陳スル軍隊左ノ如シ  
Plevna

魯國第四軍團

同 第九軍團

「ルーマニ」國第四師團

「ロバツ」ニ差遣セシ軍隊ハ將官「スコベレフ」ノ指揮ニ屬セシム故ニ其部下  
ノ兵ハ高加索格薩旅團(騎兵十二中隊)及ヒ第四軍團ヨリ派遣ノ歩兵トス同氏  
ハ之ヲ率ヒテ「セルウイ」ニ陣ス

「プレブナ」第二攻撃ニ參與セシ第十一軍團ノ兵ハ其軍團ニ歸屬ス此軍團ハ  
「ナルノウア」ヨリ「チスマンバザール」ニ通スル道路上ニアリテ以テ皇太子ノ  
軍ト第八軍團トノ間隙ヲ補填ス  
Plevna Selvi  
Tirnova Osmanbazar

第十二第十三軍團ヨリ成ル皇太子ノ軍ハ南進運動掩護ノ爲メ「ルーチユク」  
及ヒ「シュームラ」ニ對シ「ビエラ」ヨリ「カラローム」河畔迄前進ス  
Routschouk  
Shoumla Biela Kara Lom

註「ローム」河ハ「ナルノウア」ト「ラスグラド」ノ間ヲ流レ「ルーチユク」附近  
Lom Tirnova Rasgrad Routschouk

ニ於テ「ダニユーブ」河ニ朝ス其上流ニ在テハ二個ノ支流ヲ爲ス其西ナル

*Danube*

ヲ「カラニローム」ト云ヒ「アラブラル」ヨリ「カセルシエウチ」ヲ過ク其東

*Karanilom*

*Arablar*

*Kaceljevo*

ナルヲ「アクローム」ト稱ス「ラスグラド」西方ヨリ「カヂキユーイ」西方

*Aklom*

*Rasgrad*

*Kadikieni*

ニ流レ同所ニ於テニ支流相合シ「ローム」河ヲ爲ス（「カラローム」トハ黒

*Lom*

*Karalom*

「ローム」「アクローム」トハ白「ローム」ト云フ義ナリ）

*Lom*

*Lom*

第十二軍團ノ騎兵第十二師團ハ高加索格薩騎兵ヲ以テ増加シ「カヂキユーイ」

*Kadikieni*

ニ占陣ス是レ東南方ヨリ「ルーチユツク」ノ交通ヲ遮斷センカ爲ナリ

*Routschouk*

第十二軍團ノ第十二師團ハ「ローム」河下流ニ在テ「ルーチユツク」ニ對ス其本

*Lom*

*Routschouk*

營ハ「ピルユス」ニアリ

*Pirgos*

第三十三師團ハ「ローム」河上流「カセルシエウチ」ニアリ此本營ハ先キニ「ニ

*Lom*

*Kceljevo*

ソウア」ニアリシモノナリ

*Nisova*

第十二軍團ノ右ニ第十三軍團アリ「ラスグラド」及ヒ「エスキヂユマ」ニ對シテ

*Rasgrad*

*Eski djouna*

陣地ヲ占ム其前哨ハ「カラハザンキユーイ」ヲ經テ「アラブラル」ニ至ル彎形ヲ  
爲ス  
*Karahasankieni*  
*Arablar*

初メ第十三軍團ハ其前哨ヲ尚ホ前方ニ置ケリ即チ其左翼ハ「コスタンツア」ヨ

*Kostantza*

リ「ソレニツク」ニ及ヘリ

*Solenik*

七月二十六日此軍團ノ一部ハ「エジルトツエ」ニ向ヒ突撃ヲ施行シ土軍ノ支隊ヲ

*Esirze*

「ラスグラド」ニ撃退セリ

*Rasgrad*

第十三軍團ノ右ニ列シテ第十一軍團アリ其若干部分ハ己ニ此地ニ來着セリ

此軍團ハ己ニ述ヘシカ如ク「ダニユーブ」左岸ニ在テ「ルーチユツク」及ヒ「シ

*Danube*

*Routschouk*

リストリ」ニ對峙シ後チ一支隊ヲ「ヂュルチエウチ」附近ニ留メ他ハ河ヲ渡リ

*Silistrie*

*Giurgevo*

第十二第十三軍團ノ背後ヲ迂迴シテ右翼ニ來ルモノナリ又此軍團ノ一部ハ

「プレブナ」第二ノ攻撃ニ參與シ敗北ヲ共ニセリ今ヤ此軍團ハ「チルノウア」ヨ

*Plevna*

*Tirnova*

リ「オスマンバザール」ニ通スル道路上ニ集合ス

*Osman bazar*

第十二軍團ノ騎兵ニ尚第十三騎兵師團ノ一部及ヒ第八第十一騎兵師團ヲ増加ス

註 騎兵師團ノ番号ハ所属軍團ノ番号ニ同シ  
實ニ魯軍ノ各部ハ頗ル混淆ヲ爲シタリ是レ一ニ魯軍本營ノ不注意ナリシニ因ル本營ハ常ニ諸情況ノ眼前ニ現出スルニ至テ始メテ吃驚狼狽ノ力處置ヲ爲セリ故ニ最初東方ニ差遣セシ軍隊ヲ今ヤ西方ニ招カサル可ラサルニ至レリ魯軍ノ西方ニテ集結セシハ土軍ノ攻勢移轉ヲ恐ルレハナリ

報知ニ因レハ四角要塞内ニアル土軍ノ司令官ハ新ニ交代セリ即チ新任司令官ハ「メヘメーアリ」ナリ魯軍ハ此新司令官カ新ニ大軍ヲ引卒シ采ラン「チ恐ル現ニ報知ニ因レハ土軍五乃至六万ハ「ラスグラド」及ヒ「エスキヂユマ」ノ間ニアリト  
左ニ第八軍團ノ配置ヲ細説スシ  
Rasgrad Eski Djouma

第八軍團シ  
ノ配置  
ノ附  
ノ近

將官「ゴールコ」ノ先キニ「バルカン」山通過ニ用ヒシ「ハインキユーイ」市街  
Gourko Balkan Hainkiemi  
北方ノ峠ハ第九師團ノ歩兵三大隊及其砲兵一中隊高加索格薩騎兵二中隊山砲  
一中隊ヨリ成ル支隊ヲ以テ守備ス  
此支隊ノ背后ニ於テ「エレナ」ニ第九師團ノ歩兵三大隊及其砲兵一中隊騎兵四  
中隊徒歩砲二門ヨリ成ル豫備隊ヲ置ク此豫備隊ハ東方ニ對シ警戒スルノ任ヲ  
有ス  
Ilena

「ハインキユーイ」ノ西北ニ「トラウナ」峠アリ「ケザンリク」及ヒ「マグリ」  
Hainkiemi Trana Kyzantlik Magla  
ニ通スル二道此所ニ合ス然レモ道路甚不良ナリ「ビユルガリ」歩兵一大隊ヲ  
以テ守備ス  
Bulgarie

「シプカ」峠ニハ左ノ守備兵ヲ置ク  
Schipka  
第九師團ノ歩兵一大隊半  
同砲兵二中隊

「ビユルガリー」歩兵五大隊(第六大隊ハトラ  
ヴァナ峠ニアリ)

騎兵四中隊

山砲二中隊

「ガブロヴァ」ニ特別豫備トシテ左ノ兵員ヲ置ク  
Gabrova

第九師團ノ歩兵二大隊

格薩騎兵二中隊

「ナルノヴァ」ニハ首ナル豫備隊アリ即チ左ノ如シ  
Tirnova

第九師團ノ歩兵一大隊半

同砲兵三中隊

第十四師團ノ歩兵第二旅團

同砲兵四中隊

第四獵兵旅團(四大隊)

此外「セルウイ」ニ第十四師團ノ歩兵一旅團及ヒ其砲兵一中隊アリ將官「スコ

Selvi

Sko

ベレフ」ニ屬シ「ロウアツツ」ニ對シテ警戒ス  
Belat Lowatz

「ガブロヴァ」ヨリ「シプカ」ニ通スル道路ハ修理ヲ加ヘ以テ砲兵ノ通過ヲ爲シ  
Ghlova Schipka

得セシム

魯軍ノ配置ヲ略言スレハ南北ニ長キ短形ヲ爲ス即チ其短邊ノ一ハ「バルカン」  
Balcan

山ニ一ハ「ダニユーブ」川ニ向フ  
Danube

又長邊ノ一ハ四角要塞ニ對シ他ノ一ハ「ロウアツツ」及ヒ「プレブナ」ノ方向即  
Lowatz Plevna

チ土將サ「オスマンバシヤニ」對向ス  
Osmanpacha

以上ハ八月上旬ニ於ケル魯軍ノ配置ナリ

土軍ハ實ニ好結果ヲ得ヘキノ地位ニアリ而シテ土軍ハ之ヲ利用セス「プレブ  
Plev

ナ」第二回ノ勝利及ヒ「バルカン」ノ北方ニ魯將「グールニコ」ノ軍隊ヲ擊退セシ  
Gurko

后十四日間殆ント休戦ノ姿ヲナセリ其間魯將「スコベレフ」ノ偵察隊ト前哨ニ  
Balcan Skobelief

於テ小戰アリシモ記スルニ足ルモノナシ

西方「プレブナ」及ヒ「ロウアツ」ニアル「ナスマンパシヤ」ハ為ス「ナク日時」ヲ

*Preva*

*Lowal*

*Osman*

*Pacha*

徒過モリ是レ騎兵ノ欠乏ト軍隊ノ状態ニ因リ止ヲ得ス專守防禦ヲ為サ、ル可

ラサルヲ覺リシナリ

之ニ反シ魯軍ハ大數ノ騎兵ヲ有ス故ニ之ヲ以テ「ナスマンパシヤ」ノ背后ノ連

*Osman*

*Pacha*

*Osman*

*Pacha*

絡ヲ斷絶スル「ナク日時」ヲ圖ラサル可ラス實ニ「ナスマンパシヤ」ハ「ソヒヤ」ヨリ糧食

*Sophia*

彈藥及ヒ増援兵ヲ取レリ而シテ其兵員ハ終ニ六万乃至七万ニ及ヘリ魯軍ノ之

ヲ妨ケサリシハ大ナル過失ト云ワサル可ラス

「スレライマンパシヤ」ハ五萬ノ兵ヲ擁シテ「バルカン」山南方ニアリ又本軍ハ

*Balkan*

依然四角要塞ヲ根據トナシ「ルーチユク、シユームラ」ヲ第一線トナシ「ワル

*Var*

ナ」シリストリ」ヲ第二線トナシテ帶陣セリ此本軍ノ徒手ニ經過セシハ何等

*Silistrie*

ノ理由ナリシヤ了解ス可ラサルモノナリ

*Jantra*

已ニ知ル如ク此本軍ハ魯軍ノ多腦河渡過ヲ彼レノ任意ニセシメ「シヤントラ」

*Karavim*

河孟ノ要地ヲ銃聲ナク魯軍ニ蹂躪セシメ且ツ「カラローム」及ヒ「アクローム」

*Aklom*

河近傍ノ地ヲ劔ニ血ヌラスシテ魯軍ノ有ニ歸セシメタリ加之攻勢移轉ノ考慮

*Rasgrad*

ヲ一モ為ス「ナク日時」ニ緊要ナル「ラスグラド」及ヒ「エスキ、ヂユマストラ」之ヲ

*Eski Djouma*

占領セス之レカ為メ魯軍ハ「ルーチユク」ト「シユームラ」ノ中間ニ侵入スル

*Boutschouk*

ニ至レリ

屢々述フルカ如ク此本軍ノ何事ヲモ為サ、リシハ一ハ土軍總督ノ高齡ニ原因

*Kaffe*

セシナラン世人ノ評ニ因レハ此長キ日時間土軍ハ唯々煙ヲ喫シ豆茶ヲ飲テ以

*Kaffe*

テ經過セリト

*Kaffe*

註土耳其人ノ豆茶ヲ喫スルハ恰モ日本人カ煎茶ヲ嗜好シテ屢々喫飲スルニ

*Kaffe*

異ナラスト云フ

抑モ戰時軍隊ノ長時間徒然逸居スルハ志氣ヲ養成スルノ効能ヲ有セサルモノ

ナリ

蓋シ此老將軍ノ要塞ニ閉居兵ヲ持シテ動カサル理由ヲ答解スルモノ唯此ニ一  
アリ即チ歴史上ノ戰例ニ基キシト謂フ是ナリ

今ヲ去ル凡ソ五十年前即チ千八百二十八年及二十九年ノ戰役ニ於テ土國ハ其  
軍隊ヲ「シユームラ」ニ集合シ以テ魯軍ノ「バルカン」山ヲ踰ユルヲ妨ケタリ

魯軍モ亦タ「シユームラ」ヲ顧ミスシテ南進スル能ハス而シテ之ヲ畧取セント  
セシモ神モ果タササリシ

然ルニ二十九年土軍ハ「シユームラ」ヨリ西方ニ向テ出撃セシニ忽チ魯軍ノ爲  
メニ大ニ敗ラレ魯軍ハ直ニ南進「アントリノツプル」ニ侵入スルニ及ヘリ

此戰例ニ因リ土軍ハ出撃ヲ試ムルノ意ナシ且ツ魯軍ハ容易ク「バルカン」山ヲ  
踰ユル能ハスト志信セリ

然レモ此考案ハ時世ノ變遷ヲ顧ミサルモノナリ實ニ軍隊ノ員數モ昔日ニ比ス

レハ頗ル大ナリ四角要塞ハ五十年間ニ於テ此大兵ヲ入ル、ニ足ル如ク改良補  
修セシニモ非ス且ツ此要塞ノ構築ハ近時ノ目的ニ適合スルモノニ非サルナ  
リ

魯軍ノ「ダニユーブ」川ヲ渡リ且ツ「バルカン」山ヲ踰ヘシノ報「コンスタンナ  
ノブル」ニ達スルヤ土國政府ニ於テ大臣ノ交迭アリ即チ七月二十三日ノ戰闘

后魯將「グールコ」ノ尚ホ未タ「バルカン」山南方ニ在リシ時ナリ  
土軍總督「アブチユルケリムパシヤ」モ亦タ其職ヲ免セラレ「メヘメーアリ」來

リ之レニ代ル  
「メヘメーアリ」ハ普魯土ノ産ニシテ其初ノ名ヲ「デトロワー」ト稱ス其祖世々

佛國ニ家ス今ヲ去ル二百年前宗教ノ戰爭アリ此時亂ヲ避ケテ普國ニ逃ル父ハ  
音樂師ニシテ家最モ貧「デトロワー」十六歳ニ及ヒ小船ノ下等水夫トナリ土京

「コンスタンナノブル」ニ來ル偶々其親族ノ土國將校トナルアリ即チ此紹介

八月上旬ニ  
於ケル土軍  
ノ景況並ニ  
新總督「ア  
ヘメー」



ニヨリ土國士官學校ニ入り宗旨ノ爲メニ「*Mehemet Ali*」ト改稱ス天資腦力アリ千八百五十三年少尉ニ仕セラレ翌年大尉ニ歴進ス土國ニ於ケル總テノ戰爭ニ參與セリ總督ニ任セラレシ時年五十歳ナリ

「*Mehemet Ali*」ハ前年ヨリ「*Montenegro*」鎮壓ノ軍隊ニアリ此際著シキ功績ナカリシモ今ヤ總督ノ任ヲ受ケタリ然ルニ四角要塞内ニハ同氏ヨリ古參ノ將

官六七名アリ殊ニ同氏ハ外國ノ産ナルヲ以テ諸將官ハ同氏ノ節度ニ從フヲ欲セス此不幸ナル結果ハ「*Mehemet Ali*」一人ニ止マラス全土國ノ不幸トナレリ

「*Mehemet Ali*」總督トナルヤ軍隊ニ改革ヲ施シ其軍ヲ二軍團ニ分テ「*Rasgr*

ラド」及ヒ「*Eski Djouma*」ヲ堅ク守備ス

「*Rasgr*」ニ於ケル第一軍團ノ編成左ノ如シ

步兵三師團(各師團ハ步兵十六大隊 騎兵六中隊砲兵四中隊)

師團ニ連繫セサル軍隊

總計步兵五十七大隊騎兵七聯隊(四十二中隊)砲兵十四中隊ナリ

其他制外軍若干

此軍團司令官ハ「*Ahmed-Eyoub-Pacha*」ト稱スル偏固ノ將官ナリ

「*Eski Djouma*」ニ於ケル第二軍團ノ司令官「*Pince Hassan*」公即チ埃及ノ皇族

ニシテ年二十四歳ナリ嘗テ獨京伯林ニ在リ僅ニ騎兵隊ニ属セシノミ其他軍事教育ヲ受ケシヲナシ嘗テ父ノ軍隊ヲ率ヒ自國ノ内亂ヲ鎮定セントセシヲアリ然レモ亂者ノ爲メニ破ラル

世人ノ知ル如ク埃及ハ土國ノ藩屬國タリ故ニ軍隊ヲ出スノ義務ヲ有ス第二軍團ハ即チ土國軍隊ヲ増補スルニ埃及軍隊ヲ以テセシモノナリ

此軍隊ハ同シク三師團ニ分ツ又師團連繫外ノ兵員アリ之ヲ合スレハ總計左ノ如シ

步兵六十八大隊

騎兵十二中隊  
砲兵十四中隊

「メヘメーアリ」ハ部下ニ六万ノ軍隊ヲ有ス然レモ將官中ニハ一モ頼ムヘキノ  
人ナシ加之「スレイマンパシヤ」及ヒ「オスマンパシヤ」モ素ヨリ「メヘメーア  
リ」ノ指揮ヲ受クルヲ欲セス諸將官ノ意志如此「メヘメーアリ」如何ニ良計畫  
ヲ建ツルト雖モ奈何トモスル能ハサルナリ

「メヘメーアリ」ノ計畫左ノ如シ

「スレイマンパシヤ」ハ先ツ「バルカン」山ニ向テ佯撃シ以テ魯軍ヲ成ルヘク此  
方向ニ糜繁ス又其若干部隊ハ西方ニ於テ「バルカン」山ヲ踰エ「オスマンパシ  
ヤ」援助ノ爲メ「プレブナ」ニ赴ク殘余ノ諸隊ハ東方ニ於テ「バルカン」山ヲ踰  
エ四角要塞ノ本軍ニ合ス

此運動ハ可成速ニ施行セサル可ラス而シテ西ヨリハ「オスマンパシヤ」東ヨリ

ハ「メヘメーアリ」出テ、魯軍ノ側背ヲ衝突シ以テ魯軍増援兵ノ來着前先ツ之  
ヲ撃破スルニアリ

此計畫ヤ可ナリ然レモ尚一層完全ナラシメント欲セハ「スレイマンパシヤ」ノ

軍隊一時「バルカン」ノ佯撃ヲ爲シタル后ハ總テ四角要塞ノ軍隊ニ合スルヲ要

ス如此セハ十万以上ノ軍隊ヲ一途ノ指揮下ニ使用シ得ルノ利益ヲ得シナラン  
土軍若シ如此セシナラバ魯軍ハ實ニ兵略上危殆ノ位置ニ陥リシヤ必セリ何ト  
ナレハ東ニ面シ「メヘメーアリ」ニ對抗スレハ其背后即チ退却路ハ「オスマン

パシヤ」ニ脅威セラレハナリ

「メヘメーアリ」ハ其計畫ヲ實行センカ爲メ屢々「スレイマンパシヤ」ヲ説ケリ  
然レモ好結果ヲ得ス

「スレイマンパシヤ」ハ自己ノ軍隊ヲ随意ニ使用セント欲ス依テ左ノ計畫ヲ爲  
ス

土國三軍ハ悉ク「チルノウア」ニ向テ集中スヘシ之レカ爲メ「スレイマンパシヤ」ハ先ツ「バルカン」山ニ向テ前進ス而シテ其成功ヲ援助センカ爲メ「ナスマ  
Timova Sulaiman Pacha Osmani  
 ンパシヤ」ハ西方ヨリ「メヘメーアリ」ハ東方ヨリ魯軍ノ大部ヲ糜繫スヘシト  
Pacha Mehemet Ali  
 此計畫ノ非ナルハ了然タリ夫レ軍隊ノ力ヲ集結スルハ敵ニ勝テタル后ニ爲ス  
 モノニ非スシテ戦ニ先テ兵力ヲ結合シ以テ敵ヲ衝破スヘキナリ  
 「チルノウア」ハ現ニ魯軍ノ背後ニアリ故ニ此地ニ兵力ヲ集結セント欲セハ先  
Timova  
 ツ魯軍ヲ撃破セサル可ラス即チ是レ戦理ニ背戻スルノ計畫ナリ  
 「スレイマンパシヤ」ハ永キ軍議ノ后遂ニ「メヘメーアリ」ノ意ニ服セス自己ノ  
Sulaiman Pacha Mehemet Ali  
 専斷ヲ以テ前進ス  
 今ヤ土軍ハ國ノ安危ニ關スル本戦ヲ爲サントスルニアリ然ルニ諸將官ハ相協  
 和セス只其一身ノ榮利ノ爲メニ國ヲ忘ル、ニ至ル嗚呼夫レ怪シムヘキ事ナラ  
 スヤ

「スレイマンパシヤ」ハ「バルカン」南方ノ軍隊ノ前指揮官ヲモ信用セサリシ即  
Sulaiman Pacha Balkan  
 チ「スリブ」ニアリシ軍隊ハ合併セシモ其前指揮官ト議協ハサリシ如此土將  
Siwino  
 ノ一致セサリシカ爲メ七月三十一日魯將「グールコ」ヲ撃退セシ后動ヘキ機ア  
Gourko  
 ルモ動カス遂ニ何事ヲモ爲サルニ至レリ此時若シ「スレイマンパシヤ」ニシ  
Sulaiman Pacha  
 テ「グールコ」ヲ追撃セシナレハ「ハインキユーイ」ニ侵入スルハ容易ナリシナ  
Gourko Hainkini  
 ラン之レヲ爲サス却テ十四日間「エスキザグラ」ニ駐止セリ而シテ八月十五日  
Yenizagnad  
 ニ至リ魯軍ノ占領スル「バルカン」峠ニ向ヒ攻襲偵察ヲ爲セリ  
Balkan  
 八月十六日「ハインキユーイ」及ヒ「トウアルゲツア」ニ前進ス  
Hainkieui Towarditza  
 同十八日ニハ一万人ヲ「ハインキユーイ」ニ止メ首力ヲ以テ「マグリ」ニ前進  
Hainkieui Maglis  
 ス  
 同十九日「ケザンリツク」ニ達ス  
Kezanlik  
 同二十日「シプカ」村ノ東方ニ至リ此處ニ其兵ヲ展開ス「シプカ」村ハ己ニ知ル  
Schipka Schipka

魯軍ノ運動

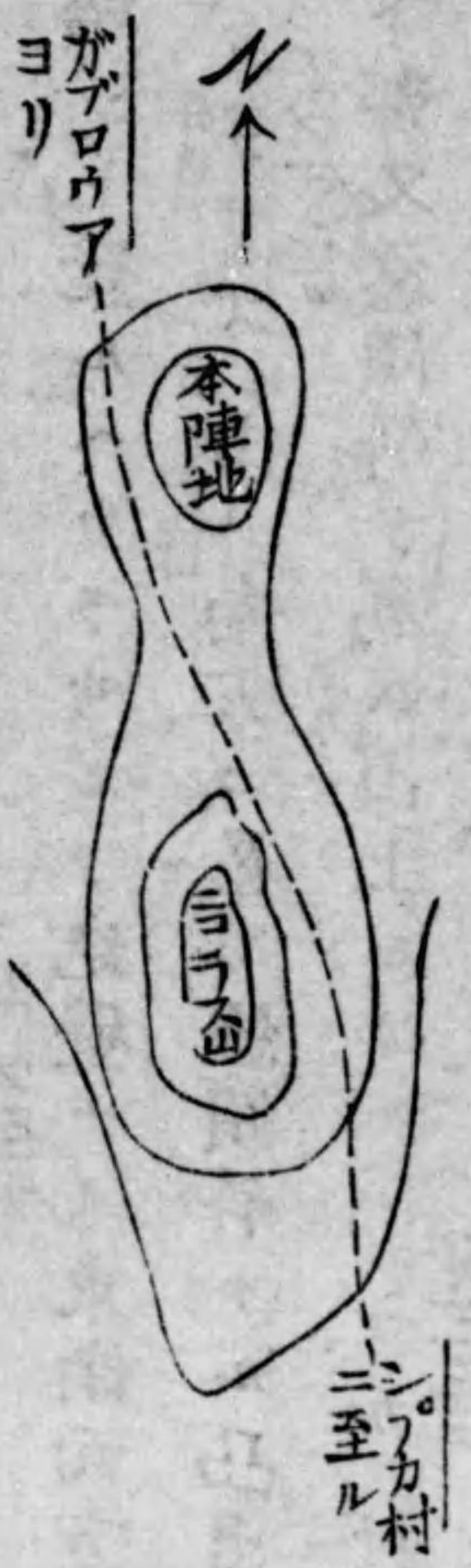
如ク峠ノ南麓ニアリ  
 同二十一日「シプカ」峠ヲ攻撃ス  
 八月十九日魯國第八軍團長ハ「チルノウア」ニ於テ二個ノ報告ヲ得  
 其一 敵ノ大兵「ケザンリク」ニ來着ス  
 其二 「エレナ」ノ東ニアル我前哨ハ衆多ノ敵兵ニ攻撃セラル  
 之レニ因テ判断スルニ「ケザンリク」ヨリ來ル者ハ唯伴撃ヲ爲スノミニシテ  
 「スレイマンバシヤ」ハ首力ヲ以テ「バルカン」山ヲ東部ニ於テ踰ヘ「エレナ」ヲ  
 經テ「チルノウア」ニ來襲スル者ナリト依テ豫備隊ヲ「チルノウア」ヨリ「エレ  
 ナ」ニ向テ派遣ス此援隊ハ「エレナ」ト「スタタリヤ」ノ線ニ至ル其兵員左ノ  
 如シ  
 步兵第十四團ノ第二旅團  
 獵兵四大隊

地形

ニコラス山

シプカ「峠」ハ唯步兵四大隊ヲ増援兵トシテ送致セシノミ此特別豫備隊ノ増  
 加ニ因リ此峠ノ守備兵ハ左ノ員數トナレリ

步兵十二大隊  
 砲二十七門(此砲數中ニハ土軍ヨリ獲タルモノ亦算入セリ)  
 「ガブロウア」ヨリ「シプカ」村ニ至ルノ距離ハ二十吉米トス其間此峠ノ最高所  
 チ「ニコラス」山ト稱ス此海水面ヲ抜ク約千三百米突ナリ  
 「バルカン」山北ノ斜面ハ樹木繁茂シ到ル處通過スル能ハス  
 「ニコラス」山ハ道路ニ接シテ而  
 St Nicolas  
 ニアリ此峠ヲ閉塞スルノ門戸ヲ  
 爲ス



北ヨリ南ニ亘ル凸背上ヲ過ク山背上ニ二頂アリ南ナルヲ「ニコラス」ト稱シ北  
 St Nicolas

ナルヲ本陣地ト稱ス

其中間小鞍部アリ北ヨリ「ニコラス」山ニ登ルハ易シ然レトモ之ニ反シ南方ハ殆ント登ルヘカラサルノ絶壁ナリ東南面方ヨリ西南面ヲ殊ニ甚シトナス

「ニコラス」山ノ南方ニ最モ緩傾斜ナル凸出部アリ然レトモ高原ナルニ非ス其下部又急傾斜ヲ爲ス山上ヨリハ「シプカ」村ヲ眼下ニ視ル即チ山頂ヨリ殆ント

六千米ニアリ「シプカ」村ヨリ峠ニ登ルノ道路ハ甚タ困難ニシテ二十五度ノ登傾斜ヲ爲スモノナリ又路幅狭小ニシテ其地点ニ非サレハ相遇フ車輪ノ互ニ過

クルヲ許サス又「ニコラス」山頂ヨリ遠ク「トウンケヤ」河ノ低地ヨリ「ケザン

リック」ニ至ル迄瞰眸スルヲ得

地圖ニ因レハ「シプカ」村ヨリ峠ニ至ルハ四吉米ナリ然レモ實際六吉米余アリ之レニ因テモ亦タ其傾斜ノ度ヲ知ルニ足ル

「シプカ」村ヨリ「ケザンリック」ニハ良道アリ其距離十二吉米ナリ

Schipka

Kezanik

Schipka

Schipka

Schipka

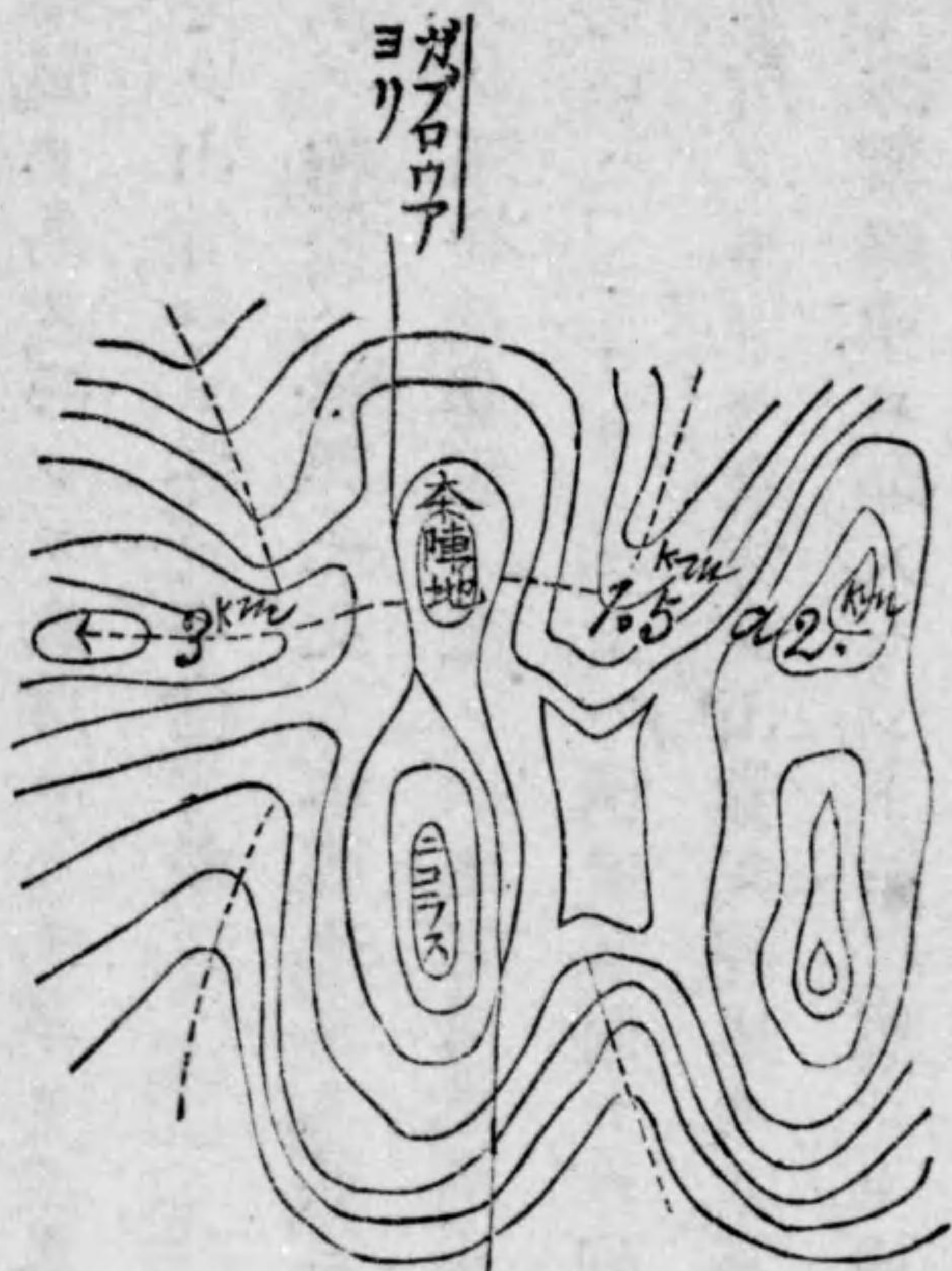
St Nicolas

Toundja

Kezanik

本陣地(北ノ山頂)ヨリ西ニ山背アリ西ニ至ルニ從ヒ漸ク高シ其最高部ハ本陣地ヲ距ル三吉米ナリ且ツ魯軍ノ背後ニ通スル道路ヲ瞰射スルニ足ル之レニ反シテ南方ニハ死角多シ

又東ニ於テ南北ノ山背アリ「ニコラス」山ヨリ高シ一鞍部ニ因テ兩山背ヲ連絡ス



シプカ村ニ至ル

「ニコラス」山ノ周圍ニ四個ノ谷アリ各河流アリ深ク彎入ス

St Nicolas

諸山ハ總テ樹木鬱生ス

魯軍ハ「ニコラス」山ヲ占領シ

St Nicolas

此處ニ砲ヲ備フ此陣地ヲ本陣地ニ對シテ前陣地ト稱ス

東方ノ山背ニ對シテ魯軍ハ守

勢鈎形ヲ爲ス而シテ此所ニハ土軍ヨリ畧取セシ砲ヲ備フ  
西方ノ山背ニモ亦タ守備ヲ設ク

東方ノ鞍部ハ前陣地及ヒ本陣地ヨリ共ニ制下スルヲ得

東方ノ深谷ハ要塞ノ壕ノ如キ効用ヲ爲シ敵ノ渡ル可ラサルモノナリ之レニ因  
テ見レハ「ニコラス」山ハ街道ニ對シテ頗ル堅固ノ陣地ト云フヘシ唯其欠点ト  
スル所ノモノハ東方ノ山背我陣地ヨリ高キニアリ魯軍ハ初メ此地ニ弱支隊ヲ  
送り防禦線中ニ加入セントセリ然レモ中間ニ深谷アリ交通ヲ斷絶セラル、ノ  
不利アルヲ以テ止ム

魯軍ノ諸隊ハ東方ノ鞍部ニ募營セリ

以上ハ二十一日土將「スレイマンパシヤ」ノ攻撃ニ際スルマテ魯軍ノ採リシ配  
置ナリ

八月二十一日土將「スレイマンパシヤ」ハ四十大隊ノ兵ヲ率ヒ「ニコラス」山ニ  
置ナリ  
Suleiman Pacha  
St Nicolas

「ニコラス」山  
ノ砲臺

編者記ス  
此戰ニ於テ  
魯軍ハ一ニ  
コラス山  
ノ前方ニ裝  
置セル砲臺  
ニ地雷ヲ多  
ク發シテ大  
ニ土軍ノ攻  
撃ヲ支フコ  
トヲ得タリ

向テ正面攻撃ヲ行ヘリ即チ始メハ南方ヨリ次ニ西南及ヒ東南ヨリス然レモ土  
地固ヨリ堅固ナルヲ以テ勇戰奮闘之ヲ抜ク能ハス死傷頗ル多シ

土軍ハ始ヨリ東ノ山背ニ砲ヲ登上スルヲ力メタリ

二十一日ヨリ二十二日ニ亘ルノ夜魯軍ハ「ニコラス」山ニ砲臺ヲ築キ十門ノ

砲ヲ以テ東南ニ對向セシム又正面ニハ野砲若干門ヲ備フ

二十二日ニ於テ「スレイマンパシヤ」ハ更ニ激烈ノ攻撃ヲ爲セリ

「シブカ」時ニアル魯軍ノ僅少ナル歩兵大隊及ヒ砲兵ハ前日ノ戰ニ多クノ彈藥  
ヲ消費セシヲ以テ此日ハ大ニ射撃ヲ節セサル可ラサルニ至レリ故ニ土軍ノ砲

戰ニ對シテ應射スル能ハス土軍ノ歩兵攻撃ヲ始ムルニ至テ漸ク砲火ヲ開ク

(魯軍ノ各砲ハ實ニ八十)土軍ハ數回激烈ノ突撃ヲ爲セシモ皆功ヲ奏セス「スレ

イマンパシヤ」ハ東西ノ両山ニ軍隊ヲ集合ス

Suleiman Pacha  
二十二日ノ夜土軍ハ攻撃砲臺ヲ築キ且ツ砲數ヲ増加ス翌二十三日ニ至リ三十

八門ノ砲ヲ以テ魯軍ノ陣地ニ襲射セリ實ニ此射撃ハ魯軍ノ陣地ヲ掃蕩スルニ足ル殊ニ正面ノ射撃ハ八百米ノ距離ヲ以テセリ

「スレイマンパシヤ」ハ此砲撃ヲ以テ準備シタル後周圍ヨリ一齊ノ歩兵ノ突撃ヲ施行セリ實ニ此時土軍ノ勇氣ハ人ノ信用シ能ハサル所ナリ

魯軍勇氣モ亦タ土軍ニ一歩モ譲ラサルモノナリ實ニ土軍ノ激烈ナル砲火ト攻撃ヲ三日間連續セラレシニモ關ワラス又其豫備隊ハ使用シ盡シ彈藥糧食ノ欠乏セシニモ係ワラス能ク此陣地ヲ保持セシハ尋常軍隊ノ能ク爲シ得ル所ニ非サルナリ魯軍ノ最モ困難ヲ究メシハ水ノ欠乏ニアリシ

「スレイマンパシヤ」ハ未タ魯軍ヲ驅逐スル能ワス然レモ電信ヲ以テ「コンスタヌチン」ノ「プル」ニ報シテ曰ク魯軍ハ彈藥ト水ヲ欠ク故ニ翌夜ハ退去スルナラント

魯軍ノ最モ危急ナリシハ二十三日夜援兵ノ來着セシ時ニアリ

魯國第八軍團長「ラデツキー」ハ土軍ノ陽撃ニ因テ「エレナ」及ヒ「スタダリツ

ア」ノ線ニ誘出セラレタリ而シテ其地ニ達シ敵ハ全ク陽撃セシノミナルヲ知

ル之レト同時ニ「シプカ」ヨリ急報達ス故ニ廿一日「ケルノウア」ニ退キ二十二

日「シプカ」ニ向テ前進ス二十三日午后六時ニ於テ其先頭漸ク戰鬥地ニ達スル

ヲ得タリ即チ先ツ獵兵中隊三個ヲ送りシモ徒歩ニテハ機ニ後レンヲ恐レ格陸兵ノ馬ヲ採テ之ヲ急行セシメタリ

此日魯軍ハ午后第五時迄「シプカ」峙ノ陣地ヲ固守セシモ神疲レ勢盡キ加フル

ニ彈藥モ亦將サニ費消セントス茲ニ於テ漸次右翼ヨリ退却ヲ始メ此峙ハ殆ント土軍ノ有ニ歸セントセリ然ルニ此危急ナル瞬時ニ於テ土軍ノ左翼ハ不意ニ

魯軍ノ獵兵中隊ヨリ射撃セラル此ニ於テ土軍ハ魯軍ノ新鮮ナル兵團來リ援クルト思惟シ遂ニ退却ス

二十四日朝ニ至リ「ラデツキー」ハ歩兵第十四師團ノ第二旅團及ヒ獵兵旅團ヲ

率ヒ來接ス

此日「スレイマンパシヤ」ハ再ヒ「ニコラス」山ニ向テ勇ヲ鼓シ猛ヲ振ヒ攻撃セシモ亦功ヲ奏セス  
*Suleiman Pacha* *St. Nicolas*

二十五日ニハ魯軍ヨリ西方ノ山上ニアル土軍ヲ攻撃セリ土軍ハ此處ニ三線ノ壘ヲ築ケリ魯軍ハ其第一線ヲ略取ス然レニ夜間土軍ノ逆撃ニ會ヒ二十六日朝魯軍ハ之ヲ棄テ、退ク實ニ此退却ハ軍團長自ラ一師團半ノ兵力ヲ以テ之ヲ爲セシナリ

其後漸次ニ第九師團ノ半部第十四師團ノ第二旅團獵兵及ヒ「ビュガリー」兵六大隊ヲ此地ニ集中セリ  
*Bulgarie*

又其背后ニハ第十四師團ノ第一旅團近接シ來ル此隊ハ先キニ「セルウイ」ニ送りシモノナリ  
*Zelvi*

如此増加兵ノ來着スルニモ關ハラス「シプカ」峠ノ土軍ハ尚ホ未タ去ラス  
*Schipka*

「レナカ」峠  
攻撃ノ略評

然レニ「スレイマンパシヤ」ノ軍隊モ亦タ其力ヲ振ヒ盡セシテ以テ激烈ノ攻撃ヲ爲スト能ハス其首カ「シプカ」村ノ南ニ止ム  
*Suleiman Pacha*

土將「スレイマンパシヤ」ハ「シプカ」峠ニ向ヒ五日間連續シテ恰モ狂セルカ如キノ攻撃ヲ數回復行セリ原來魯軍ノ占領スル陣地ハ侵入ス可ラサルモノナリ然ルニ土軍ハ之ヲ顧ミスシテ攻撃セリ故ニ其死傷ハ一万人ノ多キニ及ヘリ

然レニ魯軍モ又三千五百人ヲ亡ヘリ

此戰爭ニ於テ魯土兩軍ハ非常ノ勇敢ヲ以テ戰鬪セリ殊ニ魯軍ノ糧倉飲水ヲ欠キシニモ係ハラス能ク其陣地ヲ保チシハ感歎ノ至リト謂フヘキナリ

土國軍隊ハ如此勇猛ヲ以テ攻撃セシモ其功ヲ奏スル能ハサリシハ極メテ遺憾ト云フヘシ然レニ「スレイマンパシヤ」ハ全ク狂氣ノ舉動ヲ爲セシト評スルノ

外他ナシ何トナレハ其攻ム可ラナルヲ攻ム是ナリ故ニ當ニ其目的ヲ達セサルノミナラス徒ニ部下ノ勇兵ヲシテ空シク黄泉ニ怨ヲ含マシム是レ攻撃ノ區署



當ヲ失シ他ニ北方へ通過スルノ地点アルニ注目セサリシニ因ルナリ  
役後土政府ハ「スレイマンパシヤ」ノ作戰行爲ヲ查覈シ軍律ニ問ハントセシモ  
舊知ノ庇蔭ニヨリ免ル、ヲ得タリ  
*Suleiman Pacha*

千八百七十七年 魯土戰史筆記第八回 明治廿一年四月十三日

此戰役ニ於テ魯國ノ爲セシカ如キ不正ナル宣戰ノ廣告ハ古來嘗テ見サル所ノ  
モノナリ其基因スル所ハ土國政府カ他國ノ關涉ヲ忌避セシニアリ  
攻撃軍ニシテ此年七月末ヨリ八月ニ至ル間ニ於ケル魯軍ノ如キ不幸ノ景況ニ  
陥リシモノ亦稀ナリ而シテ魯軍ノ此不幸ヲ免レシハ唯獨リ土軍ニ對シテノミ  
之ヲ爲スヲ得シナリ

之ヲ免レシ所以ハ土國將官ノ不和ニアリ己ニ述フルカ如ク土將「スレイマン  
パシヤ」ハ「シプカ」峠ノ西或ハ東ニ於テ「バルカン」山ヲ踰エ本軍ニ協力スル  
「シプカ」*Schipka* 峠ヲ衝突セリ而シテ八月二十一日ヨリ  
同二十六日ニ至ル五日五夜間斷ナク之ヲ攻撃セシモ其目的ヲ果ス能ハズ且ツ  
魯軍ノ弱支隊ハ九死一生ナル最後ノ一瞬時ニ於テ增加兵ヲ得ルニ至レリ茲ニ  
於テ「スレイマンパシヤ」ハ此攻撃ノ難キヲ悟レリ然レモ尚ホ未ダ「メヘメー」  
*Suleiman Pacha* *Mehemet*

アリ」ニ從ヒ俱ニ戰フヲ欲セス  
Ali  
「シプカ」峠東方ノ山背及ヒ西方樹木アルノ高地ハ尚ホ土軍ノ占有スル所タリ  
Sepika  
殊ニ西方ノ高地ハ魯軍背後ノ交通路ヲ制ス魯軍之レカ爲メ大ニ苦シム魯軍ハ  
糧食彈藥及ヒ飲用水ヲ背後ヨリ取ラサルヲ得ス而シテ其運輸ヲ爲スハ唯僅ニ  
夜間ニ於テ爲シ得ルノミ

「スレイマンバシヤ」ハ二十七日ニ於テ更ニ「シプカ」峠ノ攻撃ヲ試ミタリ此時  
Suleiman Pacha  
ニ當テ魯將「ラデツキー」ハ二旅團ノ増加兵(第十一軍團及ヒ魯國ヨリ來リ第二師團ノ各一旅團)ヲ有ス  
Radezky  
故ニ其兵員ハ二十五大隊ニ及ヘリ

「シプカ」ノ東方ニ山道アリ魯軍ハ歩兵四大隊ヲ以テ之ヲ守備ス  
Schipka  
又「トラブナ」峠ハ魯軍一大隊ヲ以テ守備ス  
Travna

「ガブロウア」ニハ四大隊アリ  
Galbowa  
故ニ「シプカ」附近防禦ノ爲メニハ魯軍ハ歩兵三十四大隊及ヒ多數ノ砲兵ヲ使  
Schipka

「メヘメー」ノ決  
心

「ローム」河  
孟ノ景狀

用ス

四角要塞内ニアル土軍總督「メヘメー」アリハ初メ「スレイマンバシヤ」ノ來リ  
Mehemet Ali  
合スルヲ待テ後々共ニ攻勢ニ轉セント考定セリ然レモ八月上旬ニ至リ其企謀  
Suleimanpacha  
ノ遂ク可ラサルヲ知ルヤ獨リ部下ノ軍隊ノミヲ以テ攻撃スルニ決ス即チ「ロ  
ーム」河ノ地區ニ向テ攻撃ヲ始ム

「ローム」河ノ地區ハ左ノ如シ  
Lom

「シストウア」ノ下流ニ於テ「ダニユーブ」川ニ朝スル「ジャントラ」河ハ「ビエ  
Lom  
Sistowa Danube Jantru Biela  
ラ」ニ沿フテ流ル「ビエラ」ニ於テ此河ヲ渡レハ「バニツカローム」河アリ下流  
Banicklom

ハ「カラローム」ニ合ス「カラローム」ハ「ヤスラル」附近ヨリ北流ス是黒「ロー  
Karalom Karalom Yaslar  
ム」ナリ此東ニ「アクローム」アリ是レ白「ローム」ナリ白「ローム」河ノ上流ニ

ハ「ラスグラド」ヨリ「コスタンツア」ニ流ル一小支流アリ  
Rasgrad Kostantza  
「ローム」河孟ニハ右ノ四川アリ而シテ白「ローム」河ノ上流「ラスグラド」附近  
Lom Rasgrad

ハ幅廣シト雖モ下流「ニソウア」ヨリ本「ローム」河ニ入ル点ノ近傍ハ殆ント鉛直ノ岸ヲ爲ス此川上流ハ元來無水ナリ然レモ下流ニ至テ軍事上ノ地區ヲ成形ス

「アクローム」白ハ平均三百乃至五百歩ノ谷地ナリ而シテ其某部分ハ沼地ヲ爲ス真ノ河床ハ甚タ狭シ故ニ軍隊ノ運動上ニハ甚シキ障碍ヲ爲サスト雖トモ自ラ一個ノ地區ヲ成ス

「カラローム」黒ハ四川中最大ナルモノニシテ且ツ大ニ彎曲ヲ爲ス其幅「ヤス」Karalom「ポプキユーイ」ノ間ニ於テハ約二百歩「チパカ」ト「カセルシエウチ」Yaslar Popkieni Opaka Kaceljevoノ間ニ於テハ約七百歩ナリ此川「カセルシエウ」ヲ附近ニ在テハ軍隊ノ運動ヲ障害セスト雖トモ防禦ノ地區ヲ成ス

「バニツカローム」ノ下流「カセルシエウ」附近ハ最モ狭谷ニシテ其河床ノ幅ハ十乃至十五歩ヲ有スルノミ此川多クノ點ニ於テ徒渉スルヲ得又處々木橋ノ

架設セルアリ此川三支流ヲ有ス其最大ナルハ最東ノモノニシテ「チエルコウ」Tcherkovnaナリ川トナス

「バニツキカローム」ハ用兵上大ナル關係ヲ有セス然レトモ河谷ニハ樹木多ク兩岸ハ概テ峻ナリ「チエルコウ」附近ニ於テハ歩騎兵ハ容易ニ通過シ得ルト雖トモ砲兵ニ在テハ道路アル點ノ外渡河スルヲ得ス

四川集合シテ本「ローム」川ヲ爲スヤ其下流ハ皆高サ百米ノ峻岸ヲ爲ス故ニ歩騎兵ハ道路ノ通シアル點ニ於テノミ渡河スルヲ得砲兵ノ如キニ至テハ先ツ道路ヨリ修理スルニ非サレハ河岸ニ達スルヲ得ス

屢々述フルカ如ク魯團第八軍團ノ南進スルヤ皇太子ノ軍ハ東方ニ向テ前進ス而シテ其前兵ハ「オスマンバザール」Osman-Bazar「エスキチユーマ」Eski-Djouna及ヒ「ラスグラト」Rasgradノ附近迄前進セリ此占領面ハ五万ニ克タサル軍隊ノ爲メニハ實ニ過廣ト云フヘキナリ

八月上旬ヨ  
リ九月下旬  
ニ至ル兩國  
軍ノ「ロー  
ム」河孟ニ  
爲シテ運動

後ナ「プレブナ」及ヒ「バルカン」山南方ノ敗報並ニ四角要塞近傍ヨリノ報告ヲ  
得ルニ及テ其線ヲ退縮スルヲ要スルニ至レリ是亦タ己ニ述ヘシカ如シ  
八月初旬ニ於テ魯土兩國ノ軍ハ互ニ「ローム」河ノ兩岸ヲ偵察ス  
魯軍ハ偵察ニ因テ土軍凡ソ六万人「エスキチユーマ」ト「ラスグラド」ノ間ニ現  
在スルノミナラス「ルーチユク」要塞ノ守兵ハ二万人ニ増加セシヲ知ル  
八月二十一日魯國第十三軍團ノ混成旅團ハ「エキスチユーマ」ニ向テ進ミ此近  
傍高地ニアル土國ノ前兵ヲ撃退セリ然レモ二十二日土軍ノ逆撃ニ會フテ退ク  
其日再ヒ魯軍ハ此地ヲ略セシモ次夜ニ於テ全ク之ヲ放棄セサル可ラサルニ至  
レリ而シテ魯軍ハ「ポプキユトイ」ニ退キ土軍ハ「ヤスラル」ヲ占領ス  
八月三十日魯軍前哨ハ「サヂナ」ヲ失ヒ「カラハザンキユーイ」ニ退ク此處ニ於  
テモ亦タ土軍ノ攻撃ヲ受ク魯軍ハ力戦ノ后其夜「ガゴウチ」ニ退ク  
此間土軍ノ一旅團ハ「ハダルクイ」ニ向テ攻撃ヲ試ム魯軍支隊ハ砲兵一二中隊  
Hadarkoi

ノ援助ヲ以テ力抗セシモ終ニ陥ラレ「ポプキユーイ」ニ退ク「ポプキユーイ」ハ  
魯國第十三軍團ノ右翼ナリ  
此日魯軍ハ六百人ヲ失フ  
翌三十一日魯國第十三軍團ハ西方即チ「チエルキユーイ」及「チエルコウナ」ニ  
向テ退ク又第十二軍團ノ右翼ハ「アブラウア」及「カセルジエウチ」ニアリ  
「メヘメーアリ」ハ其右翼ヲ「チバカ」ニ迄前進セシム又「ルーチユク」ニアル  
土軍ノ成兵ハ南方「カヂキユーイ」ニ向テ出撃セリ然レモ此出撃ハ其功ナク土  
軍ノ退却ヲ以テ終ル  
九月四日ニ於テ土軍ハ凡一支隊ヲ以テ再ヒ「カヂキユーイ」ニ向ヒ出撃セリ然  
レトモ魯國第十二軍團ノ歩兵四大隊騎兵八中隊砲兵三中隊ヨリ成ル支隊ノ爲  
メニ撃退セラル魯軍二百人ヲ失フ  
翌五日「メヘメーアリ」ハ己ノ右翼ヨリ二師團半ノ兵員ヲ以テ「ソレニグカセ  
Mehemet Ali

ルジエウチ」及ヒ「アブラウア」ニ向ヒ攻撃ス魯國第十二軍團ハ第三十三師團  
及ヒ騎兵聯隊ヲ此地ニ集合ス  
*Javo* *Ablava*

十二時間戦闘ノ后土軍ハ遂ニ「カセルジエウチ」ヲ略取ス然レトモ「カラロー  
ム」(黒)左岸ニ於テハ未ダ一モ堅固ナル障地ヲ占領スル能ワス  
*Kaceljevo* *Karalom*

此日魯軍ハ千三百人ヲ失フ

土軍ノ左翼ハ「カラローム」河ノ左岸「ポプキユーイ」附近ニアリ是レ一日前魯  
國第十三軍團ノ占領セシ地ナリ茲ニ於テ魯國第十二軍團ハ防禦工事ノ設ケア  
ル左ノ障地迄退却スルニ至レリ  
*Karalom* *Popkieni*

「ダモジラ」 「トルステニク」及ヒ「メチカ」ノ線  
*Dainogila* *Trstenik* *Metchka*

而シテ前哨ハ最西ナル「ローム」河畔ニ出セリ  
*Lom*

第十三軍團ハ「バニツカローム」ノ左岸ニ退キ其右翼ヲ「コプロウイツア」ニ置  
*Banicka lom* *Koprovitza*

ク而シテ前哨ハ河ノ右岸「シナンキユーイ」ニ駐ム  
*Sinankieni*

右側警戒ノ爲メ魯軍總督ハ歩兵一旅團騎兵一旅團及ヒ砲兵一中隊ヲ増加ス

魯國內地ヨリ新ニ來リシ第二十六師團ハ皇太子ノ軍ニ編入セラル而シテ「コ

プロウイツア」ニ陣ス  
*Koprovitza*

九月二十一日魯軍ノ支隊ハ「チエルキユーイ」ヨリ土將「メヘマーアリ」ノ攻撃  
*Tchajkieni* *Mehemet Ali*

ヲ受ク此支隊ノ二十六師團ト第十三軍團ノ若干部隊ヨリ成ル其兵員左ノ如  
シ

歩兵十二大隊

騎兵八中隊

砲四十六門

「メヘマーアリ」ノ軍隊ハ九月十四日ニ於テ已ニ「シナンキユーイ」迄前進シ  
*Mehemet Ali* *Sinankieni*

「バニツカローム」ニ浴フテ魯軍ニ對シ展開セリ  
*Banickalom*

此戦闘間ニハ降雨多ク爲メニ軍隊ヲシテ大ニ困難ナラシメタリ且ツ土軍輜重

ノ編成ハ作戰ノ能力ヲ有セス加之ナラス下級指揮官ハ概テ傲慢ニシテ「メヘ  
メーアリ」ヲ怨望シ之レニ服従スルヲ屑トセス如此困難ノ景況ニ在テ「メヘメ  
Mehemet Ali」  
「アリ」ハ九月二十一日「チエルキユーイー」ノ攻撃ヲ決行スルニ至レリ  
at Ali Tcheirkieni  
此攻撃ニハ三師團ヲ使用スルノ豫定ナリシ

實ニ此攻撃ニシテ若シ功ヲ奏セハ土軍ハ同時ニ「ナルノウア」及ヒ「ビエラ」ヲ  
脅威スルヲ得シナラン已ニ知ル如ク「ビエラ」ハ皇太子ノ軍又「ナルノウア」ハ  
Biela Tihova  
第八軍團ノ根據地ナリ

然ルニ攻撃ノ際土軍ノ一師團ハ「メヘメーアリ」ニ未會セス茲ニ於テ已ヲ得ス  
Mehemet Ali  
二千人ヲ損失シタル后土軍ハ「チエルキユーイー」ノ攻撃ヲ停止セサル可ラサル  
Tchirkieni  
ニ至レリ

此日魯軍ハ五百人ヲ失フ實ニ此攻撃ハ魯軍ノ爲メニ最モ危険ナリシナリ  
九月二十五日魯軍ハ其前方ニ全ク土軍ノ跡影ヲ見サルニ至レリ魯軍ハ事ノ不

意ナルニ吃驚セリ推想スルニ多分「メヘメーアリ」ハ其部下ノ將士ト事ヲ俱ニ

スルニ倦ミ「ラスグラド」及ヒ「エスキチユーマ」ニ退却セシモノナラン  
Pograd Fski Djonna

魯國第十三軍團ハ嚴密ナル注意ヲ以テ「ポプキユーイー」及「ヤスラル」ニ至ル迄  
Popkieni Yalor  
土軍ヲ追撃ス

第十二軍團ハ「ダモジラ」及ヒ「メチカ」ニ駐止ス

此ニ至テ「メヘメーアリ」ノ「攻撃運動」ハ全ク廢止ス實ニ「メヘメーアリ」ハ一  
Danezila Metchka  
ノ合力ヲ以テ勇猛ノ攻撃ヲ爲ス能ハサリシカ爲メ終ニ魯軍ヲシテ危急ヲ免レ

シメタリ  
Mehemet Ali

此時ニ當テ魯軍ハ最大緊要ナル「プレブナ」第三ノ敗報ヲ得タリ  
Plevna

是ヨリ先キ土將「オスマンパシヤ」ハ「プレブナ」附近ニ益々防禦ノ工事ヲ爲ス  
Osman pacha Plevna

而シテ未タ出撃ヲ爲サス此間專ラ「ソヒヤ」ヨリ増兵及ヒ糧食ヲ取レリ「プレブ  
Plevna  
ナ」ト「ソヒヤ」間ニハ「タルクハニ」ヲ過クル所ノ良道アリ常ニ之ヲ用ユ  
Sophia Orjanie

「プレブナ」  
第三回ノ攻  
撃  
第四回圖參  
照

「チンスマンパシヤ」ハ一師團ヲ「ロウアツ」ニ差遣セリ此師團モ亦々同處附近ニ於テ工事ヲ施ス  
Osman pacha Lowatz

八月六日魯將「スエベレフ」ハ「セルウイ」ヨリ「ロウアツ」ニ向テ偵察ヲ行ヒシモ土軍ノ爲メニ撃退セララル  
Skobeléf Selvi Lowatz

「ブレブナ」ニ對スル魯軍ノ本營ハ「ゴルニーストウデン」ニ在リ此地ハ「ビエラ」ヨリ「ブルガレニ」ヲ經テ「ブレブナ」ニ至ル道路ニ接ス(第三号圖ニアリ)  
Plevna Gor. Studen Bie

此間魯國ヨリ第二第三師團及ヒ獵兵第三旅團(四大隊ヨリ成ル)來着ス此兵ハ悉ク「セルウイ」ニ向テ前進ス是レ西ハ「チスマンパシヤ」ニ對シ又南ハ「シプカ」峠ノ方向「スレイマンパシヤ」ニ對シテ警戒センカ爲メナリ然レドモ「スレ  
Selvi Osman pacha Schipka

イマンパシヤ」ハ峠ニ向テ無益ノ攻撃ヲ爲シ且ツ彼レ己ニ多クノ兵ヲ失ヒシヲ知ルヲ以テ此兵ノ大部ヲ以テ「チスマンパシヤ」ヲ攻撃セント欲ス之レニ用  
iman pacha Osman pacha

ユル兵員左ノ如シ

歩兵二十六大隊

騎兵十五中隊

砲九十門

九月一日右ノ魯軍支隊ハ「チスマンパシヤ」ノ右翼「ロウアツ」ヲ攻撃セント

ス其目的トスル所ハ土軍ノ守備スルモノヲ撃退シ「ブレブナ」ト「ソヒヤ」ノ連

絡線ヲ脅威シ且ツ南方ヨリ「ブレブナ」ヲ包圍スルニアリ又「シプカ」峠ニアル

我軍隊ノ右翼ニ於テ「ソヒヤ」ニ向ヒ運動シ以テ之ヲ聲援スルニアリ  
Sophia Schipka

八月三十一日「チスマンパシヤ」ハ東方ニ向テ出撃ス  
Osman pacha

此時ニ當リ「ブレブナ」正面ニハ魯軍及ヒ「ルーマニ」國ノ軍已ニ集中シ居レリ  
Plevna Roumanie

而シテ左ノ如ク占陣ス  
右翼

「ルーマニ」國第四師團 「ニコポリ」ヨリ「ブリスラン」ヲ經テ「ブレブナ」ニ  
Roumanie Nicopolis Bristan

至ル道路「ウイタ」川ノ中間  
Vid

中央

魯國第九軍團 「ニコボリ」ヨリ「プリスラン」ヲ經テ「プレブナ」ニ至ル道路ト「フルガレニ」ヨリ「プレブナ」ニ至ル道路(此道ヲ含有ス)トノ中間

左翼

魯國第四軍團 「ブールガレニ」ヨリ「プレブナ」ニ通スル道路ト「ロウアツツ」ヨリ「プレブナ」ニ至ル道路トノ間

騎兵ノ前哨ハ「カリソウア」「グリウイツア」「ラジシエウチ」「トウチエニツア」及ヒ「ボコット」ノ線ニアリ

「ナスマンバシヤ」ノ出撃ハ歩卒二万八千人騎士一千騎砲四十門ヲ以テ魯國第四軍團ノ正面即チ「スガレウイツア」及ヒ「ペリシヤ」ニ向テセリ然レモ此方ヨリ魯國第九軍團ノ來リ援クルニ及ンテ「ナスマンバシヤ」ハ退却ス此日魯軍ノ死傷千百人

「セルウイ」ヨリ「ロウアツツ」ニ進ムヘキ魯國軍隊ハ命令ノ如ク運動シ九月一日及ヒ二日ニ於テ「ロウアツツ」ニ對スル高地ニ展開シ三日ニ於テ攻撃ヲ

「セルウイ」ヨリ「ロウアツツ」ニ進ムヘキ魯國軍隊ハ命令ノ如ク運動シ九月一日及ヒ二日ニ於テ「ロウアツツ」ニ對スル高地ニ展開シ三日ニ於テ攻撃ヲ

「セルウイ」ヨリ「ロウアツツ」ニ進ムヘキ魯國軍隊ハ命令ノ如ク運動シ九月一日及ヒ二日ニ於テ「ロウアツツ」ニ對スル高地ニ展開シ三日ニ於テ攻撃ヲ

施行ス而シテ此地ニアル土軍ノ一師團ヲ擊退ス土軍ハ西南「ミクレ」ニ退ク此日土軍ノ死傷三千人魯軍ノ損失之レニ半ハス

「ナスマンバシヤ」ハ其右翼即チ「ロウアツツ」ニ脅威ヲ受ルヤ自ラ兵ヲ率ヒテ之ヲ赴援ス然レトモ其來着ハ四日ニシテ已ニ戰鬥ノ後ナリシ故ニ暫時砲撃ノ後復タ「プレブナ」ニ退ク

魯軍ハ歩兵一旅團砲兵三中隊ヲシテ「ロウアツツ」ヲ留守セシメ他ハ直ニ「プレブナ」ニ向テ前進ス即チ五日ニ於テ其左翼ハ「ボコット」ニ達ス

此間「ルーマニ」國侯ハ自國ノ兵二師團及ヒ多クノ騎兵ヲ以テ來リ「プレブナ」附近ニアル魯國及「ルーマニ」國兩軍ノ指揮ヲ執ル

茲ニ於テ「プレブナ」攻撃軍ハ左ノ員數ヲ爲セリ

魯軍歩兵六十四大隊(四万人)

「ルーマニ」軍歩兵三十八大隊(二万人)



右ノ外騎兵四十八中隊野砲三百二十五門十五「サンチ」攻城砲十二門

總計約七万五千人

之レニ對峙スル土軍ハ約五万人ナリ

已ニ述ヘシカ如ク此日土軍總督ハ四角要塞ヨリ魯軍ノ左翼ヲ脅威セリ故ニ魯軍總督ハ速ニ西方「ナスマンパシヤ」ノ軍隊ヲ擊破シ然ル後軍ヲ轉シテ更ニ東方皇太子ノ軍ヲ援助セント欲ス

「プレブナ」附近ニ増援兵來着スルヤ攻撃軍ノ配置ハ左ノ如クナレリ

「ルーマニ」國三師團ハ「ブリスラン」「カリソウア」及ヒ「ウエルビツア」ニアリ

九月七日ヨリ其右翼ニ魯國及ヒ「ルーマニ」國ノ騎兵合シテ三十四中隊及ヒ徒

歩砲十八門アリ  
左翼即チ「ロウアツ」ヨリ前進スル魯國軍隊ハ「ボゴット」及ヒ「トウチエニツ」

Lowatz

Bogot

Toutschenitza

「プレブナ」ノ上流ニ向テ多クノ騎兵ヲ展開ス

「ルーマニ」國侯即チ攻撃司令官ハ本營ヲ「ボラヂム」ニ置ク「プレブナ」ニ對スル攻撃ハ實ニ防禦工事ニ向テ爲スモノナリ而シテ此突撃ハ九月十一日ヲ期シテ舉行セントス

今回ノ攻撃ニ於テ魯軍ハ十分ナル準備ヲ爲サント欲セリ依テ六日ヨリ七日ニ亘ル夜ニ於テ土軍ノ陣地ヲ距ル約二千米ノ地ニ數多ノ攻撃砲台及ヒ歩兵ノ塹溝ヲ築設セリ

七日ノ午前ニ於テ魯軍ハ百三十六門ノ砲ヲ以テ激烈ノ砲撃ヲ開始ス殊ニ十五「サンチ」攻城砲ハ魯國第九軍團ト「ルーマニ」軍ノ中間ニ位置シ專ラ「グリウイツア」附近ノ首ナル角面堡ニ向テ放射ス  
土軍モ亦此砲撃ニ對シ烈シク應射ス

魯國第九軍團ハ「グリウイツア」村ヲ占領ス此村落ハ土軍ノ有スル最大角面堡ノ前方ニアリ

「ロウアツ」ヨリ來リシ魯國軍隊ハ土軍ノ有スル二個ノ角面堡ニ對スル丘岡

ヲ占ム此丘岡ハ土軍之ヲ略取セサル可ラス然レモ土軍ハ五百人ヲ失フテ而シテ之ヲ得ス

八日魯軍ハ「クリツシン」ニ前進ス此高地ハ前回ノ攻撃ニ際シ魯將「スコベレフ」

一大隊ノ兵ヲ以テ土軍ノ豫備隊ト激戦セシ地ナリ今回ノ戦闘ニ在テハ魯軍ハ歩兵八大隊騎兵三中隊砲兵四中隊半ヲ以テ戦フ

此高地ニ縁岡ト稱スルモノアリ頗ル要地トナス何トナレハ土軍豫備隊ノ位置ヲ制シ得レハナリ此處ニ於テ頗ル激戦アリ

魯將「スコベレフ」ハ初メ五大隊ノ兵ヲ以テ此高地ヲ占ム然ルニ土軍ノ逆撃ヲ蒙リ僅ニ其南部ノミヲ保有スルヲ得タリ此戦ニ於テ「スコベレフ」ハ九百人ヲ

Skobelief

失フ土軍ハ九日十日ニ於テ更ニ二回ノ逆撃ヲ行フ第一ノ逆撃ニ際シテハ魯軍ハ「ロウアツ」ヨリ來リシ軍隊悉皆ヲ以テ抗戦ス十日ニ於ケル第二逆撃ニ對シテハ魯國第四軍團ノ一旅團戦ニ參與スルヲ得タリ  
此運動間「プレブナ」ノ前面ニ於テハ間斷ナク砲撃ヲ爲セリ  
如此五日間連續砲撃ノ后九月十一日ニ於テ諸方ヨリ突撃ヲ始ム  
右翼ノ騎兵ハ「リベン」ヨリ前進シ「ドルニードウブニアク」ニ於テ「ソヒヤ」ニ通スルノ道路ヲ斷絶ス  
實ニ此突撃ハ午后三時ナリ即チ諸隊ハ左ノ点ニ向フ  
一 右翼ニ於テ「ルーヌ」軍及ヒ魯國第九軍團ハ最大ナル角面堡  
一 中央ニ於テ第四軍團ハ「ラヂシエウチ」  
一 左翼ニ於テ「スコベレフ」ハ「クリツシン」  
前回ノ攻撃ニ於テ「ラヂシエウチ」ハ魯軍一旦之ヲ占領シタル後チ土軍ノ爲ン

ニ撃退セラレシノ地ナリ然ルニ今回ハ非常ノ損害ヲ蒙リシニモ關セス之レヲ  
 略取スルヲ得サリシ  
 之レニ反シ「グリウイツア」附近ノ最大ナル角面堡ハ之ヲ占領スルヲ得タリ是  
 レ前攻撃ノ際ニハ略取シ得サリシモノナリ  
 魯將「スコベレフ」ハ左翼「クリツシン」ニ於テ二個ノ野堡ヲ畧取ス然ルニ十二  
 日ニ至リ土將「オスマンパシヤ」ハ其首力ヲ以テ之ヲ逆襲セリ是レ此地ハ土軍  
 ノ豫備隊ヲ射撃シ得ルヲ以テ土軍ノ爲メニハ最緊要ノ地ナレハナリ又北面ニ  
 在ル魯國及ヒ「ルーマニ」ノ軍隊ハ「オスマンパシヤ」ヲシテ「クリツシン」地方  
 ニ其兵力ヲ專用シ得ルノ自由ヲ妨クル能ワサリシナリ  
 「スコベレフ」將官ハハ大隊ノ兵員ヲ以テ殆ント人力ノ企テ及フ可ラサル如キ  
 抵抗ヲ爲セリ然レ厄後援ノ兵ナク終ニ此高地ヲ土軍ノ手ニ委テタルノミナラ  
 ス彼ノ縁岡ヲモ保守スル能ハサルニ至レリ

編者記ス此  
 日魯士兩軍  
 ハ各其五分  
 一ヲ死傷ス

如此景狀ニシテ魯軍ハ九月十二日ニ於ケル第三ノ攻撃ヲモ仕遂ケルヲ得ス五  
 日間砲撃ヲ以テ準備シタル後唯僅ニ「グリウイツア」附近ノ角面堡一個ヲ畧取  
 シ得シノミ此日魯軍ノ死傷一万六千人土軍モ亦一万人ヲ失フ  
 土軍ハ尚ホ「ソヒヤ」ヨリ増援兵及ヒ糧食ヲ取ルヲ得タリ  
 魯國及ヒ「ルーマニ」國ノ連合軍ハ「アレブナ」ヲ略取スルヲ腕力ヲ以テスル  
 ナ断念セリ故ニ長圍ヲ爲スニ決ス然レモ魯國內地ヨリ増加兵ノ來着セサル間  
 ハ「アレブナ」西方ノ面ハ唯騎兵ヲ以テ僅ニ包圍スルヲ得ルノミ此目的ノ爲メ  
 兩國連合ノ騎兵五十中隊及ヒ三十門ノ騎砲兵ヲ「ドルニードウブニアク」附近  
 ニ差遣ス然レモ此騎兵ハ「ソヒヤ」ヨリ「アレブナ」ニ進來スル軍隊ヲ妨碍スル  
 能ワサリシ  
 魯軍總督ハ此時ニ至ルモ尙未ダ一般ノ考案ヲ攻撃ノ策ニ取ラント欲セリ  
 此間土將「スレイマンパシヤ」ハ更ニ「シプカ」峠ノ攻撃ヲ企ツ已ニ知ル如ク峠

土將「スレ  
 イマンパシ  
 ヤ」ノ「シ  
 プ」ノ「攻  
 撃」ニ對ス

左右ノ高地ハ土軍ノ有タリ而シテ絶エス魯軍背後ノ連絡ヲ妨碍ス  
此休戦間魯土兩軍ハ各其陣地ニ工事ヲ施ス而シテ土軍ハ其陣地ヨリ絶エス魯  
軍ノ陣地ヲ射撃ス之レカ爲メ魯軍ノ死傷スルモノ毎日四十人

「スレイマンパシヤ」ハ更ニ侵襲ヲ行ワシカ爲メ三千人ノ壯兵ヲ募レリ  
*Suleiman pacha*

抑モ土耳其國ノ宗旨(マホメット宗)ニ在テハ宗敵ノ爲メニ倒ル、ヲ以テ無上  
ノ榮譽トナス土國人民ハ此戦争ヲ以テ宗旨戦ト思考ス故ニ此壯兵ハ此無限ナ  
ル幸福ヲ得ンカ爲メ身命ヲ犠牲トナシテ無比ノ勇戦ヲ爲サント欲セリ

「スレイマンパシヤ」ハ此壯兵ヲ三分シ各一千人ノ縱隊トナス  
*Suleiman pacha*

九月十七日此三縱隊ヲシテ「ニコラス」山ノ南面、西南及ヒ東南ノ面ヨリ突撃  
セシム此各縱隊ノ背后ニハ歩兵各六大隊續行ス  
*St.Nicolas*

南面ヨリ進ミシ壯兵ノ縱隊ハ午前六時「ニコラス」山ノ麓ニ達ス依テ急ニ魯軍  
ノ前哨ヲ襲ヒ之ヲ退ケ更ニ進テ魯軍ノ野堡ヲ侵畧ス之レニ續行スル歩兵大隊  
*St.Nicolas*

ハ系堡攻撃ス

東南ヨリ進ミシ縱隊ハ魯軍ノ本陣地ニ向テ攻撃ス而シテ其壯兵ハ野堡ヲ侵畧  
セシモ之レニ續行スル歩兵六大隊ハ魯軍ノ爲メニ撃退セララル

西南ヨリ進ミシ縱隊ハ敵ノ右翼ヲ迂迴セントセシモ果サス

「ニコラス」山ヲ攻撃セシ土軍ノ壯兵ハ最モ苦戦ス殊ニ魯軍大兵ヲ以テ逆撃ス  
*St.Nicolas*

ルニ及ンテ土軍壯兵ハ奮戦力闘セシモ他ニ援助ナキヲ以テ支ユル能ワス正午  
十二時ニ至テ此地ハ全ク魯軍ノ有ニ歸セリ土軍壯兵ノ生還スルモノ殆ント稀  
ナリ土軍ハ約三千人ヲ失フ

魯軍ハ辛フシテ「シプカ」峠ヲ保持スルヲ得シモ千人ヲ失ヘリ  
*Schipka*

「スレイマンパシヤ」ハ「シプカ」峠ノ首ナル攻撃ヲ仕損セシト共ニ第二ノ峠ニ  
向テモ亦攻撃ヲ失敗セリ  
*Suleiman pacha* *Schipka*

如斯ノ景況ニ至リシモ尚ホ「スレイマンパシヤ」ハ「メヘメーアリ」ノ令下ニ在  
*Suleiman pacha* *MehemetAli*